

大町市少子化社会における義務教育のあり方検討委員会

報 告 書

令和 2 年 1 月 29 日

— 目 次 —

はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・	1
1 検討に当たっての視点・・・・・・・・	2
2 検討の経緯等・・・・・・・・	3
3 検討事項等の現況・・・・・・・・	4
4 教育環境及び教育行政上の課題・・・・・・・・	6
5 提言・・・・・・・・	7
6 その他・・・・・・・・	9
資料編・・・・・・・・	11

はじめに

国際化や情報化、グローバル化など、大きな変化と共に急激な少子高齢化が進行し、将来を見通すことが困難な時代を迎え、これからの社会を担う子どもたちには、主体性をもって自ら未来を切り開く知恵と勇気と力が求められています。とりわけ義務教育においては、社会の担い手として仲間や周囲の人々と協働しながら新たな社会を形成していくための基礎的な学力や体力、創造力の習得が強く求められています。こうした社会状況を踏まえ、文部科学省では、それぞれの地域の実情に応じた活力ある学校づくりの指針として、平成 27（2015）年 1 月に、60 年ぶりに「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引」を策定しました。

当市におきましても年間 140 人前後の出生数となっており、少子化の進行は著しいものとなっています。例えば、旧大町市内の小中学校ではいくつかの学年で単学級となる事態を迎えており、近い将来、全ての小中学校において単学級の学年がさらに増加することが見込まれています。また、中学校においても各学年ともに 2 学級ないし 3 学級で、部活動では団体種目等の存続が困難になるなど、学校の小規模化への対応が差し迫った課題となっています。

こうした状況に対して、大町市教育委員会では、平成 30（2018）年に大町市少子化社会における義務教育のあり方検討委員会（以下、検討委員会）を設置し、20 人からなる委員は、少子化社会に伴う児童・生徒数の減少に対応した教育環境や義務教育のあり方に関して議論を進めてきました。検討委員会では、教育委員会に市民や保護者を対象としたアンケートの実施や関係資料の提出を求めると共に、学校教職員や教育委員会事務局等からは現状と課題に関する聞き取り調査を行い、8 回の検討委員会と 3 回の研究部会を開催し、鋭意、検討を進めてまいりました。

以下に検討を踏まえた提言を取りまとめましたので、ここに報告いたします。今後はより多くの住民の意見等の聴取に努め、これからの大町市の義務教育のあり方について具体的な施策が講じられることを求めます。

なお、少子化に伴う課題に対しては、教育行政にとどまらず市政全般に関わることから、総合計画をはじめとする大町市の各種施策において、少子化・人口増対策が積極的に講じられていくことを期待します。

1 検討に当たっての視点

国際化や情報化などグローバルな社会状況を踏まえ、文部科学省では平成30(2018)年度に「新しい時代に必要となる資質・能力の育成と学習評価の充実」を根底に、「人生や社会に生かす学びに向かう力・人間性等の涵養」、「生きて働く知識・学力・技能の習得」、「未知の状況に対応できる思考力・判断力・表現力等の育成」等を基本方針とする新しい学習指導要領を公表しました。

大町市でも第5次総合計画で定めた「未来を育む 人が輝く 信濃おおまち」の将来像を基本に、「伝統や文化に立脚した幅広い視野をもち、自らの将来を創造し、実現するために必要な資質や能力を育む協働の学び」を実現していくために様々な取組みが行われています。具体的には、学校内外の安全・安心の確保と人権教育の推進、コミュニティ・スクール化の推進、地域に開かれた信頼される学校づくり、学力・体力の向上、不登校・不適応・いじめの根絶、特別支援教育・外国語指導・キャリア教育の充実等が挙げられます。また、少子化に対応した取組みとして、異学年間の交流や学年を越えた活動を取り入れ、上級生が下級生を指導するなどできるだけ広範で幅広い交流を図ると共に、小中連携や音楽会、体験入学、立川市との交流など、広い視野を養う様々な機会が提供されてきました。

一方で、学校現場や教育委員会事務局からの聞き取りでは、急激な少子化の進行に伴い、こうした施策だけでは、具体的な課題に十分に対応できない面もあること、特に学校管理上、学校事務や給食関係、学習支援などの人件費が高いこと、施設の維持管理等に関して少ない職員で広い施設やグラウンド等を維持しなければならないことなど様々な問題も生じていることが確認されました。また、児童・生徒数の減少は、学習指導や生活指導の面で、教職員が全児童・生徒を把握でき、きめ細かな指導が可能となるといったメリットがある反面、交流する範囲や交友関係が限定的で、団体競技や表現なども制約されたものになるなど、児童・生徒が切磋琢磨し成長する機会の減少につながっているとの課題も明らかとなりました。

そこで、検討委員会では、広報等を通じて市民に広く大町市における義務教育の現状と課題について周知を図ることや市民アンケートと保護者アンケートを実施することを教育委員会に求めました。また、検討委員会が設置した研究部会では、コミュニティ・スクール化に伴って設置した学

校運営協議会や学校運営委員会、児童・生徒やPTAなど保護者の方々の意見を聴取し、「地域とともにある学校づくり」の視点に立った検討を行い、少子化を踏まえた学校運営上の施策の充実の観点と通学区の改編や通学手段等ハード事業を含めた対策という2つの面から、今後取り組むべき施策について広く議論を行いました。

以下に、検討委員会で取り上げた主要な課題や協議事項について列記します。

2 検討の経緯等

検討委員会及び研究部会の開催状況、関係者等からの意見聴取の経過は、以下のとおりです。

(1) 検討委員会の開催状況

期 日	会議名等	主な検討内容等
H30年7月27日	第1回検討委員会	児童・生徒数の推移、学校教育の現状、国・県・大町市の取組みについて説明、情報共有
H30年11月15日	第2回検討委員会	各校、団体から出された、少子化に伴う課題、効果などの検討及び学校評価に併せた第1回保護者アンケートについて
H31年2月8日	第3回検討委員会	第1回保護者アンケート結果の報告
H31年3月20日	第4回検討委員会	市民アンケートの内容検討、広報紙の記事「大町市の義務教育の状況」の内容確認、研究部会の設置について
R1年7月3日	第5回検討委員会	市民アンケート結果の報告及び研究部会における協議内容の報告、市民アンケート結果を受けての第2回保護者アンケートの実施について
R1年11月6日	第6回検討委員会	第2回保護者アンケート結果の報告、研究部会における協議内容の報告、検討委員会の報告書(素案)の検討
R1年12月26日	第7回検討委員会	検討委員会の報告書(案)の検討
R2年1月22日	第8回検討委員会	検討委員会の報告書のまとめ

(2) 研究部会の開催状況

期 日	会議名等	主な検討内容等
R1 年 6 月 25 日	第 1 回研究部会	研究部会の役割、市民アンケート結果の報告、少子化に伴う課題の整理
R1 年 10 月 16 日	第 2 回研究部会	第 2 回保護者アンケート結果の報告、学校及び市教委が捉える少子化に伴う課題の情報共有
R1 年 11 月 1 日	第 3 回研究部会	検討委員会の報告書（素案）の検討

(3) 青少年育成市民大会、PTA 役員との懇談、学校運営協議会・委員会、教育長と学校教職員懇談等

期 日	会議名等	主な検討内容等
H30 年 11 月～ H31 年 1 月	第 1 回保護者アンケート	市内小・中学校全保護者を対象に実施
H31 年 4 月	広報おおまち 4 月号 記事掲載	特集記事「少子化社会における義務教育のあり方を検討」及び市民アンケート告知
R1 年 5 月	市民アンケート	18 歳以上の市民 1000 人を無作為抽出し実施
R1 年 7 月～ R1 年 8 月	第 2 回保護者アンケート	市民アンケートの設問と同じ内容で、市内小・中学校全保護者を対象に実施
R1 年 8 月 24 日	青少年育成市民大会 第 1 分科会	「少子化社会を踏まえた教育環境のあり方」をテーマに、大会参加者がグループ別に討議し、今後の義務教育について意見交換
R1 年 11 月 27 日	PTA 役員との懇談 (教育懇談会)	少子化社会を踏まえた教育環境のあり方についてグループ別に懇談
R2 年 1 月	広報おおまち 1 月号 記事掲載	特集記事「大町市の義務教育に関するアンケート結果」で、市民アンケート及び保護者アンケートの主な設問と結果等をお知らせ
随時	学校運営協議会・委員会	市民アンケートの結果等をお知らせし、各校ごとに今後の義務教育について意見を伺う
随時	教育長と学校教職員 懇談	学校訪問時に教育環境のあり方などを個別に懇談（令和元年度に各校 1 回）

3 検討事項等の現況

(1) 児童・生徒数の推移と将来推計

- ① 大町市の児童・生徒数は、平成 19 (2007) 年には 2,810 人であったのに対して、平成 28 (2016) 年には 2,005 人と、10 年間で約 800 人減少し、令和 6 (2024) 年にはさらに減少して 1,515 人程度になると

推計されています。

- ② 大町市の出生者数は、平成 30 (2018) 年度は 137 人、最近 5 年間の平均は 157 人で、今後も概ね 150 人未満で推移することが推計されています。
- ③ 令和元 (2019) 年度時点で、小学校(美麻小中学校を含む) 6 校中 4 校で単学級の学年があり、近い将来、市内全校に単学級の学年が存在することが予想されています。

※「資料 1 児童・生徒数の推移」、「資料 2 学校区別出生者数」参照

(2) 通学区と小規模特認校制度の状況

- ① 現在の大町西小学校は、通学区が中学校の通学区と整合しておらず、卒業生は、第一中学校と仁科台中学校へ分かれて進学しています。
- ② 東小学校、北小学校、第一中学校、仁科台中学校の通学区は、自治会や公民館、育成会等の住民組織の活動範囲と一致しておらず、コミュニティ・スクールを推進していく上で課題となっています。
- ③ 旧大町市内から、美麻小中学校、八坂小学校、八坂中学校へ通学することは小規模特認校制度として認められています。

※「資料 3 現況の通学区」参照

(3) 学校施設

- ① 旧大町市内の中学校 2 校 (第一中学校、仁科台中学校) は、近年、大規模改築事業が行われ施設環境の充実が図られていますが、旧大町市内の 4 小学校 (東小学校、西小学校、南小学校、北小学校) については、耐震改修に併せて大規模改造事業や体育館棟の耐震化を行ったものの、校舎の大部分は建築後 30 年以上経過しており、給排水施設等の老朽化が著しい状況にあります。
- ② 八坂小・中学校を除き、大町市内の小・中学校各校に給食室が置かれ、自校方式で学校給食を進めています。児童・生徒数の減少に伴い食材の調達や調理員等の確保が困難となっています。
- ③ 現状よりはるかに大規模であった時の校舎やグラウンド、施設等を少数の教職員で維持管理することが困難となっています。

4 教育環境及び教育行政上の課題

(1) 小学校における課題

- ① 学級数の減少により、理科、家庭科、音楽等の専科教員の配置が困難となっています。特に、理科については14学級以上（特別支援学級を含む）でないと配置されないため、市内のほとんどの学校で理科の専任教員が配置されない状況になりつつあります。
- ② 教員数の減少により、習熟度別指導や教科担任制等の多様な指導方法を行うことが困難となっています。
- ③ 教員数の減少により、行事の内容や時間、幅等が狭くなっています。
- ④ 1学級当たりの児童数の小人数化によりグループ形式の指導等がしやすくなるという意見がある一方で、授業の中で児童からの多様な発言が引き出しにくくなり、授業の組み立てが難しくなっています。
- ⑤ 児童数の減少により、男女の偏りが生じやすく、指導に配慮が必要となっています。

(2) 中学校における課題

- ① 各教科に複数の教員を配置することができないため、習熟度別指導等を円滑に行うことが困難となっています。
- ② 教員数や生徒数が限られているために、選択できる部活動の種目が限られたり、選手が足りないために団体競技等も限られたものになっています。このため、生徒が自己を発揮できる機会が限定されたものとなっています。
- ③ 専科教員を配置できないため、非免許（免許外）で教科担任を行うケースなどが増加しています。

(3) 小学校及び中学校に共通の課題

- ① 単独学級の学年においてはクラス替えができないなど、人間関係が限られたものになり、コミュニケーション能力の向上や円滑な人間関係の構築等に支障が出る可能性があります。
- ② 児童・生徒間で切磋琢磨する機会が少なくなり、組織的で機能的な子どもの集団づくりが困難となる可能性があります。

- ③ 学校規模の縮小に伴い教職員数も減少するため、十分に授業研究等の時間の確保ができない状況が生まれています。授業の組み立てが難しくなるだけでなく教職員一人当たりの校務負担が重くなっています。

(4) 教育行政上の課題

- ① ICTの活用など、学習環境の整備や快適な施設環境の整備を一律に実施することが財政上困難な状況となっています。
- ② 給食食材の調達や調理員の確保が困難な状況になっています。
- ③ 公民館活動地区と通学区が異なる地域においては、育成会や公民館活動と学校との円滑な連携が図りにくい状況となっています。

5 提言

検討委員会においては、大町市の義務教育の現状と課題を以上のように共有した上で、保護者や教職員、学校運営協議会や委員会等の意見を聴取し、また市民アンケートと2度にわたる保護者アンケートを実施しました。これらの結果を踏まえて、少子化社会に伴う児童・生徒数の減少に対応した教育環境及び義務教育のあり方に関して、以下の通り提言します。

なお、これらの提言によって少子化に伴うすべての課題が解決できるわけではないので、今後も社会状況や少子化の進行に応じて、様々な面から検討を重ねていくことが重要と考えます。

(1) 通学区の見直しと旧市内における小・中学校の再編

平成18(2006)年の市町村合併以前の大町・平・常盤・社の区域の小学校4校及び中学校2校においては、文部科学省が法令上の標準として示している「小・中学校ともに12学級以上18学級以下」の学校規模を基本として、通学距離や通学時間・通学手段等を考慮し、児童・生徒が安全に通学できる環境を確保していく観点から、小学校2校と中学校1校を基本として通学区の見直しと再編を行う必要があります。これにより、専科教員の確保、習熟度や課題別など指導方法による授業内容の充実、部活動などの多様な機会の確保、社会性を醸成する集団づくり等の課題を解決してい

く糸口となると思われます。

なお、八坂小学校及び八坂中学校、美麻小中学校につきましては、①山村留学制度との関係や影響、②通学に要する距離や時間の関係、③地域コミュニティとの関係、④多様な教育課題に対して果たしている役割などを考慮し、当面は現状を維持することとし、小規模校としての特色を活かし、市全体の義務教育の振興に寄与する学校づくりを引き続き進めていただきたい。

(2) 幼児教育から義務教育まで一貫した教育の推進

異学年交流等による精神的な発達を促し、幼児期から小・中学校までを見通した系統的な教育を実現するために、通学区の再編に合わせ教育に関する総合的なビジョンを策定するなど、幼稚園児や保育園児に対する幼児教育から小・中学校における義務教育まで一貫した方針に基づく教育を推進していただきたい。

また、幼稚園、保育園及び認定こども園等における指導をベースとして、小学校入学時の集団への適応性を高めると共に、いわゆる「中1ギャップ」(小学生が中学校に進学した際、学校生活や授業のやり方など環境の変化に馴染めず、不登校やいじめの増加などが生じる現象)などの課題に対応した中学校進学を可能とする小中一貫教育を整備していただきたい。なお、そこでは、以下の観点を重視していただきたい。

- ① 一貫した子ども理解と指導の継続性の実現
- ② 一貫した体系的な教育と学習目標の設定
- ③ カリキュラムや学習内容の体系性・系統性の確保

(3) 学校施設の整備等教育環境の充実

小・中学校の再編に併せ、老朽化が進んでいる小学校施設の整備を実現すると共に、近年、改築された中学校施設についても点検整備に努め、児童・生徒の安全確保の徹底を図っていただきたい。また、快適な教育環境の実現や時代の要請に対応した情報機器の導入など、必要な改修や整備を計画的に実施し、教育環境の充実を図っていただきたい。

(4) 地域とともにある学校づくりの推進

小・中学校は、未来を担う子どもたちを育む重要な施設であると共に、地域コミュニティの核としての性格を有し、まちづくりや地域社会の発展と密接不可分な関係にあります。従って、学校運営に地域社会の参画を得ながら地域に根付いたコミュニティ・スクールの一層の充実と推進を図っていただくと共に、地域と学校のつながりを堅持できるよう、自治会、公民館、育成会等の住民組織の単位と通学区について整合性を図るなど最大限の配慮をしていただきたい。

6 その他

なお、少数意見として、次の2点がありました。

- ① 旧市内の小学校の再編については、今後も少子化の進行が継続すると見込まれることから1校に再編することでいかがか。
- ② 幼児教育から義務教育まで一貫した教育の推進を図るため、新たな教育大綱又は教育振興基本計画の策定をすべきである。

資 料 編

大町市少子化社会における義務教育のあり方検討委員会設置要綱	・ ・ 1 3
大町市少子化社会における義務教育のあり方検討委員会委員名簿	・ ・ 1 4
大町市少子化社会における義務教育のあり方検討委員会 研究部会委員名簿	・ ・ 1 5
資料 1 児童・生徒数の推移	・ ・ ・ ・ ・ 1 6
資料 2 学校区別出生者数	・ ・ ・ ・ ・ 1 8
資料 3 現況の通学区	・ ・ ・ ・ ・ 1 9
資料 4 義務教育に関する市民アンケート調査結果	・ ・ ・ ・ ・ 2 0
資料 5 義務教育に関する第 1 回保護者アンケート調査結果	・ ・ ・ ・ 4 7
資料 6 義務教育に関する第 2 回保護者アンケート調査結果	・ ・ ・ ・ 9 0
資料 7 教員配当基準	・ ・ ・ ・ ・ 1 2 1
資料 8 研究部会で作された意見	・ ・ ・ ・ ・ 1 2 2

○大町市少子化社会における義務教育のあり方検討委員会設置要綱

平成30年2月26日

教育委員会告示第3号

(設置)

第1 児童生徒数の推移を踏まえ、将来を展望した大町市立学校の義務教育のあり方について総合的な見地から検討するため、大町市少子化社会における義務教育のあり方検討委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

(所掌事項)

第2 委員会は、少子化による児童生徒数の減少に対応した教育環境及び市における義務教育のあり方について調査研究し、検討を行う。

(組織)

第3 委員会は、委員20人以内をもって組織し、次に掲げる者のうちから教育委員会が委嘱し、又は任命する。

(1) 大町市立学校の代表者

(2) 大町市立学校PTAの代表者

(3) 大町市学校運営協議会の代表者

(4) 大町市学校運営委員会の代表者

(5) 大町市連合自治会の代表者

(6) 識見を有する者

(7) 公募による市民等

(8) 前各号に掲げる者のほか、教育委員会が必要と認める者

2 委員の任期は、委嘱又は任命の日から2年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長及び副委員長)

第4 委員会に委員長及び副委員長を置き、委員が互選する。

2 委員長は、委員会を代表し、会務を総理する。

3 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるときは、その職務を代理する。

(会議)

第5 委員会の会議は、委員長が招集し、議長となる。

2 委員会の会議は、委員の過半数以上が出席しなければ、これを開くことができない。

3 委員長は、必要があると認めるときは、委員以外の者を会議に出席させ、説明又は意見を聴くことができる。

(補助組織)

第6 委員会の調査研究を補助するため、部会を置くことができる。

2 部会員は、教育委員会が委嘱し、又は任命する。

3 部会員の任務及び任期については、教育委員会がその都度定める。

(庶務)

第7 委員会の庶務は、教育委員会学校教育課において行う。

(委任)

第8 この要綱に定めるもののほか、この要綱の施行に関し必要な事項は、教育委員会が別に定める。

附 則

この要綱は、告示の日から施行する。

大町市少子化社会における義務教育のあり方検討委員会委員名簿

(敬称略)

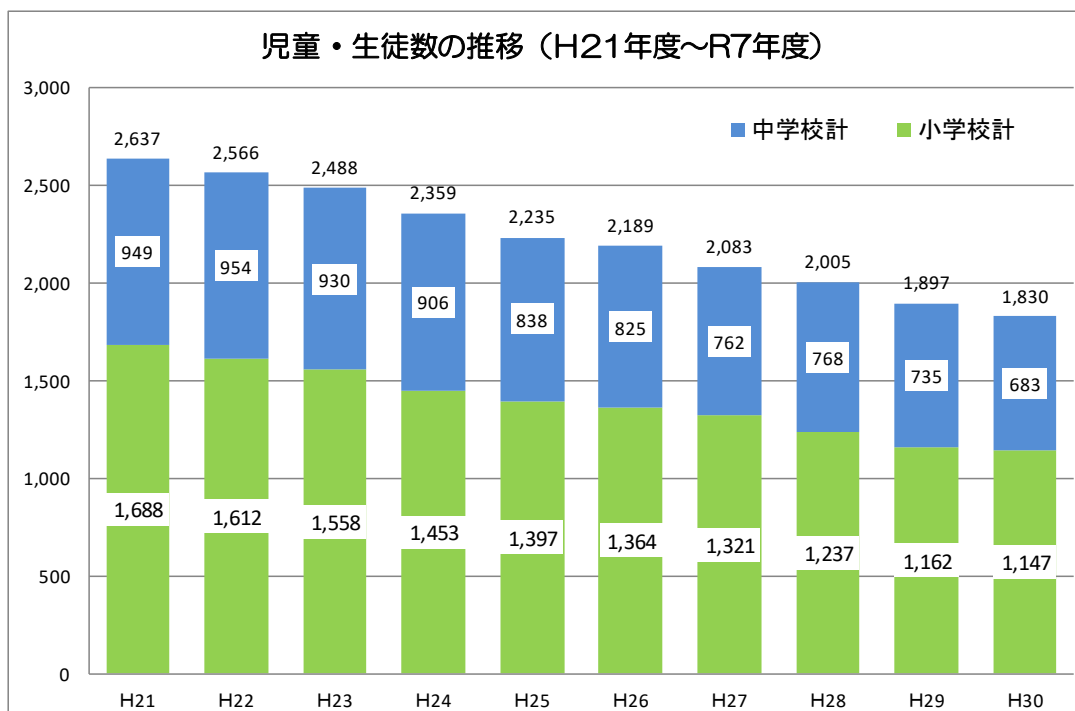
役職	氏名	所属等	備考
委員長	柳澤 英幸	大町西小学校運営委員会代表	
副委員長	勝野 英男	第一中学校運営委員会代表	
委員	山崎 晃	市内校長会	
委員	縣 邦彦	市内校長会	
委員	続麻 純生	大町市PTA連合会会長	令和元年6月24日まで
委員	立川 史明	〃	令和元年6月25日から
委員	山崎 雅之	大町市PTA連合会副会長	令和元年6月24日まで
委員	中村 敦	〃	令和元年6月25日から
委員	百瀬 泰慶	大町東小学校運営委員会代表	
委員	小林 平八	大町南小学校運営委員会代表	平成31年3月19日まで
		大町市連合自治会会長	平成31年3月20日から
委員	菅沢 一彦	大町南小学校運営委員会代表	平成31年3月20日から
委員	海川 明文	大町北小学校運営委員会代表	
委員	堀 祐介	仁科台中学校運営委員会代表	
委員	北澤 豊繁	八坂学校運営協議会代表	
委員	北沢 伊紘男	美麻学校運営協議会代表	
委員	中村 勝彦	大町市連合自治会会長	平成31年3月19日まで
		大町市社会福祉協議会会長	令和元年6月25日から
委員	宮沢 雄一	大町市連合自治会副会長	平成31年3月19日まで
委員	飯沢 壮一	〃	平成31年3月20日から
委員	荒井 英治郎	識見を有する者	
委員	高橋 克好	公募による者	
委員	吉澤 義雄	大町市副市長	
委員	谷林 夏季	大町市保育園保護者会連合会会長	令和元年6月24日まで
委員	重田 あまな	〃	令和元年6月25日から
委員	金原 徹	幼稚園保護者代表	
委員	奥村 剛	大町市社会福祉協議会会長	令和元年6月24日まで

大町市少子化社会における義務教育のあり方検討委員会
研究部会員名簿

(敬称略)

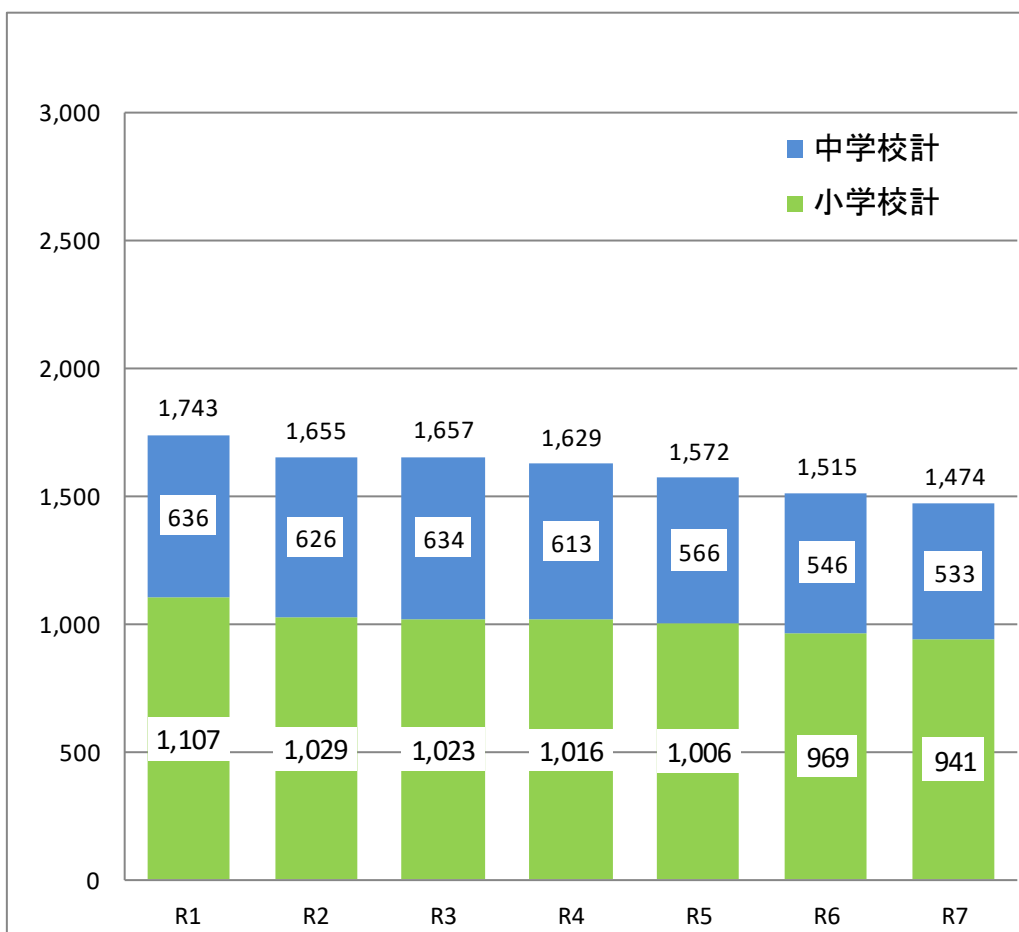
役職	氏名	所属等
部会長	高橋 克好	公募による者
副部会長	勝野 英男	第一中学校運営委員会代表
会員	山崎 晃	市内校長会
会員	立川 史明	大町市PTA連合会会長
会員	海川 明文	大町北小学校運営委員会代表
会員	北澤 豊繁	八坂学校運営協議会代表
会員	小林 平八	大町市連合自治会会長
会員	重田 あまな	大町市保育園保護者会連合会会長
会員	藤井 一男	識見を有する者

資料 1 児童・生徒数の推移



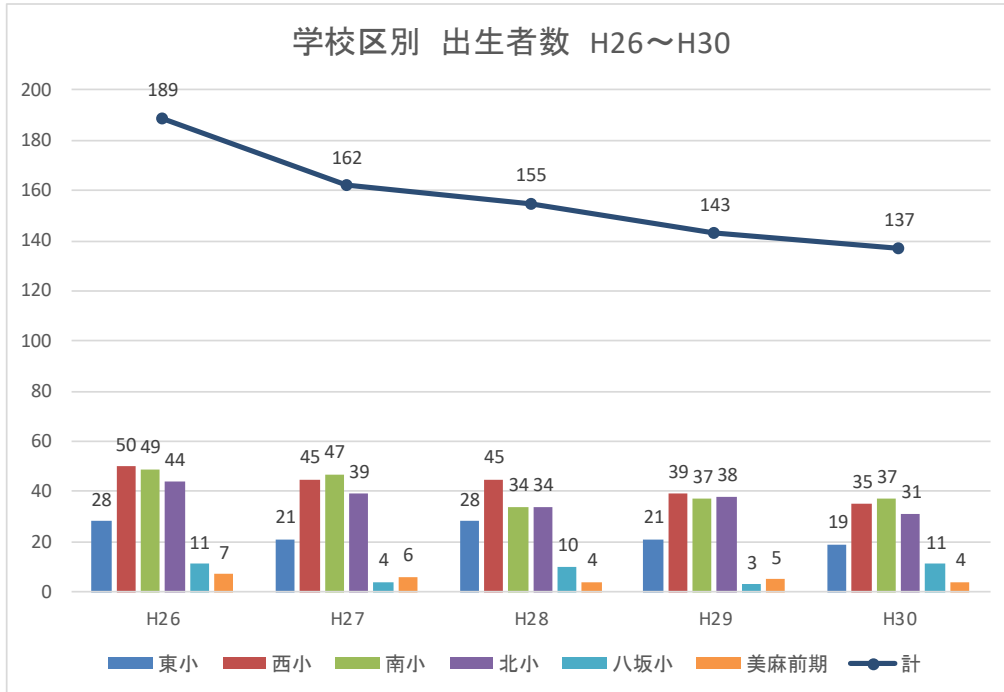
	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
東小	290	278	272	235	228	222	216	207	184	189
西小	347	323	326	312	307	297	298	272	259	260
南小	421	412	391	374	350	349	334	298	295	280
北小	495	473	452	425	415	397	385	367	341	326
八坂小	67	58	55	51	50	50	44	39	35	36
美麻前期	68	68	62	56	47	49	44	54	48	56
小学校計	1,688	1,612	1,558	1,453	1,397	1,364	1,321	1,237	1,162	1,147
一中	368	373	362	336	307	296	284	275	271	257
仁中	489	496	483	491	467	460	404	417	394	366
八坂中	48	46	46	41	31	30	33	35	33	27
美麻後期	44	39	39	38	33	39	41	41	37	33
中学校計	949	954	930	906	838	825	762	768	735	683
総数	2,637	2,566	2,488	2,359	2,235	2,189	2,083	2,005	1,897	1,830

- 令和元年度以前の児童生徒数は、毎年5月1日を基準日とした実績値である。
- 令和元年度以前の児童生徒数には、市内小中学校以外に在籍する児童生徒数を含んでいない。
- 児童生徒数の令和2年度以降の将来推計については、平成31年4月1日現在に住民登録のある未就学児、児童及び生徒数を各学校の通学区ごとに調べ、その人数が次年度以降もそのまま新学年に進むものとして求めた児童生徒数である。
- 令和2年度以降の八坂小、八坂中、美麻小及び美麻中の児童生徒数は、前5年間の山村留学生の平均値を加算した推計値である。
- 令和2年度以降の将来推計は、市内小中学校以外へ進学する児童生徒数を予測できないため調整していない。
- 令和2年度以降の将来推計は、小規模特認校制度利用者予測数を含めていない。



	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
東小	179	172	168	152	156	148	146
西小	254	247	248	266	266	259	247
南小	274	252	255	263	252	242	241
北小	301	280	263	248	236	231	217
八坂小	45	35	43	46	52	49	52
美麻前期	54	43	46	41	44	40	38
小学校計	1,107	1,029	1,023	1,016	1,006	969	941
一中	252	229	234	211	202	180	174
仁中	325	334	337	332	312	313	308
八坂中	24	32	36	36	24	21	26
美麻後期	35	31	27	34	28	32	25
中学校計	636	626	634	613	566	546	533
総数	1,743	1,655	1,657	1,629	1,572	1,515	1,474

資料2 学校区別出生者数



(人)

	H26	H27	H28	H29	H30
東小	28	21	28	21	19
西小	50	45	45	39	35
南小	49	47	34	37	37
北小	44	39	34	38	31
八坂小	11	4	10	3	11
美麻前期	7	6	4	5	4
計	189	162	155	143	137
平均	157				

資料3 現況の通学区

学校名	通 学 区
大町西小学校	大町のうち大黒町、相生町、九日町、六九町、上仲町、下仲町、名店街、高見町、南原町、堀六日町、白塩町、山田町、北山田町、宮田町、幸町、北原町、十日町、桜田町、若宮町、東若宮町、西若宮町、高根町、大新田町及び和町
大町北小学校	平の全区域及び大町のうち三日町、俵町、不二塚町、大原町、大原2号団地、中原町、東中原町、栄町及び若原町
大町南小学校	常盤の全区域
大町東小学校	社の全区域及び大町のうち八日町、神栄町、五日町、旭町、日の出町、仁科町、光明町、東町、下白塩町及び昭電第二・七・八アパート
八坂小学校	八坂、八坂菖蒲
第一中学校	平の全区域及び大町のうち三日町、俵町、不二塚町、大黒町、相生町、九日町、六九町、白塩町、山田町、北山田町、大原町、大原2号団地、中原町、東中原町、栄町、幸町、宮田町、若原町及び和町
仁科台中学校	常盤及び社の全区域並びに大町のうち上仲町、下仲町、名店街、八日町、神栄町、五日町、旭町、日の出町、仁科町、光明町、高見町、南原町、堀六日町、東町、下白塩町、北原町、十日町、桜田町、東若宮町、西若宮町、若宮町、大新田町、高根町及び昭電第二・七・八アパート
八坂中学校	八坂、八坂菖蒲
美麻小中学校	美麻の全区域

※備考 本通学区は、行政区（住民基本台帳への記載において、任意に割り振られる地区名）に準ずる。

大町市立学校の通学区を定める規則 抜粋
 （昭和40年教育委員会規則第1号）
 最終改正：平成29年教委規則第3号

資料4 義務教育に関する市民アンケート調査結果

【調査の概要】

1 調査の目的

市では、急激に少子化社会が進み、今後、ますます児童・生徒数が減少していくことが予想される。将来を展望した義務教育のあり方について、総合的に検討するための基礎資料とする。

2 調査項目

回答者自身に関する設問5項目、1学年あたりの学級数、1学級（クラス）あたりの児童・生徒数、通学時間、子どもたちに育みたい能力の項目など、選択式の設問9項目と自由記載する設問1項目の計15項目。

3 調査方法

- (1) 調査地域 市全域
- (2) 調査対象 市内に住む18歳以上の男女1,000人
- (3) 抽出方法 住民基本台帳マスターファイルから等間隔無作為抽出
- (4) 調査方法 郵送方式（配布・回収とも）
- (5) 調査期間 令和元年5月8日～31日（24日間）

4 集計結果

(1) 居住区別

	大町	平	常盤	社	八坂	美麻	計
対象者	454	163	241	79	30	33	1,000
回収数	185	67	90	34	13	15	404
未回収	269	96	151	45	17	18	596
回収率	40.7%	41.1%	37.3%	43.0%	43.3%	45.5%	40.4%

(2) 世代別

	発送数	回収数	男性	女性	無回答	回収率
10代	20	5	2	3	0	25.0%
20代	88	23	11	12	0	26.1%
30代	98	33	12	20	1	33.7%
40代	148	56	25	31	0	37.8%
50代	144	59	35	23	1	41.0%
60代以上	502	228	97	130	1	45.4%
合計	1,000	404	182	219	3	40.4%

(3) 居住区、年齢、性別

	性別	10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	小計	合計
大町	男性	1	8	6	10	17	47	89	185
	女性	1	7	9	9	10	59	95	
	無回答	0	0	0	0	0	1	1	
平	男性	0	0	1	3	6	15	25	67
	女性	2	1	5	6	2	25	41	
	無回答	0	0	0	0	1	0	1	
常盤	男性	1	0	4	5	6	19	35	90
	女性	0	2	4	13	6	29	54	
	無回答	0	0	1	0	0	0	1	
社	男性	0	1	0	5	2	10	18	34
	女性	0	1	0	1	3	11	16	
	無回答	0	0	0	0	0	0	0	
八坂	男性	0	1	0	1	2	3	7	13
	女性	0	1	1	1	1	2	6	
	無回答	0	0	0	0	0	0	0	
美麻	男性	0	1	1	1	2	3	8	15
	女性	0	0	1	1	1	4	7	
	無回答	0	0	0	0	0	0	0	
合計	男性	2	11	12	25	35	97	182	404
	女性	3	12	20	31	23	130	219	
	無回答	0	0	1	0	1	1	3	
	全体	5	23	33	56	59	228	404	

(4) 家族構成

			子ども	孫	配偶者	親	その他	同居者なし	無回答
居住区分	大町	282	78	16	107	43	15	18	5
	平	114	34	7	47	15	3	5	3
	常盤	154	47	9	55	31	5	5	2
	社	53	14	3	20	8	5	2	1
	八坂	20	4	1	8	3	1	1	2
	美麻	20	3	0	10	5	0	2	0
	計	643	180	36	247	105	29	33	13

(5) 就学先

		保育園	幼稚園	小学校	中学校	その他	無回答
居住区分	大町	107	14	20	12	56	5
	平	54	9	12	10	21	2
	常盤	68	10	20	11	27	0
	社	19	5	3	2	8	1
	八坂	5	0	0	0	3	2
	美麻	3	1	0	0	2	0
	計	256	39	55	35	117	10

5 集計上の留意点

(1) 構成比(割合(%))は、小数点第2位を四捨五入して、小数点第1位までを表記しました。このため、合計が100%にならない場合があります。

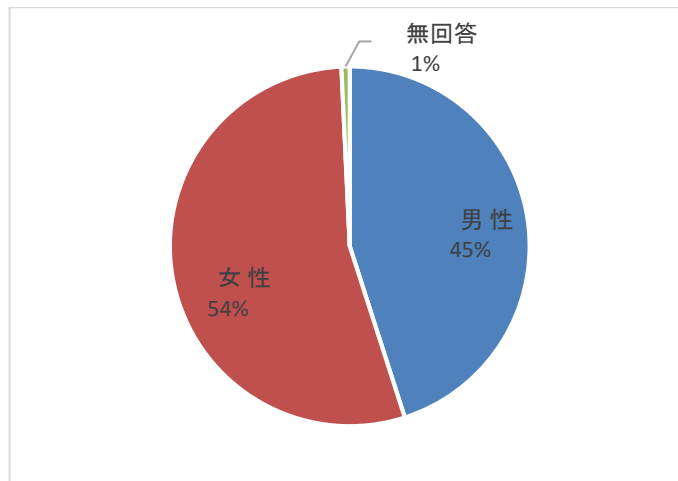
6 設問一覧

問 1	あなたの性別について教えてください。……………	4
問 2	あなたの居住地区を教えてください。……………	4
問 3	あなたの年齢を教えてください。……………	5
問 4	あなたの家族構成について、同居している家族の方を教えてください。……………	5
問 5	「問4」で、「1子ども」又は「2孫」を選択された方にお聞きします。子ども又は孫の就学先を教えてください。……………	6
問 6	小学校・中学校の1学年あたりの学級数(クラスの数)について、どのようにお考えですか。……………	6
問 7	「問6」でお答えいただいた理由について、お聞かせください。……………	8
問 8	小学校・中学校の1学級(クラス)あたりの児童・生徒数について、どのようにお考えですか。……………	10
問 9	「問8」でお答えいただいた理由について、お聞かせください。……………	11
問 10	小学校・中学校の通学時間(徒歩以外の自転車やスクールバス、JRなど公共交通機関の利用を含めた通学時間)について、どの程度が望ましいとお考えですか。……………	14
問 11	学校で優先して取り組む課題としては、次のどれが大切とお考えですか。…	15
問 12	大町市子どもたちに育みたい能力は、次のどれが大切とお考えですか。…	17
問 13	学校への人材配置について、優先して取り組むべき課題としては、次のどれが大切とお考えですか。……………	19
問 14	少子化の中で、学校の数は、どのようにすることが望ましいとお考えですか。……………	21
問 15	その他、学校教育についてご意見等ございましたら、ご記入ください。……………	23

【調査の結果】

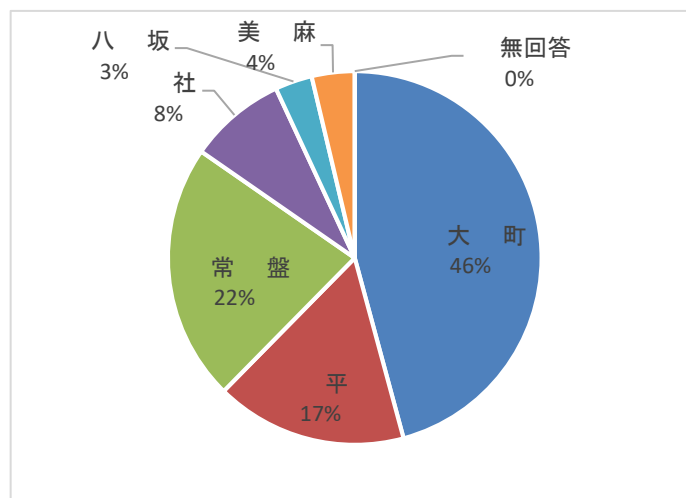
問1 あなたの性別について教えてください。

	回答	構成比
男性	182	45.0%
女性	219	54.2%
無回答	3	0.7%
計	404	100.0%



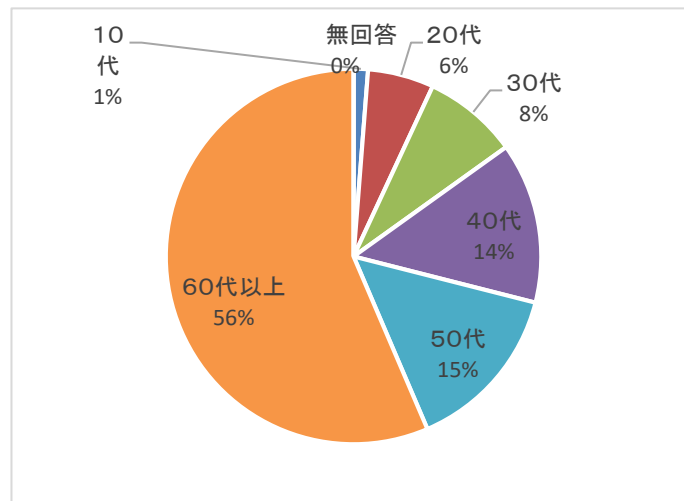
問2 あなたの居住地区を教えてください。

	回答	構成比
大町	185	45.8%
平	67	16.6%
常盤	90	22.3%
社	34	8.4%
八坂	13	3.2%
美麻	15	3.7%
無回答	0	0.0%
計	404	100.0%



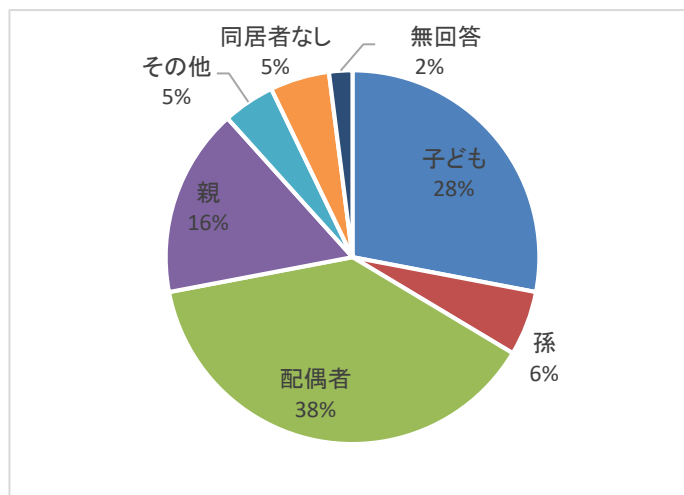
問3 あなたの年齢を教えてください。

	回答	構成比
10代	5	1.2%
20代	23	5.7%
30代	33	8.2%
40代	56	13.9%
50代	59	14.6%
60代以上	228	56.4%
無回答	0	0.0%
計	404	100.0%



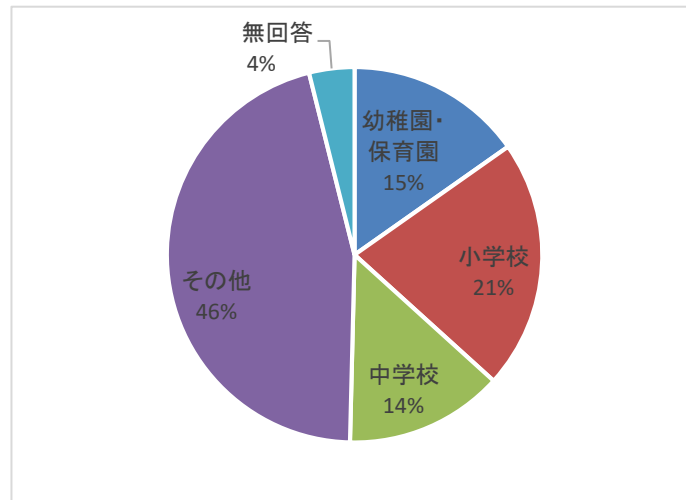
問4 あなたの家族構成について、同居している家族の方を教えてください。(複数回答)

	回答	構成比
子ども	180	28.0%
孫	36	5.6%
配偶者	247	38.4%
親	105	16.3%
その他	29	4.5%
同居者なし	33	5.1%
無回答	13	2.0%
計	643	100.0%



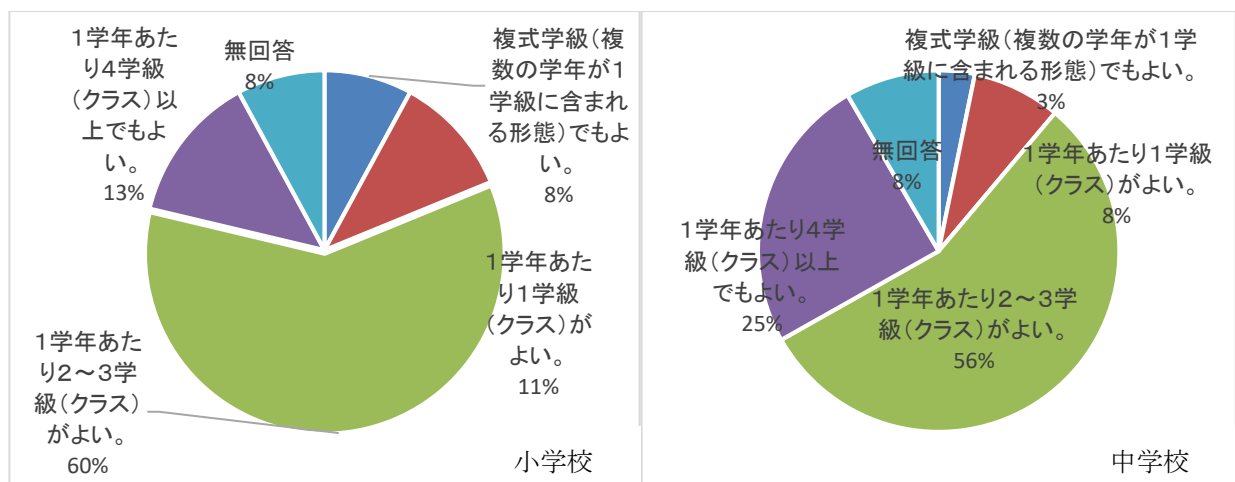
問5 「問4」で、「1子ども」又は「2孫」を選択された方にお聞きします。
子ども又は孫の就学先を教えてください。（複数回答）

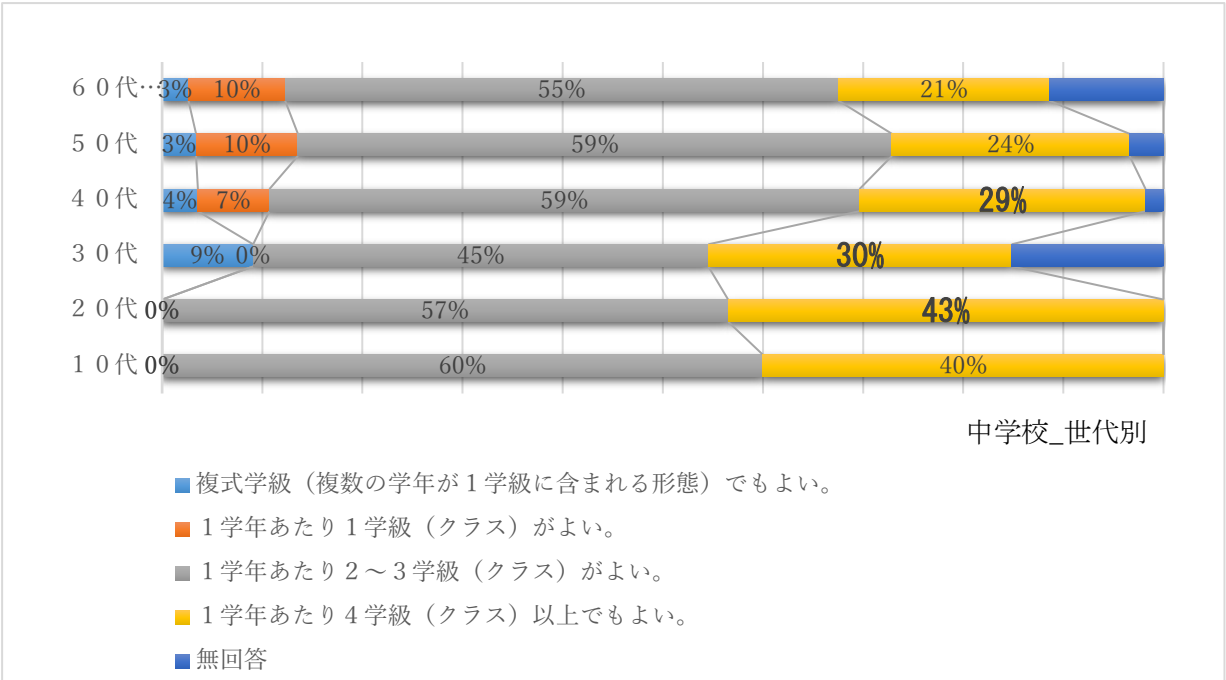
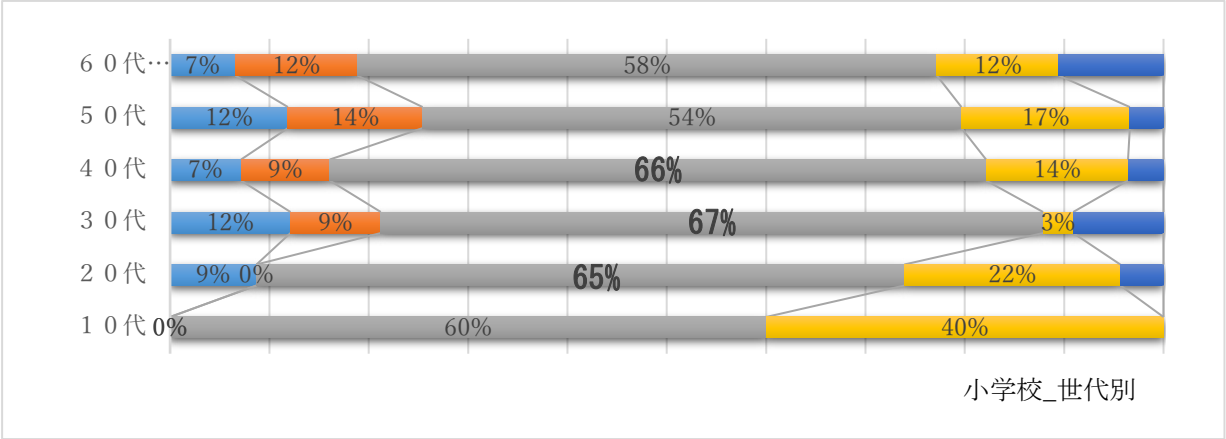
	回答	構成比
幼稚園・保育園	39	15.2%
小学校	55	21.5%
中学校	35	13.7%
その他	117	45.7%
無回答	10	3.9%
計	256	100.0%



問6 小学校・中学校の1学年あたりの学級数（クラスの数）について、
どのようにお考えですか。（各1つ）

	小学校		中学校	
	回答	構成比	回答	構成比
複式学級（複数の学年が1学級に含まれる形態）でもよい。	32	7.9%	13	3.2%
1学年あたり1学級（クラス）がよい。	44	10.9%	32	7.9%
1学年あたり2～3学級（クラス）がよい。	242	59.9%	225	55.7%
1学年あたり4学級（クラス）以上でもよい。	54	13.4%	100	24.8%
無回答	32	7.9%	34	8.4%
計	404	100.0%	404	100.0%





小・中学校とも約6割が「1学年あたり2～3学級」で、「4学級以上でもよい」を加えると小学校では73%、中学校では81%となっている。

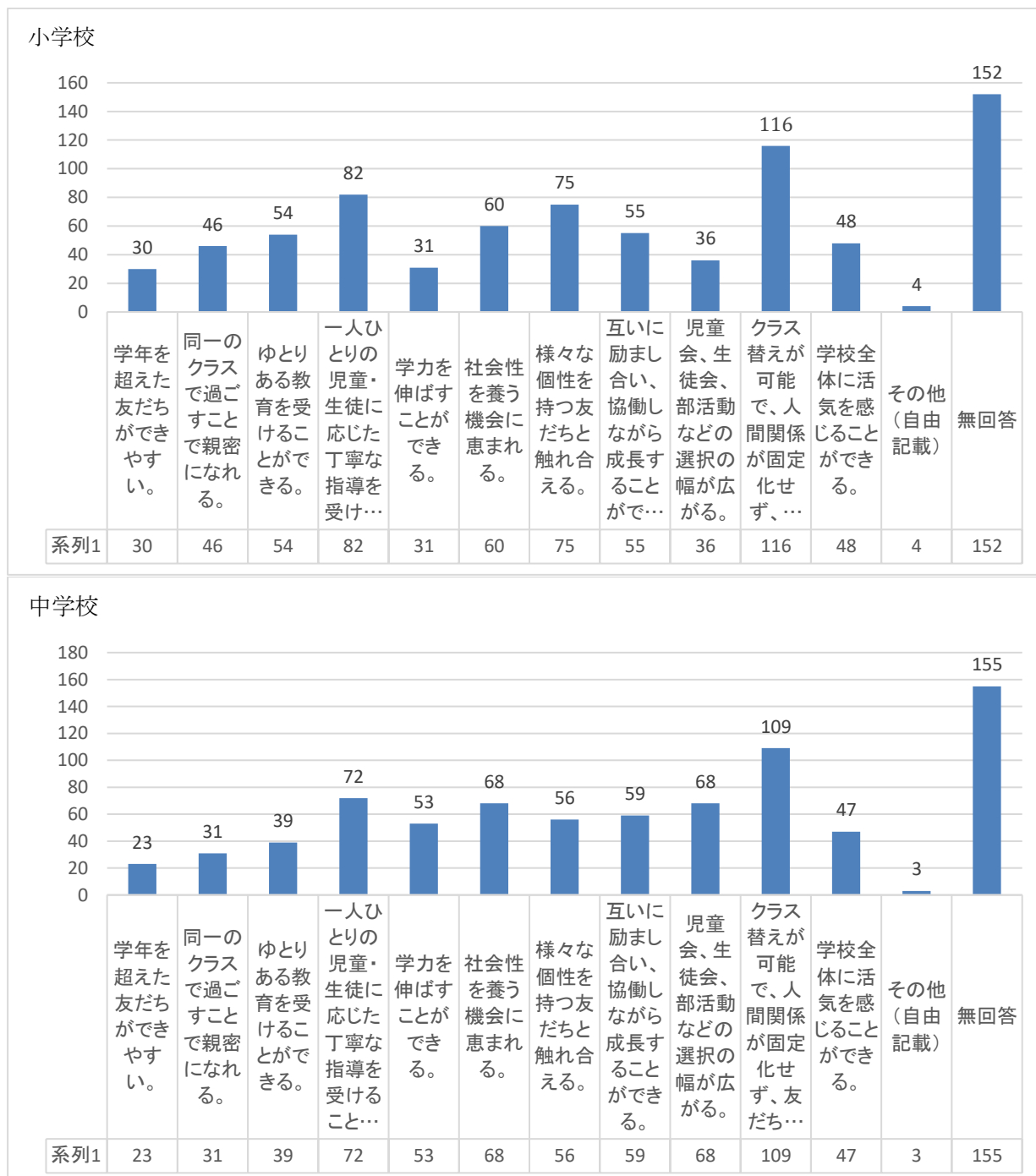
20～40代の世代別を見ると、小学校では「1学年あたり2～3学級」が65～67%と全体と比べさらに高い傾向である。また中学校では「4学級以上でもよい」が約3～4割と、子育て世代は複数学級を望む割合が高い。

10～20代では、小・中学校とも「1学年あたり1学級がよい」の回答は0であった。

問7 「問6」でお答えいただいた理由について、お聞かせください。 (3つ以内)	小学校		中学校	
	回答	構成比	回答	構成比
学年を超えた友だちができやすい。	30	3.8%	23	2.9%
同一のクラスで過ごすことで親密になれる。	46	5.8%	31	4.0%
ゆとりある教育を受けることができる。	54	6.8%	39	5.0%
一人ひとりの児童・生徒に応じた丁寧な指導を受けることができる。	82	10.4%	72	9.2%
学力を伸ばすことができる。	31	3.9%	53	6.8%
社会性を養う機会に恵まれる。	60	7.6%	68	8.7%
様々な個性を持つ友だちと触れ合える。	75	9.5%	56	7.2%
互いに励まし合い、協働しながら成長することができる。	55	7.0%	59	7.5%
児童会、生徒会、部活動などの選択の幅が広がる。	36	4.6%	68	8.7%
クラス替えが可能で、人間関係が固定化せず、友だちができる。	116	14.7%	109	13.9%
学校全体に活気を感じることができる。	48	6.1%	47	6.0%
その他（自由記載）	4	0.5%	3	0.4%
無回答	152	19.3%	155	19.8%
計	789	100.0%	783	100.0%

【その他（自由記載）】

- ・複式にするならばこれまでのデータなどもとに様々な角度から検証、話し合いが必要と思う。個人的には、クラス内で別々の学習項目の導入など難しいのではと思う。
- ・学級数について考えた事はなかった。クラスの人数は考える必要があると思う。
- ・小学校1年生だから
- ・2～3学級がよいとしても、無理して統合することは別問題
- ・美麻八坂もそうですが、学校全体の人数が少ないと活気がなく、寂しく感じます。統廃合もやむを得ないと思います。小規模校として存続させるなら、今の美麻八坂のように地域を巻き込んで運動会するなど工夫が必要だと思います。
- ・クラスは必要なのか、という気持ちもあります。固定の席も不要ではないでしょうか。1学期、1学年中に学べるのなら、決まった時間割も作らず、児童一人一人のペースや興味に合わせ、学ぶ順番をマネジメントしたり、あるいは近く学力の子たちで相談しあい、誰から学びたいか自分たちで決め、自分たちに必要な能力が何であるか、自分たちで調べ、目標を立て、自分たちの為の学習をしてほしいと思います。児童が少ないのであれば、尚更、ひとりひとりを大切に育てることが肝要です。授業のすべてでなくてもそういった自主性や好きなことをみつけて自分で選び学ぶ喜びを、児童それぞれの能力や資質、性格、興味に合わせて可変的に対応していくのが少子化教育だからこそのやり方だと思います。
- ・1クラスでは人間関係がかたより、いじめの原因になるので、2クラス以上は必要
- ・可能であれば、ということで予算等の関係でクラスが減っても仕方ない。
- ・小学校では学力が伸びにくいと思う。多くの友達と競い合い伸びていくのではないかな。
- ・このアンケートの意味がよく分かりませんが、小学校中学校の教育を平等にそしてきっちりと人間として自覚を持たせる義務教育だから
- ・少子高齢化で子供が年々減っている実状があり、1学級〇人必要とか、1学年〇学級必要とか、大町市の小中学校はいくつあるという概念にとらわれず時代に合わせて適切に対応・変化していくべきだと思います。だから学級数にはこだわらない方がいいと思います。
- ・親が4学級以上だったから



小・中学校とも「クラス替えが可能で、人間関係が固定化せず、友だちができる」が一番多く、幅広く人間関係を構築することを望み複数学級としている。

一方で小・中学校とも「一人ひとりの児童・生徒に応じた丁寧な指導を受けられる」が2番目に多く、学級内の人数が少ない方が個々の指導が丁寧であるということから複数学級を望む意見もあったと推測する。

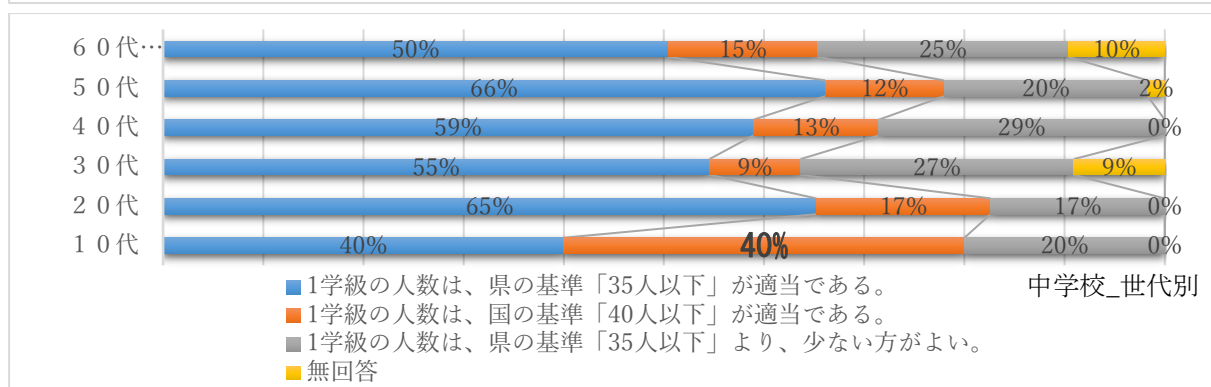
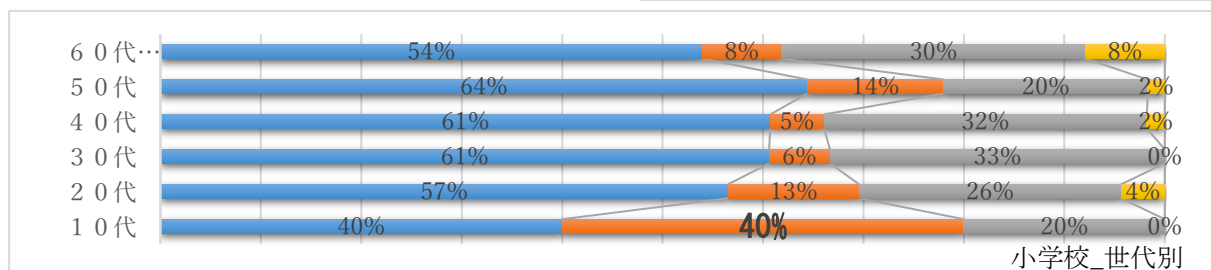
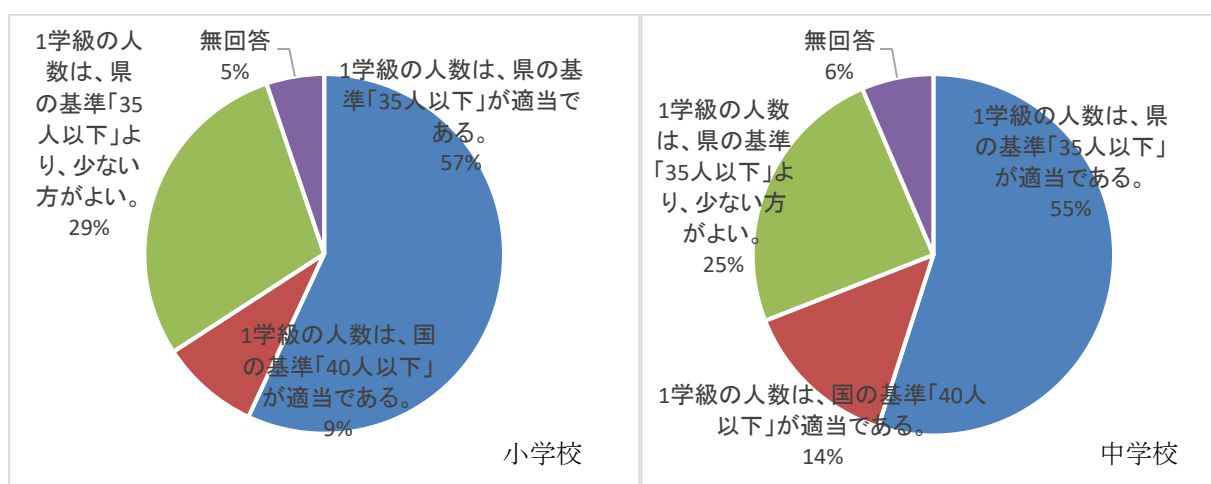
また自由記載では、学級数よりもクラスの人数（規模）が大切という意見もあった。

問8 小学校・中学校の1学級(クラス)あたりの児童・生徒数について、どのようにお考えですか。(各1つ)

	小学校		中学校	
	回答	構成比	回答	構成比
1学級の人数は、県の基準「35人以下」が適当である。	230	56.9%	222	55.0%
1学級の人数は、国の基準「40人以下」が適当である。	36	8.9%	57	14.1%
1学級の人数は、県の基準「35人以下」より、少ない方がよい。	117	29.0%	99	24.5%
無回答	21	5.2%	26	6.4%
計	404	100.0%	404	100.0%

※ 1学級(クラス)あたりの児童(生徒)数について、国の基準は、小学校1学年のみ「35人以下」、小学校2学年以上及び中学校全学年で「40人以下」となっていますが、長野県は独自に基準を設け、小学校・中学校全ての学年で「35人以下」としています。

長野県の例：1学年に36人の児童(生徒)がいる場合、18人と18人の2学級に、1学年に70人の児童(生徒)がいる場合、35人と35人の2学級になります。このことを参考に回答してください。



小・中学校とも「1学級の人数は、県の基準「35人以下」が適当である」が半数以上を占めている。さらに「県の基準「35人以下」より、少ない方がよい」を加えると8割以上となる。

世代別では、同様の傾向であるが、10代では「国の基準「40人以下」」を望む回答もあった。

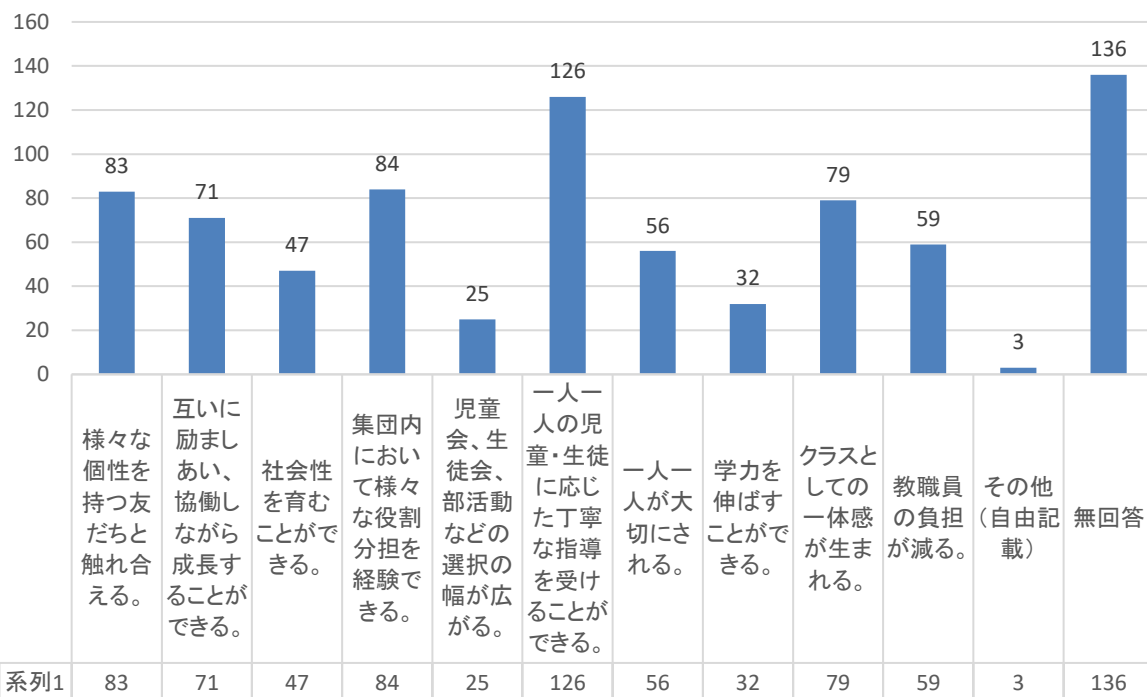
問9 「問8」でお答えいただいた理由について、お聞かせください。
(3つ以内)

	小学校		中学校	
	回答	構成比	回答	構成比
様々な個性を持つ友だちと触れ合える。	83	10.4%	77	9.6%
互いに励ましあい、協働しながら成長することができる。	71	8.9%	72	9.0%
社会性を育むことができる。	47	5.9%	51	6.4%
集団内において様々な役割分担を経験できる。	84	10.5%	84	10.5%
児童会、生徒会、部活動などの選択の幅が広がる。	25	3.1%	51	6.4%
一人ひとりの児童・生徒に応じた丁寧な指導を受けることができる。	126	15.7%	108	13.4%
一人ひとりが大切にされる。	56	7.0%	39	4.9%
学力を伸ばすことができる。	32	4.0%	66	8.2%
クラスとしての一体感が生まれる。	79	9.9%	60	7.5%
教職員の負担が減る。	59	7.4%	53	6.6%
その他（自由記述）	3	0.4%	2	0.2%
無回答	136	17.0%	140	17.4%
計	801	100.0%	803	100.0%

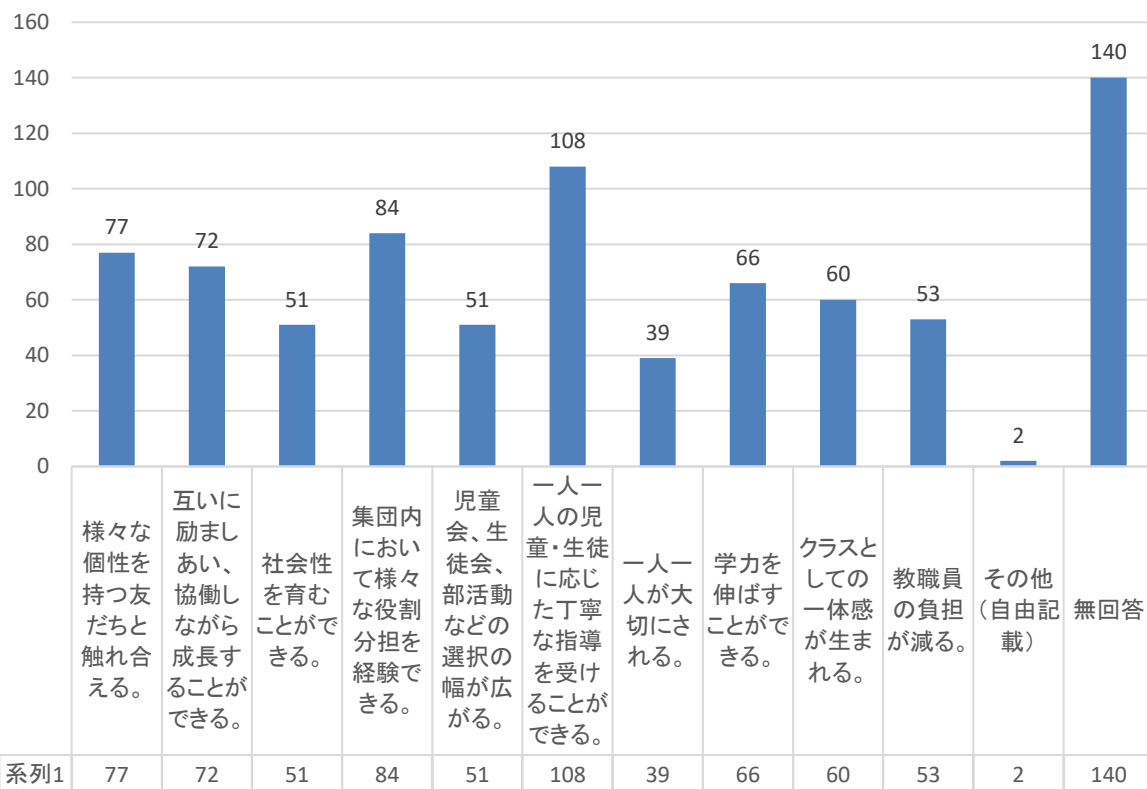
【その他（自由記載）】

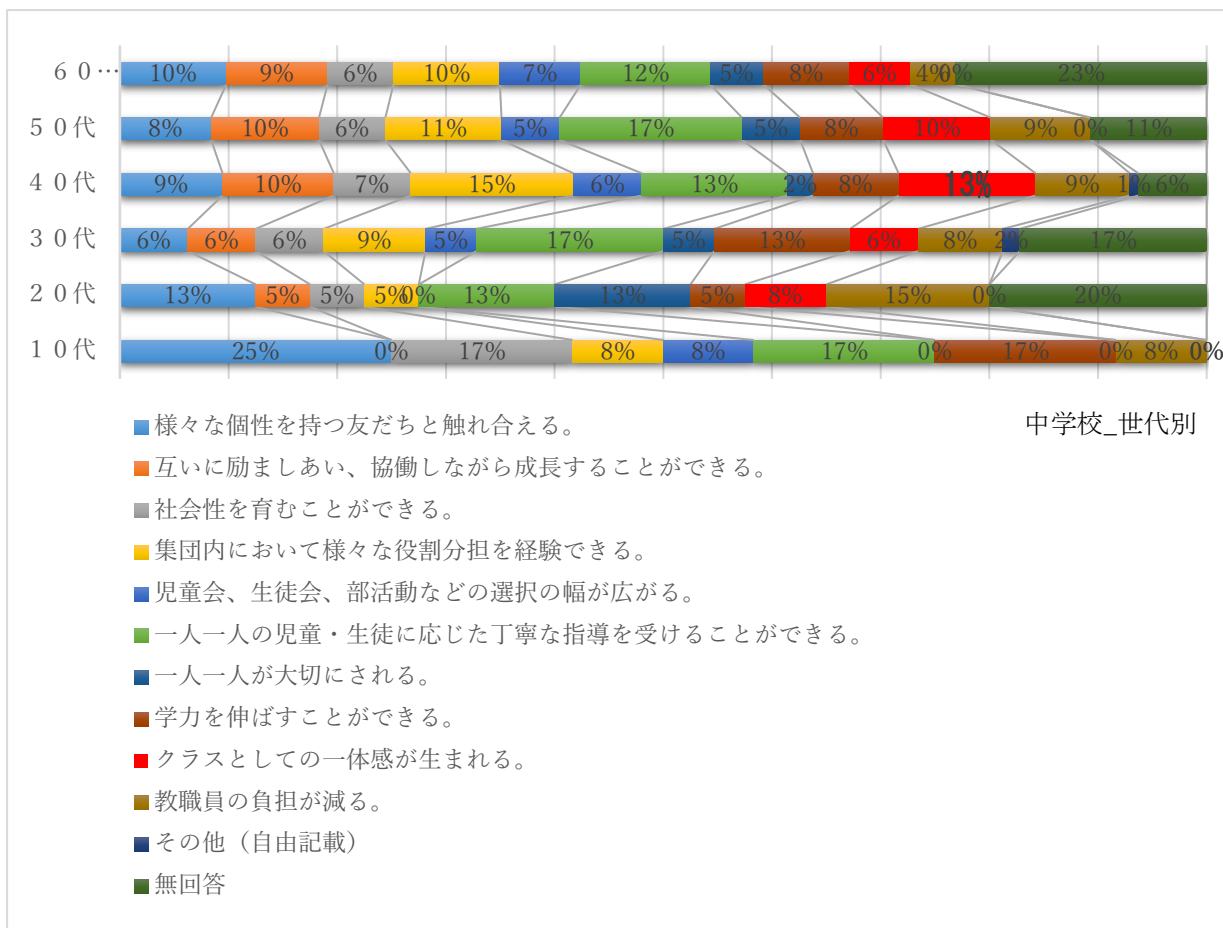
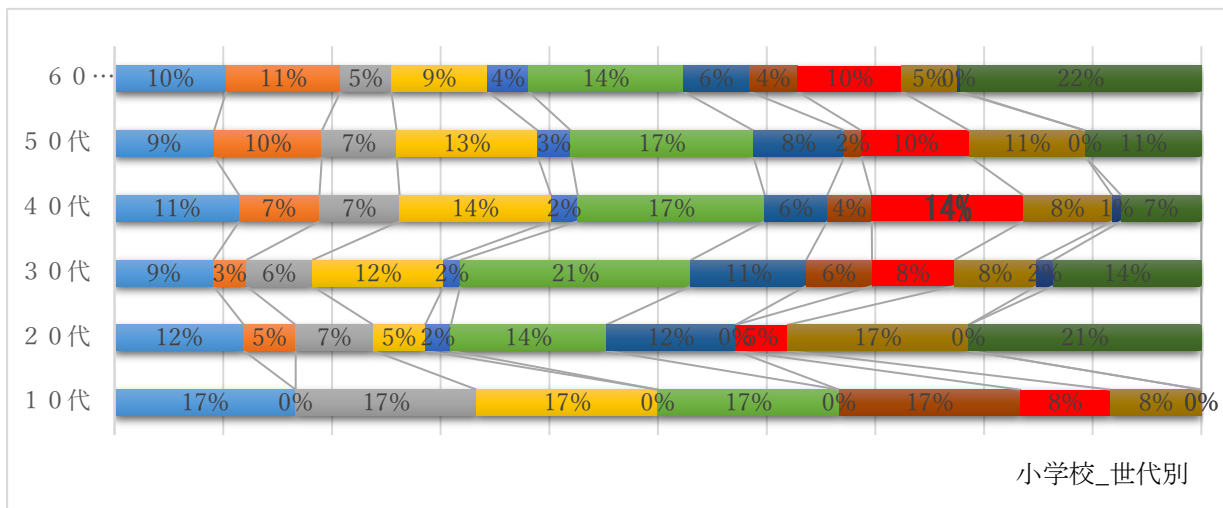
- ・一人一人の個性、つよみを生かす北欧流の教育が理想と考えているので、今の日本のような必要以上の集団優先、管理のしやすさ優先のしやすさ優先のクラス運営はよくないと考えている。
- ・集団としてある程度の規模が必要だと思う。少ないと目が届くということもあるが、児童・生徒相互のかかわりは人間関係が狭くならない方がよいと思う。
- ・1学級当たりの児童生徒数は、小規模の方が学力には良い影響があったと思います。担任教師の目も行き届きやすくなり、いじめや非行の防止にもつながると思います。良質な教員や財源の確保が不可欠となりますが、大町市の将来のため前向きに検討してほしいと思います。
- ・2つ以上のクラスが必要だと思う
- ・私自身30～35人の学級で教育を受け、総合的に考えてよかったと実感しているため。
- ・全員が前を向いて同じ勉強をして、同じような青春像を持たされる学校教育はもう古いです。部活のほかに、学校の外へ出て社会活動をする時間も増えて欲しいし、それは全員一緒になくて構わないです。クラスは年間同一クラスではなく、やりたいことに近いクラスを月ごとなど細かい区切りで児童が選べるとよいと思います。

小学校



中学校



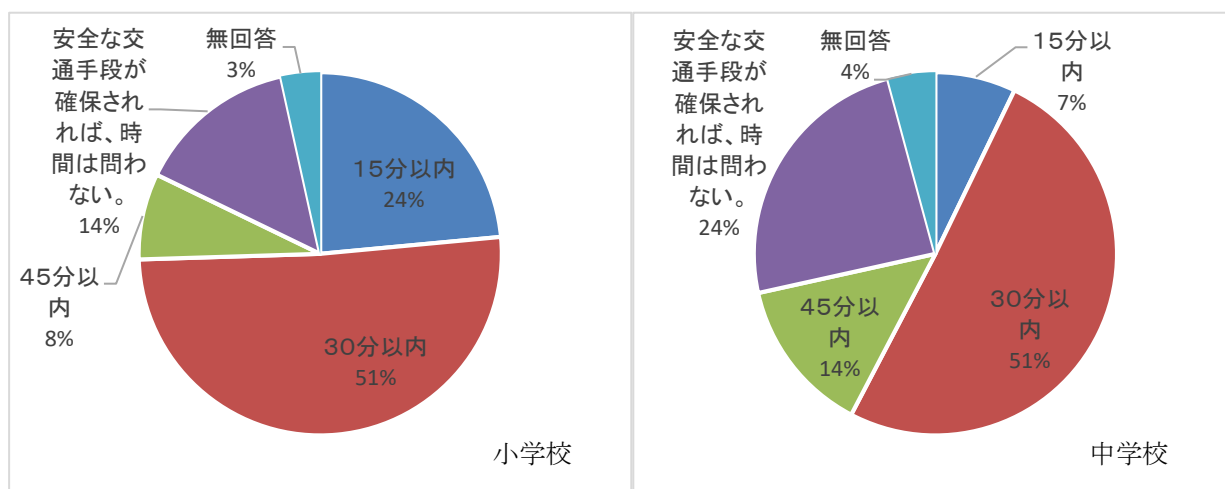


小・中学校とも「一人一人の児童・生徒に応じた丁寧な指導を受けられること」が多く、少人数による丁寧な指導を望む傾向が見られる。

また、40代では、「クラスとしての一体感が生まれる」が、小・中学校とも13～14%と高い値で、クラスとしてのまとまりも大切に考えていることが伺える。

問10 小学校・中学校の通学時間(徒歩以外の自転車やスクールバス、JRなど公共交通機関の利用を含めた通学時間)について、どの程度が望ましいとお考えですか。(各1つ)

	小学校		中学校	
	回答	構成比	回答	構成比
15分以内	95	23.5%	29	7.2%
30分以内	206	51.0%	204	50.5%
45分以内	31	7.7%	56	13.9%
安全な交通手段が確保されれば、時間は問わない。	58	14.4%	98	24.3%
無回答	14	3.5%	17	4.2%
計	404	100.0%	404	100.0%

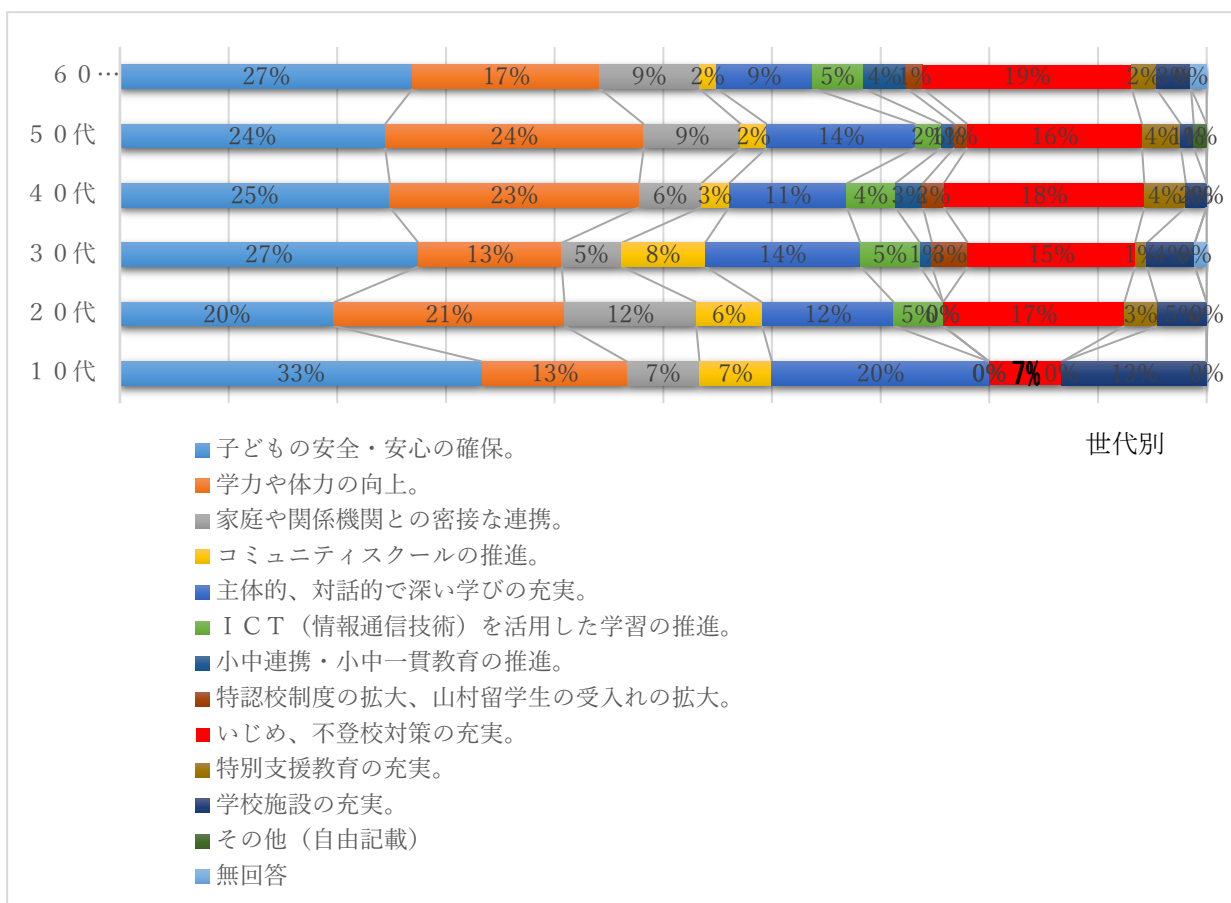
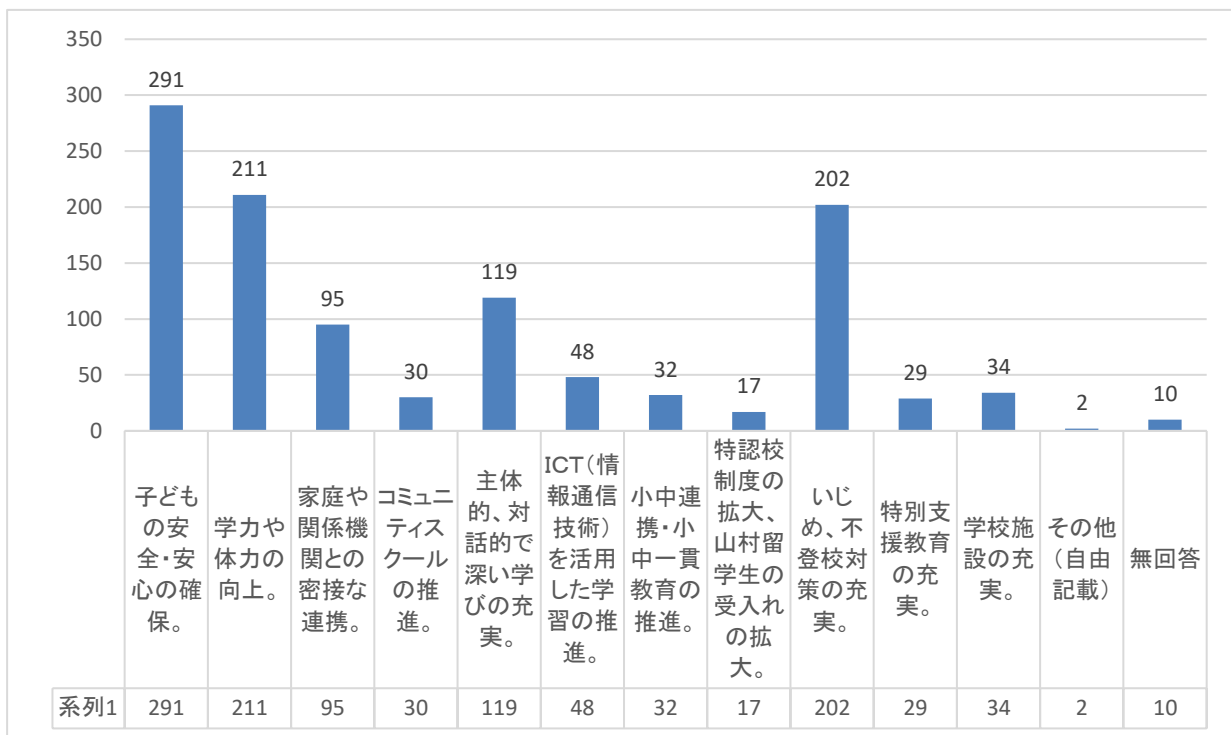


小・中学校とも「30分以内」が約半数を占めている。小学校では、2番目が「15分以内」であるのに対して、中学校では「安全な交通手段が確保されれば、時間は問わない」で、ともに24%を占めている。

問11 学校で優先して取り組む課題としては、次のどれが大切とお考えですか。(3つ以内)	回答	構成比
子どもの安全・安心の確保。	291	26.0%
学力や体力の向上。	211	18.8%
家庭や関係機関との密接な連携。	95	8.5%
コミュニティスクールの推進。	30	2.7%
主体的、対話的で深い学びの充実。	119	10.6%
I C T (情報通信技術) を活用した学習の推進。	48	4.3%
小中連携・小中一貫教育の推進。	32	2.9%
特認校制度の拡大、山村留学生の受入れの拡大。	17	1.5%
いじめ、不登校対策の充実。	202	18.0%
特別支援教育の充実。	29	2.6%
学校施設の充実。	34	3.0%
その他(自由記述)	2	0.2%
無回答	10	0.9%
計	1,120	100.0%

【その他(自由記載)】

- ・教員の待遇改善。なぜ今これが選択肢にないのかと思うくらい。
- ・お金の大切さ、万引き、援交はいけない指導
- ・部活動は極力部外者(経験・実績・資格のある方)に移行して、先生は教育(勉強)に専念すべきである。
- ・不登校という言葉がどうしても悪い方向へ行っていると感じる。「ホームエディケーション」として認めることが親にも必要。学校だけが勉強ではないと思う。
- ・安全やいじめ対策は、ここに挙げる必要のない最低限事項です。前項でも触れましたが、子ども達には、学習だけでなく、世の中にはどんな人達が生活しているのか、よりよく生きる為に何になるのか、その為に何を学べば良いのかを考え、選ぶ力を得て欲しいし、その為には社会と触れる時間を毎月くらいは取らねばなりません。「何のために勉強するのか」親のためや、他人の為にでなく、「いい子」の為にでなく真に自分の為に生きようとするのに、「お菓子屋さん」「アイドル」だけではやはり駄目です。菓子ならば、パティシエや製菓メーカー、カフェなどフードサービス等、菓子にまつわる仕事や、菓子そのものでなく、その営業や歴史を研究するとか、栄養士とか、様々な枝葉があります。しかし、子どもはそれを具体化できません。なので、社会を知る事は「学び」を知る事になります。「目的」ができれば勉強に意味が生まれるのです。
- ・小学生には、密接な関係でコミュニティスクールの推進。中学生には、学力の差でいじめや不登校対策の充実を。
- ・外国語(英語)、プログラミング教育に専科教員を配置してほしい
- ・今の親達はもっと精神力のある子に育てて欲しい。責任を義務教育までは父母が果たすべき。いじめは昔からあったが本人は強かった。親の責任。
- ・毎日使うトイレは明るく臭くない清潔な環境にしてほしい。

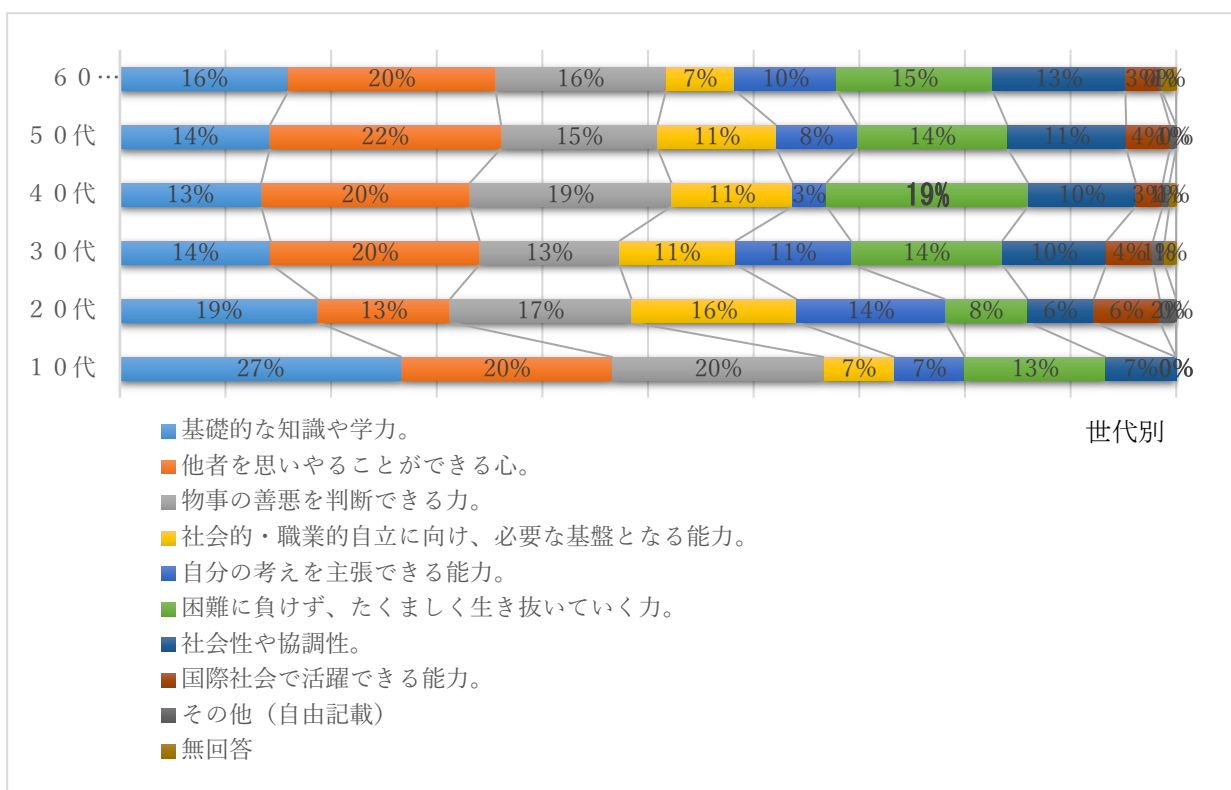
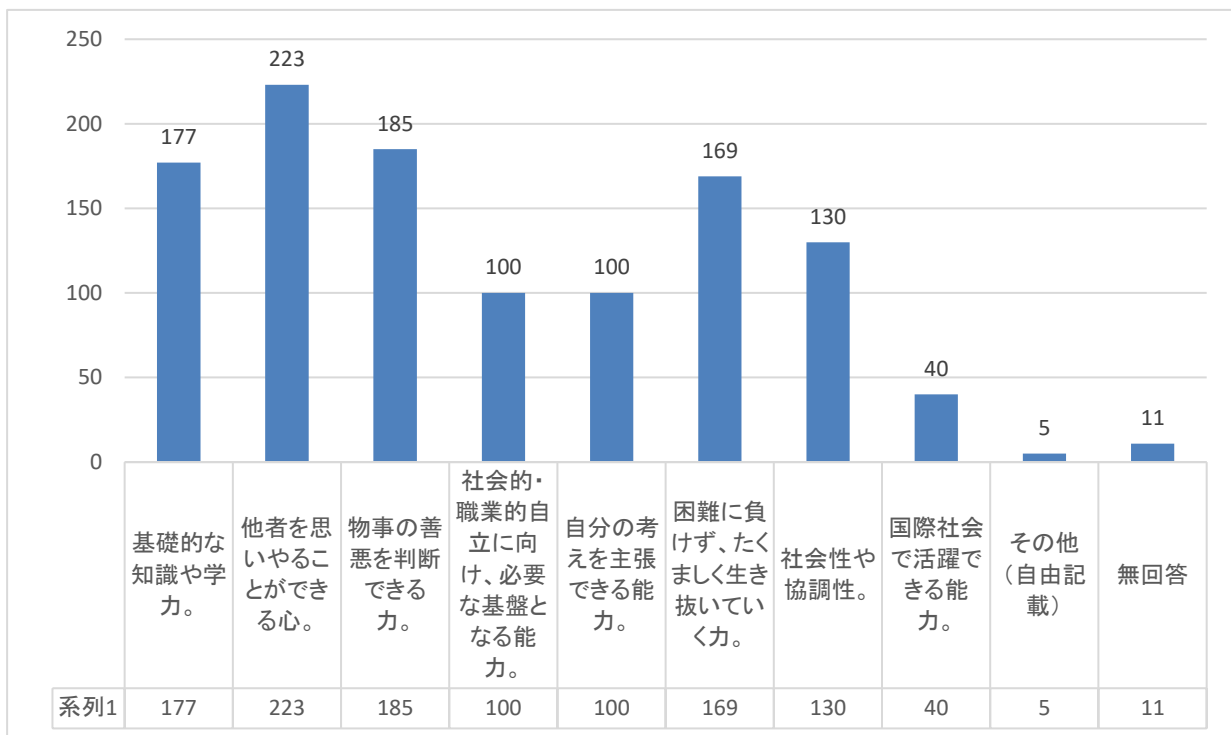


「子どもの安全・安心の確保」、次いで「学力や体力の向上」「いじめ、不登校対策の充実」の順となっており、この3つが特に高い割合を占めている。世代別でみると10代では、他の世代に比べ「いじめ、不登校対策の充実」が低い状況である。

問12 大町市の子どもたちに育みたい能力は、次のどれが大切とお考えですか。(3つ以内)	回答	構成比
基礎的な知識や学力。	178	15.6%
他者を思いやることができる心。	223	19.5%
物事の善悪を判断できる力。	185	16.2%
社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力。	100	8.8%
自分の考えを主張できる能力。	100	8.8%
困難に負けず、たくましく生き抜いていく力。	169	14.8%
社会性や協調性。	130	11.4%
国際社会で活躍できる能力。	40	3.5%
その他（自由記述）	5	0.4%
無回答	11	1.0%
計	1,141	100.0%

【その他（自由記載）】

- ・ 自己、他者の肯定力
- ・ 今のままだと（環境的に）大きくなってから都会に出て萎縮しちゃうと思う。そこでちゃんと負けずにいられる力。
- ・ 大町がすばらしい所であると郷土愛を持てるように。
- ・ 上記全部が大切です
- ・ 自己肯定
- ・ 自分の幸せが何であるか（他人の幸せがそれであるのは構わない）自分で知り、実感できる、自己実現力。
- ・ 大町に居住すること（将来）（定住するための働く場所、会社が少ない）
- ・ 小・中で1，4，7の能力を付けておけばよき高校生に十分なれる。小・中では学力は勿論であるが精神面、人間形成の基礎が大切。
- ・ 自然と共存できる力
- ・ 小・中の義務教育の時は成績よりも人として強い子になって欲しい。甘やかせずに。
- ・ 今と変わらない教育+ α を引き続き行うことが大切だと思います。



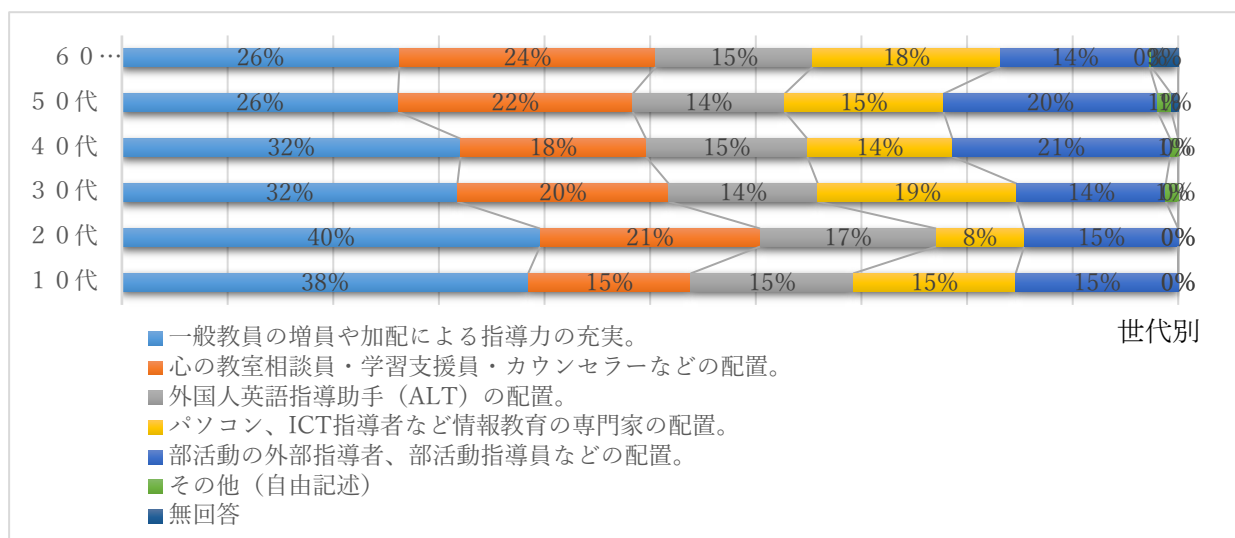
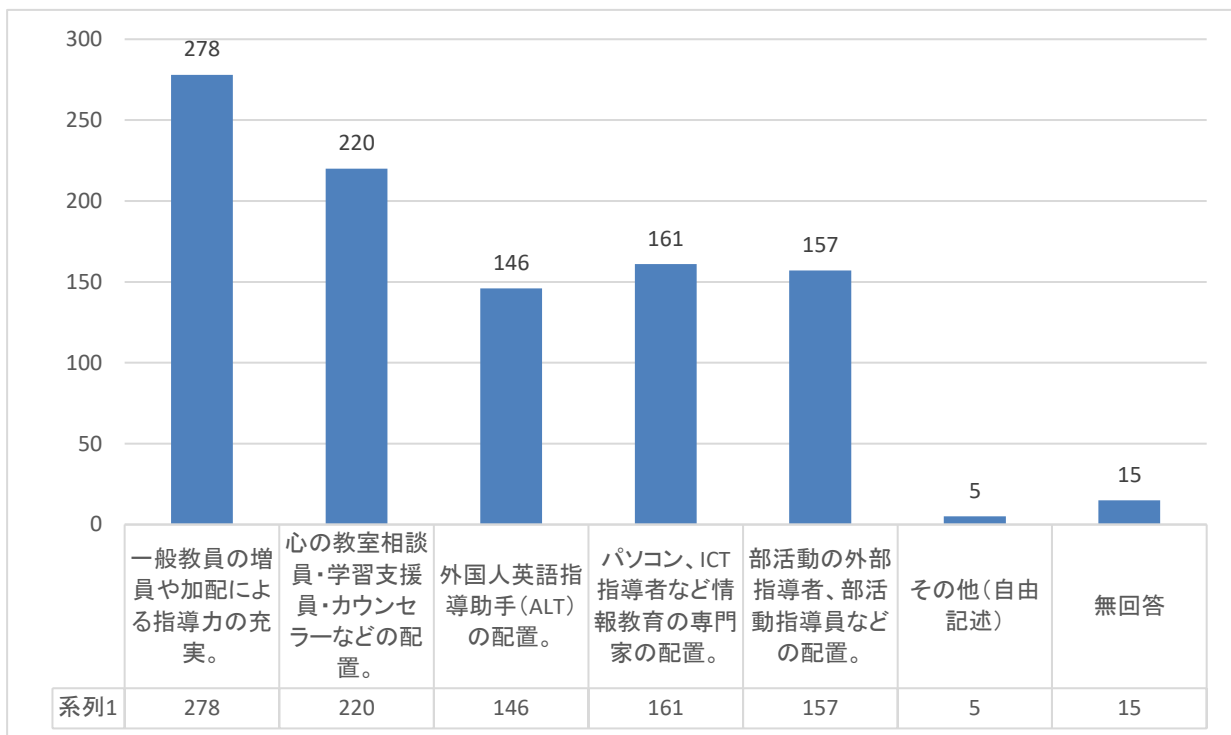
全体では、「他者を思いやることができる心」、「物事の善悪を判断できる力」、「基礎的な知識や学力」の順であるが、40代では2番目に「困難に負けず、たくましく生き抜いていく力」となっており、就学有世帯でも高い値を占めている。

問13 学校への人材配置について、優先して取り組むべき課題としては、次のどれが大切とお考えですか。(3つ以内)

	回答	構成比
一般教員の増員や加配による指導力の充実。	278	28.3%
心の教室相談員・学習支援員・カウンセラーなどの配置。	220	22.4%
外国人英語指導助手（ALT）の配置。	146	14.9%
パソコン、ICT指導者など情報教育の専門家の配置。	161	16.4%
部活動の外部指導者、部活動指導員などの配置。	157	16.0%
その他（自由記述）	5	0.5%
無回答	15	1.5%
計	982	100.0%

【その他（自由記載）】

- ・雑務、事務員の増員
- ・教員の質の向上。先生方には研修に努めてほしい。英語、道徳の教科化など担任の負担は大きいので増員は必要だと思う。
- ・先生を指導できるスキルのある教員または第三者
- ・生徒は先生を選ぶことができません。子どもの発している信号（顔色、口数、親からの訴え）に対して、担任だけでなく必ず複数の先生の補助をつけ、ささいな事として見逃すことのないよう、対応できる目配りが必要。一級で何人か問題があり、転校を余儀なくされる子がいる。先生との相性が悪いと聞く。
- ・部活動「適正な」という考え方を確立する。
- ・学級数が減り、教員の数が各学校で減る中で、教員一人一人の「担任としての職務」以外の仕事が増えてしまうことを回避できるように、業務内の見直しと必要であれば専門の人員を。
- ・学力別の指導
- ・人口減少の中、日本に観光客、労働者が大勢来ます。日本人も2か国語（日本語・英語）を話せる社会をめざす。
- ・ALTを配置するのも良いですが、海外旅行の機会のある高所得家庭以外でも、外国人と接する環境を作らないとさほど意味はないと思います。隣の白馬村は訪日観光客や移住した外国人も多く、既にハーフの子が多く学校に在籍しており、小学校の英語の必修化については児童に与える意識の面では大町市は大きく環境に劣ると思います。大町市で育ったことでアドバンテージを与えることができる教育を行うことが、将来大町市に還元されると思うので、そういった部分で重点的な人資人材配置を考えて欲しいです。
- ・その辺のおじさんの話を聞くとかしてほしいです。一人二人ではなく、何かの折につけ。PTA会長とかでなく、その辺の、ただの偉くもなんともない大人。その辺の大人とお弁当食べる会とかいいと思います。（親ではない）
- ・教員の質の向上
- ・中学校の部活動の時間が長すぎるのではありませんか
- ・1、5について、教育上生徒にとってはよき指導者は大切。各々に個性にあり、一人一人に合った指導が大切である。指導者の学力は勿論、人格には考慮すべきこと多々あり。3については発音は大切。人材を多いに考える。能力があっても変な外人がいます。注意。
- ・大町にも、外国留学した人は大勢いるかと思っています。ALTより、外国に行って苦労した事、今からこうしておけば、という話を、子ども達に聞かせてやってほしいです。
- ・過労が問題となっている今、民間の手本として公務員の方々の充実してゆとりある労働環境作りが必要だと思います。

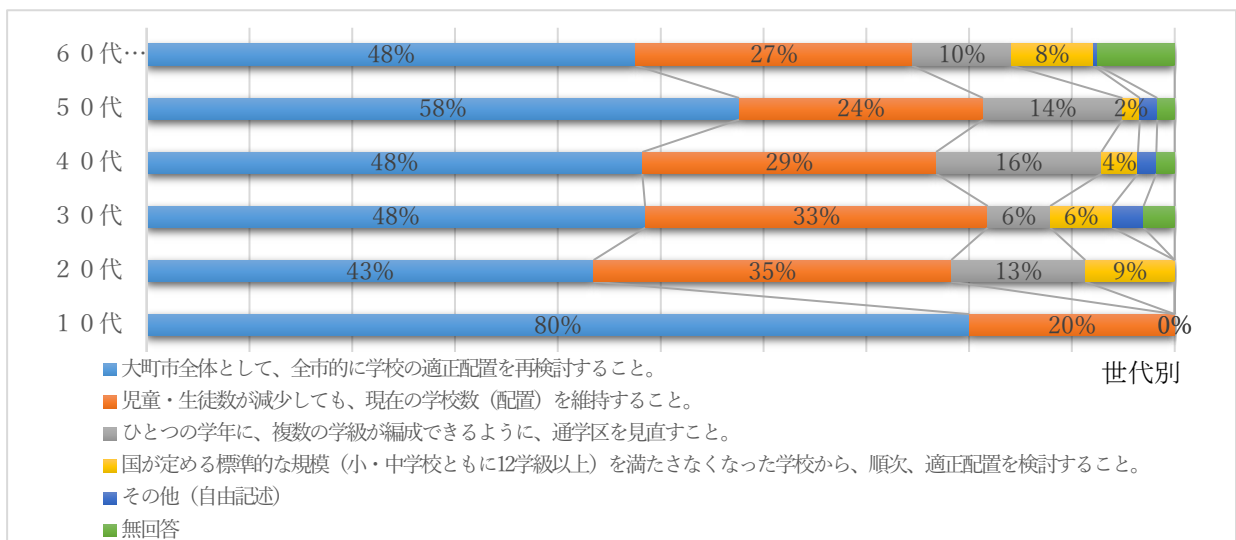
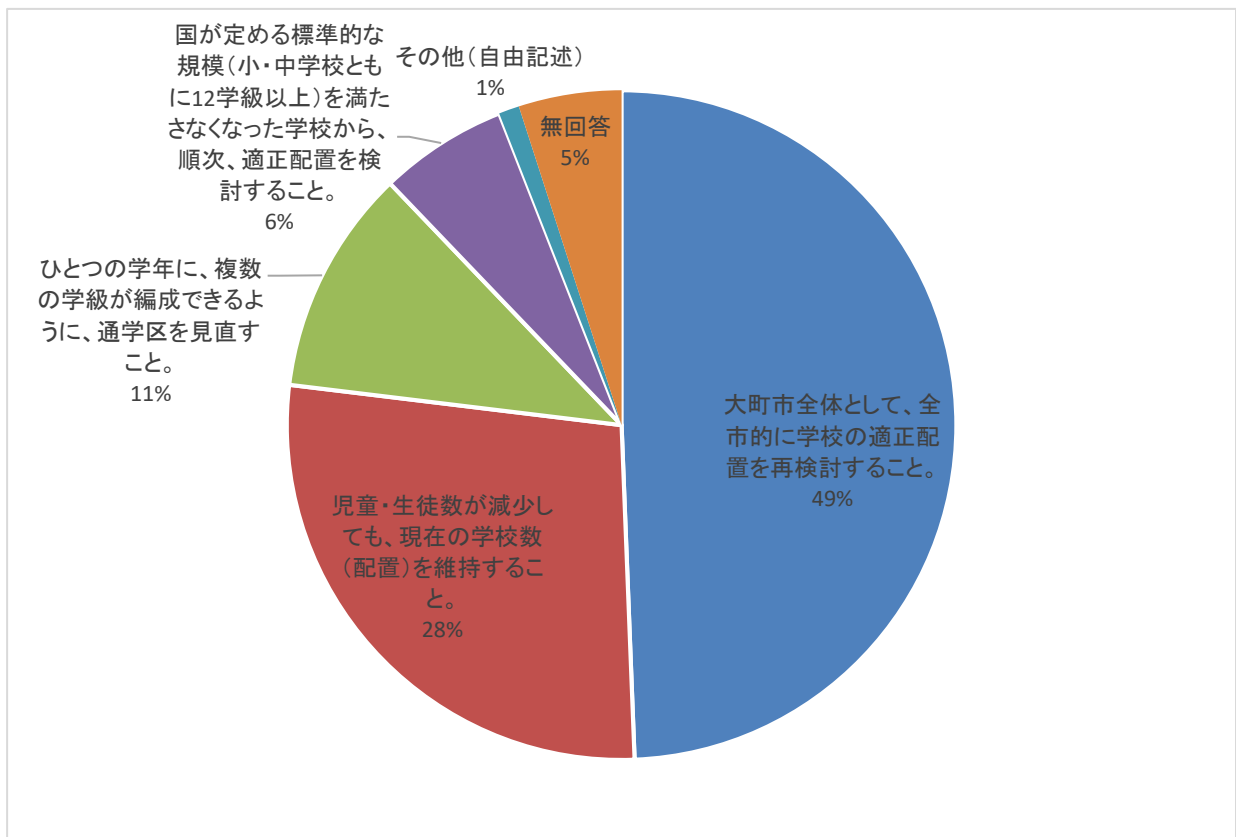


「一般教員の増員や加配による指導力の充実」が最も多く、次いで「心の教室相談員・学習支援員・カウンセラーなどの配置」となっている。世代別でも差がなく、個々の丁寧な指導を望んでいることが伺える。

問14 少子化の中で、学校の数は、どのようにすることが望ましいとお考えですか。(1つ)	回答	構成比
大町市全体として、全市的に学校の適正配置を再検討すること。	199	49.3%
児童・生徒数が減少しても、現在の学校数(配置)を維持すること。	111	27.5%
ひとつの学年に、複数の学級が編成できるように、通学区を見直すこと。	44	10.9%
国が定める標準的な規模(小・中学校ともに12学級以上)を満たさなくなった学校から、順次、適正配置を検討すること。	25	6.2%
その他(自由記述)	4	1.0%
無回答	21	5.2%
計	404	100.0%

【その他(自由記載)】

- ・通学区が広くなりすぎて、通学に負担のない範囲での適正配置の検討をしていただきたいです。
- ・児童・生徒数の減少から現状の維持は難しいと思う。
- ・“Most Likely To Succeed”(米映画)というアメリカ教育ドキュメンタリー映画の視聴をおすすめいたします。構成主義の指導法の示唆となります。
- ・大町市の地理的条件、地域の創生活活性化等総合的に考えねばならない。
- ・全市的に適正配置を検討したうえで、小中一貫校又は中高一貫校等の近隣地区(市町村)からも受け入れられる魅力ある学校を作って欲しい。
- ・廃校となるのは悲痛なことではありますが、いずれはこの地でも仕方がないこととなるのでしょうか。
- ・地域を活性化・維持していくためには、学校(小・中学校)の存続は必要なことです。極力、維持するように頑張ってください。
- ・③④とインターネットを使った家庭学習にも移っていくべき
- ・学級数が少ないと活気がなく感じるので統廃合してください。スクールバスを使って、安全に登校通学できるよう検討しましょう。
- ・少人数、大人数それぞれの利点はあるが、社会生活をしていくことを見据えれば、ある程度の人数的中で多くのことを経験する方が良いかと思うので、端的な少人数学級は好ましくないと考えます。
- ・大町市は無駄に広いので、学校がなくなると通うのが大変です。学区に関しては、Freeが良いと思います。(平の子が南小に通うなど)(あるいは、市外からの受け入れ)事前申請で、好きに転校できてもよいのでは。不登校の子の逃げ道にもなりますし。気軽なのが良いと思います。また、北小の子がフリースクール的に西小の空いている教室を使えるなど、自由な学びの場、あるいは子どもたちの居場所として、各小中学校、シームレスに協力できるとよいと思います。
- ・通学時間の適性が必要で(時間をかけない事) 同学年のクラス対戦が必要になり、時間をとる。
- ・東小はなくしていく方向がいいのかなと考えます。
- ・少子化といっても個々は大切です。ゆとりある教育とは…。



約半数が、「市全体として、全市的に学校の適正配置を再検討すること」との回答である。一方で「児童・生徒数が減少しても、現在の学校数（配置）を維持すること」も約3割回答がある。

問 15 その他、学校教育についてご意見等ございましたら、ご記入ください。

- 2 小学生、中学生、学校学年を問わずあいさつがよくて来ていると思います。気持ちが良い。こちらからも大きな声で返事を返しています。
- 7 社会に出て活躍できる人間に育て上げるのは家庭+学校の2つの社会（人との関係）の役割が大切。学校で学んだことは忘れない。先生たちも負担が大きいと思うので親と先生と協力して学ぶ機会がたくさんあると良いと思う。
- 12 子どもの減少が進む中で学校との連携がこれからの方がもっと大切になると思われます。そのためにも通いやする地域の人々も見守れる通学区分を確保していただきたい。
- 14 ①教育の方針についてはとてもあいまいな議論になってしまいやすいと思う。今ある課題を、予算（お金のこと）、人材、効率、ニーズ、国の方針、市の方針、世界の流れなどある程度客観的な要素ごとに整理し、それと切り分けて、教育の方針の問題を考えるべき太と思う。たとえば、予算や人材不足を ぐまかすためにコミュニティスクールを推進したのか、不足を解消しつつ学校運営を改善できる妙案としてコミュニティスクールがあったのか。個人的にその辺から気になる。②市民のニーズの食い違いは必ずあることだと思うので、そこを過度に隠さず適正に議論をすべきと思う。
- 24 小中毎年のクラス替えってどうかと思います。
- 31 歴史教育など教科書が左寄りになっていると聞きます。大町市の現状がどうなのか心配です。
- 35 先生の質の向上のための教育の見直し、子どもとの向き合い方など、時間のとれる教育現場が必要。忙しすぎるのが質を落としているのでは。
- 38 昔とは事情も異なると思いますので。子どものいる世帯の意見を取り入れてあげてください。きっとその世代の意見からわかるインセンティブがあるはずです。また少子化の状況は全国でも同じことだと思ってしまうので、同じような規模で条件の似た街の対策を参考にするなどしてより良い学校教育のあり方を探っていただきたいです。
- 46 村に学校がなくなると今より過疎になるかも
- 50 体操着や靴などの指定がなくてうれしい。学校指定のものはバカみたいに値が高いから。
- 55 子どもの数が減っているが統合は考えないで欲しい。
- 57 子どもの人数が減少する中、今までのように維持できるか心配なことが正直あります。通学路の距離が長くなったり、温全面を第一に検討していただけますとありがたいです。
- 59 少人数なりの学校にしていく努力が必要。先生方の負担を軽減してほしい。
- 62 校数を思い切って減らし、その分充実をはかり、社会の荒波に立ち向かえる能力をつけられるようにしていったらよいと思います。
- 63 昔に比べ先生の対応能力が下がっていると感じます。子どもへの言葉、先生同士でのかばい合い有り、カウンセラー教育が必要である。特に中学の先生への指導と監視をお願いしたい。
- 69 中学校の毎年のクラス替えはあまりよくないと思います。2、3年次は同じクラス、担任にしてよいと思います。
- 73 義務教育カリキュラムの中で、具体的に教職員の皆さんが困難と感じている事項を抽出してほしい。コミュニティスクールにしても ICT 教育にしても何が困っていてどうしたいという内容が見えない。地域も企業の社会貢献もその点が知りたいです。
- 81 一般的に学校で要職にあった先生が、教育委員会へ入っていると聞きます。（昔はその様であった）今の町はどうなのか。学校と密に繋がることは必要なことですが、教育委員会が先生の側に立つことのない様、子ども一人一人が安心して楽しく学校で学べるようそれが一番に考えられる配置、教育になります様に願います。
- 83 教職員の資質の向上に積極的に。保護者・地域の社会教育の充実を。特に家庭教育について。働き方改革は、家庭、地域、学校の役割分担を意識して学校や教師にお任せないことが根本的な課題ではないか。勤務時間の長さの問題ではない。

- 86 先生方は大変頑張って子どもたちを指導・教育されています。本当にありがたいです。先生方の負担軽減を進めていってもらいながら、先生方の個性も生かしていってもらいたらと思います。
- 93 なぜ10年前にこの問題に手をつけなかったのか。減っていくことが、人口の推計から想像できたはずである。今から何年議論し、何年かけて実現させるのか、こうしている間にも子たちは日々成長し大切な学校生活が終わっていく。いじめ、不登校等の問題すら解決してもらえずにいる現代の子ども達に学校編成や学習指導要領の変更等、子ども達は振り回されていると感じる。
- 123 小学校も中学校も子供の人数を増やすべきだと思う。一つの学年が1クラスだけというの切磋琢磨できない。
- 130 少子化で子供が少なくなっている一方、生活上で得られる経験スキルが減少しているように感じています。どんな状況においても「生きる力」はとても大事で、ぜひこの力がつくような教育を目指していただきたいです。
- 138 勉強ができて、心がたくましく優しくなくては先生、親共々意味がない。人間性を個性をのばす評価が必要。子どもには好きなことをつきつめてもらえる環境や応援が大切だと思う。つきつめる先に学びが生まれていくと思うのですが、子どもの疑問に根気よく答えて(一緒に考えて)いく大人がいるところが教育現場となると思う。
- 142 大町西小学校の老朽化に合わせて、市内4小学校の適正配置を見直してください。2040年ころには人口がいまより1万人減る推計もあったかと思います。移住の促進を行うにも、しの学校教育の方向性を示すことは不可欠だと感じます。せっかく移住してきたのに、学校が統廃合となり不便になったという声が上がらないように、できる限り早期に方向性を打ち出し、スクールバス通学の検討、働く保護者の便利な場所への移転新設等アイデアを考えて、早期に計画、早めに周知したうえで着工し、市のこれからの発展を損ねないよう関係機関、各部署にて議論を深めて欲しいと思います。正直、市長選の争点にならなくて残念でした。
- 145 元気で明るい子どもに教育してほしいです。
- 147 個々の得意な教科を伸ばせるような工夫が欲しい。
- 152 現行小学校で通学1時近くかけております。体力づくり、身心づくりに近い子より出来ていると思います。
- 162 勉強内容に関しては、子どもの個性を伸ばせる内容課題や世界に通用する常識や英語などを低学年から取り入れるべきと思う。
- 168 変化に対して、柔軟でスピーディーに対応する大町市を願います。日常的に多くの外国人と交流する機会があれば幸いです。
- 172 広報4月号により、クラス数に占める支援学校増と、不登校児童・生徒数の割合が高いことを知りました。75歳の私の学校時代は宿題は殆どないので宿題忘れをとがめられることもなかったし、持ち物も少なく忘れ物も指定されない大よな時代だった気がします。今は全国一斉テストもあり、先生も子も親も大変なことと思う。現場の先生方の負担が減れば生徒と向き合う時代が生まれ、問題の減少と学力の向上に向かうことが期待されると考えました。
- 173 教職員の勤務時間が長く、休日も部活動等での指導があり、十分な休息が取れていないことは、全国的にあるようだ。ゆとりの持てる勤務型でないと、子ども達へもゆとりの心をもって接するのは難しいと思うので、地域の方や、利用できる加配等があれば、教職員の負担を軽くしていただき、良い教育を行っていただきたい。大町は大自然に恵まれているので、自然体験を行い(継続的)、心の成長に役立ててほしい。
- 183 子ども達が育つのはあつという間です。少子化もあつという間です。時間の流れは大人が感じるより恐ろしく速いです。学校の在り方も、流動的に、時代や子供たちに合わせて変わって欲しいと思います。私は不登校でした。家にも学校にも居場所はありませんでした。大人になってからADHDだと判りました。皆と同じ方向を見る事は、幼少時から現在までほぼありません。同じ方向を見る「クラスメイト」とかいう鬼に迫害されました。いじめは毎日何年も続きました。学校は子供を殺す場所になっては

- いけません。ひとりひとりを「生かす」「自分の力で生きていく」人間にするのが教育です。
- 185 少人数は目が届いて良い反面、欠点が見え過ぎで良くない。35人/クラス位の規模で子供たちの仲間から教えられることが多い。標準規模が満たされなくなれば、遠距離通学は当たり前と思う。そうすることにより子ども自身も考え成長してゆく。過保護にならぬ様、社会で通用する人材のスタートが小中学校である。
- 187 車社会になり各学校の駐車場を考えて欲しい。東小学校を西小学校と南小学校にすることも可能？
- 190 クラスを2つ以上にして維持してほしい
- 192 1. 通学時の交通安全強化 2. 教員のレベルアップ又は不登校対策 3. 若年教員の教育強化
- 200 社会環境の激変に伴い、学校での義務教育、家庭内教育を平衡した検討委員会を推進してほしい。
- 203 子どもを尊重する意味は解りますが、先生が子供に男女関係なく「さん」と呼ぶのは距離感があるように思います。親が恐くて怒れない程度の教員は必要ないと思います。クラス一体となってお互いをサポートしあえるクラスづくりが急務であり、休み時間を含め学校にいる時間は誰かしらの先生の「目」が常に子供たちに向けられる体制が必要かと思えます。
- 205 最近は若者のモラルの低下が多く見られる。人間の道德心を学ぶ機会をもう少し充実させていただきたいと思えます。
- 213 子ども達が安心して学習できる環境づくりを望みます。
- 215 少子高齢化に伴い、子どもが明るい未来も目指すためにも、学校に行き易い、学び易い環境作りが必要に思えます。
- 223 私はテレビ新聞で学校教育を心掛けて見たり読んだりしていますが、最近5月9日東京麹町中学校の改革を見ました。日本の義務教育は高いといわれているとか。しかし、地域、生徒数、家庭環境、家族構成等々考えるべきこと多々あると思えます。教室の型、構造、特別教室の配置、設備、職員室・校長室の位置、職員室の机の配置、担任の選択等々いろいろありますが、先ず生徒のためになることは実行することです。先生方教科の外に何でもよいのです、特技を持ってください。先生を海外研修に出してください。
- 226 北小・西小を統合させて、北高の場所を再利用する。西小の跡地は岳陽で体育館・グラウンドは利用し、北小は何か利用するようにしたらどうでしょうか。
- 230 山、川、自然に囲まれた場所で育つことの幸せを生かす教育を追及してほしいです。自然の中で、田畑の中で、食に関わること、命に関わることを体感できること、そんな経験を増やしていただきたいと思っております。
- 238 古い時代を生きたものとして、まだ記憶に新しいのは年を経ても小学校同級会の存続と数々の思い出である。心を開き思いやり、いたわる心が自然に、年を経ても語り合えるそんな学生時代の教育の再現を望みたい。
- 246 つめこみ教育よりも考える教育に。教師のスキルアップをして、マニュアルにとらわれない指導を。設問6では、全校生徒が10人等になった場合。
- 248 子ども達の各々が持っている能力をいかにみつけ伸ばすかが一番大切である。
- 249 広く意見を聞きながらも、早く少子化に対応してほしい。数年前はどの地区にも5～6人の子ども達で登下校する姿があったが、今は一人ポツンと歩いている子ばかり見る事が多い。特に学校から遠い地区（二ッ屋）の子どもが今年4月上旬吹雪の日の朝登校する姿をみた。帰りは学年別なのでもっと不安になる。（不審者、クマ、天候）家庭まかせにはせず、通学手段にも援助をしてほしい。
- 252 日々子どもたちをあたたくご指導して下っている先生方、地域ボランティアの方々、市役所の教育職務に携わるの方々には、本当に感謝しております。ありがとうございます。子どもの数が少なくなると学校の運営が大変かと思えますが、一番大切なのは子供たちが学校へ行くのが楽しい！と思えるかどうかだと思うので、そこが満たされるような学校づくりを目指してもらえよう、説にお願い申し上げます。
- 262 命の大切さ、他者への思いやり、自ら主体的に考える能力の育成が大切だと考えます。

268 大町市における児童・生徒数の減少が急激に進んでいることが、今回のアンケートを通じ改めて認識を強く持ちました。それとともに、全国各地で発生している子どもに対する事故や事件の多さに心が痛みます。学校教育について私なりに考えることは、学校と社会・地域との関係が今一つ希薄になってはいないかと思うことです。教育に携わる関係者の皆さんは日頃大変なご苦勞をされていることと推測されますが、もっと地域住民との接触を活発にし、地域の人たちを利用されてはいかがでしょうか。情報交換や様々な事象について意見を述べ合い、みんなで子供の教育に目を向けたらいかがでしょうか。

273 子どもの体力が全国的に落ちていると聞くので、もっと体を動かされてほしい。

274 “その他、学校教育についての提言です。まったくの素人の意見ですから、その点、ご配慮お願いします。他県あるいは他市町村との学校間で、教員、児童、生徒の定期的で超短期的交流（部分的な入れ替え、合流、分割等）を実施してはどうでしょうか。そうすれば、教員からの特定の児童生徒へのいじめやセクハラがなくなり、あるいは児童生徒による特定の児童生徒へのいじめやセクハラがあっても、その都度、環境が変わり、精神的に回避できる可能性が増えるのではと思います。特に児童生徒による特定児童生徒へのいじめやセクハラはグループで行われる場合が多く、いじめられる児童生徒にとっては地獄です。ここから逃れるには、不登校になるか、自殺しかありません。この場合、前述の交流によって、一人でも味方が出来れば（この味方が教員であればもっとベターですが）、ここから逃れられるチャンスが増えると思います。”

281 教育はどの子にとっても平等にあるべきです。家庭環境等（貧困 etc.）の問題で等しくない現状では、少子化になった原因は…大町も1000人が10年度には減少傾向とのこと。その理由は何なのでしょう。10年の間、どのような対策を考えているのでしょうか。教員の資質も。

285 本人の良い所をほめて成長させる。

297 国の宝である子どもの学力の格差をなんとかしてあげないと。厳しい社会生活の中で、生き抜く力の源（原点）として教育の大切さを広めて、強くしていただきたい。

298 私の子どもころは7クラスで、1クラス40人でした。子ども達は2クラスで35人くらいでした（小学校）。中学は、私の時は7クラスの40人、子ども達は5クラスで35人と本当に子どもがいらないですね。市民運動会には出たくても出られなかったのに、今は町内で人がいなく運動会への出席がなくなり、小中あわせても4人くらいの子供数で本当にこれからどうなるのかと考えさせられますね。国際化で英語も取り入れられるようになるとのことで時代の変化を感じます。いじめのない楽しい学校生活になることをのぞみます。

301 昭和12年に入学し、18年に女学校に入った者です。今の社会、学校教育に対してあまり話すことが出来ません。

308 学校同士の交流を深める（隣の学校の同学年の交流とか？）ようなこともあっていいのではないかと？

311 教育委員会としては、少子化による学校の配置等は、第一中学校、仁科台中学校を建て替える前に考えるべきだったと思っています。以前から、なぜ大町西小のみ中学校が分かれなければならないのか？なぜ市内のみ東小と西小に分けるのか？一学級になっても東小を維持しなければならないのか？疑問です。これからますます少子化が進みます。市内の通り一本で東小と西小に別れ、又、町別に一中と仁科台と別れ、高校、大学も別で、大人になってはじめて青年会議所、商工会議所等であっても、なじみのなく、ますます大町市としては発展することもむずかしいと思っています。一年でも早く市内の子ども達は、昔のように大町小学校、大町中学校に戻すべきと考えます。今後常盤地区の小学校は考える余地があると思いますが、学校の規模を見直し、学力の向上をはかってほしいと思います。

313 孫が20歳過ぎて親が二人そろって口出しはしない別屋根で暮らしておりますので、孫の事わかりません。強い子供に育ちます様に良い社会を考え進めてください。私の子どもころのアンケート大切。私は老人だからだめです。

315 日々、大町市の子どもたちの為にありがとうございます。少子化が進み、様々な問題が出てくるか

- と思いますが、ここで育った子供たちが大町市を大切に思い続けられるよう願っています。
- 316 学校教育も大事だと思います。健全な肉体、心、人間として正直である人材を育成してほしい。今の子どもも大人も病んでいる。自分だけは大丈夫と勝手に想う人間が多い。素直な心、暖かい心、人のいたみのわかる人間に！社会道徳を養ってもらいたいです。一人一人がまず人と向き合う大切さをもう一度見つめなおしてほしいものです。向かい合う者。物、動物等。
- 320 児童数が減少したときは市の職員も減員するべきと思う。少子化とは社会現象であるが現代の一人一人の考えなのでどうする余地はない。願わくは正しく強い善悪をわきまえる子に教育してほしい。そうすればいじめ等は減るのではないかと。
- 328 少子化による児童、生徒数の減少は避けられない以上、学校教育そのものを見直す、大胆な発想を受け入れる。
- 333 厳しすぎる規則は、学生のアイデンティティの形成が歪なものになる可能性がある。先生について、学習指導担当と、生活面及び心の指導と見守り担当の2つが、しっかりと確認されることが望ましい。(SNS・いじめなど、従来より重く複雑になってきている)今の先生の配置では荷が重いのではないかと。児童より先に先生の方が心配だ。
- 361 小学校低学年は特に個別での関わりを大切にしてほしいです。低学年の内から先生との信頼関係を築いたり、友だちとの関わりを通してコミュニケーション力をつけることでいじめや不登校など、改善していけるのではないかなと思います。また、発達障がいのお子さんが増えているため、いち早くその障がいに気づき、大人や教師がその子の学校生活が充実できるよう、対応していきけるよう、配慮して欲しいなと思います。
- 368 市民としてささいな事でも協力できる事ができれば幸いです。ただ協力したい反面、不特定多数の人間が学校に出入りする事は危険(自分もあやしい人物とみなされる)だという実状もあり難しい問題だとも思います。
- 369 読書の時間を設けることが、学力向上につながると考えます。自分の子どもには、読書を習慣化させたい。
- 371 私ではお役にたてませんが、義務教育で教養、協調を身に付ける事が大切な事と思います。基礎を大切に成長、前進すると思います。皆で大切に協力して子育てしましょう。
- 372 隣の地区で教員をしています。教員への負担が年々増えていくように感じます。こんなことまで学校が教えないといけないの？と思うことがたまにあります。まず各家庭を支援し、保護者の皆さまが余裕をもって子育てができるように支援して欲しいです。
- 375 教職員で魅力のある方の流出が多い気がします。生徒の対応の仕方も様々であり、不登校の多いクラスの担任には研修制度等あっても良い気がする。民間企業の会社員と違って、先生という仕事柄個々の中で解決、完結してしまう部分も多く、ここ近年疑問に感じる事も多々あった。年功序列の制度にもとても疑問を感じる。若くてもすばらしい方は大勢いるし、年配の方でもただ経験年数が多いだけの方もいる。
- 388 学校の適正配置の検討は、子どもの学習環境を最優先で進めていただくことが大事だと思います。
- 395 現在の状況、将来を考えると、一中、仁科台の2中学校にすべきである。美麻中の特区扱いは間違いです。

資料5 義務教育に関する第1回保護者アンケート調査結果

○調査の対象

市内の小中学校に通学する児童・生徒の保護者

○調査期間等

学校を經由し配布、回収

学校の都合により平成30年11月～平成31年12月の間に実施

○回収率

	東小	西小	南小	北小	八坂小	一中	仁中	八坂中	美麻	計
対象数	192	255	281	327	36	254	365	27	93	1,830
回収数	166	190	238	262	21	220	123	17	43	1,280
回収率 %	86.5	74.5	84.7	80.1	58.3	86.6	33.7	63.0	46.2	69.9

○設問

適当と思われる番号に○印を付けてください

1 (1) お子様が生籍する学級の1学級あたりの児童・生徒数についてどうお考えですか。(長野県では、小学校・中学校の全学年で35人以下と定めています)

- ①適当と考える
 - ②現在より1学級あたりの児童・生徒数が少ない方が適当と考える
 - ③現在より1学級あたりの児童・生徒数が多い方が適当と考える
 - ④その他(ご記入ください)
-

(2) 前設問の回答について、そう思われる一番大きな理由をお答えください。

- ①それぞれの児童・生徒に応じた、ていねいな指導を受けることができる
 - ②学力を伸ばすことができる
 - ③社会性を育むことができる
 - ④多くの児童・生徒と触れ合うことができる
 - ⑤その他(ご記入ください)
-

2 (1) お子様の学年の1学年あたりの学級数についてどのようにお考えですか。(法令では、小・中学校ともに12学級以上18学級以下を標準規模としています)

- ①現状の学級数が適当と考える
 - ②現在より1学年あたりの学級数が少ない方が適当と考える
 - ③現在より1学年あたりの学級数が多い方が適当と考える
 - ④その他(ご記入ください)
-

(2) 前設問の回答について、そう思われる一番大きな理由をお答えください。

- ①ひとりひとりの児童・生徒に目が行き届く
 - ②児童・生徒が仲良く親密になれる
 - ③協調性を養う機会に恵まれる
 - ④児童会・生徒会・部活動などの選択の幅が広がる
 - ⑤その他（ご記入ください）
-

3 お子様の通学時間（スクールバスや JR など公共交通機関の利用を含めた、自宅から学校までの通学時間）は、どの程度までが適当と思われますか。

- ①15分以内
- ②30分以内
- ③45分以内
- ④安全な交通手段が確保されるのであれば時間は特に問わない

4 学校の施設・設備の充実について、優先して取り組むべきと思われる項目を2つ選んでください。

- ①トイレなど衛生面の設備
 - ②教室の空調設備
 - ③体育館、グラウンド、プールなど体育施設
 - ④ICT教育環境
 - ⑤老朽化した施設、設備の更新
 - ⑥その他（ご記入ください）
-

5 現在の学校教育環境についてどのようなお考えをお持ちですか。自由にご記入ください。

ご協力ありがとうございました。匿名で構いませんが、差し支えなければ、お答えいただいた方の学校名、お名前をご記入ください。

学校名

お名前

各設問の回答状況

全体	質問 1 (1)		質問 1 (2)		質問 2 (1)		質問 2 (2)		質問 3		質問 4	
	回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率
回答①	966	76.2%	724	61.8%	909	72.3%	528	47.2%	273	22.3%	487	24.5%
回答②	240	18.9%	35	3.0%	56	4.5%	157	14.0%	718	58.8%	750	37.7%
回答③	46	3.6%	209	17.8%	265	21.1%	272	24.3%	93	7.6%	126	6.3%
回答④	15	1.2%	171	14.6%	28	2.2%	111	9.9%	138	11.3%	190	9.5%
回答⑤			32	2.7%			51	4.6%			401	20.2%
回答⑥											36	1.8%

東小	質問 1 (1)		質問 1 (2)		質問 2 (1)		質問 2 (2)		質問 3		質問 4	
	回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率
回答①	99	60.4%	95	63.3%	74	45.1%	63	42.9%	55	34.0%	28	10.5%
回答②	49	29.9%	3	2.0%	13	7.9%	22	15.0%	90	55.6%	116	43.4%
回答③	15	9.1%	23	15.3%	74	45.1%	35	23.8%	1	0.6%	25	9.4%
回答④	1	0.6%	29	19.3%	3	1.8%	18	12.2%	16	9.9%	39	14.6%
回答⑤			0	0.0%			9	6.1%			52	19.5%
回答⑥											7	2.6%

西小	質問 1 (1)		質問 1 (2)		質問 2 (1)		質問 2 (2)		質問 3		質問 4	
	回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率
回答①	160	84.7%	104	60.8%	141	74.6%	64	39.3%	47	26.3%	74	25.0%
回答②	19	10.1%	3	1.8%	6	3.2%	27	16.6%	102	57.0%	104	35.1%
回答③	8	4.2%	40	23.4%	38	20.1%	52	31.9%	14	7.8%	14	4.7%
回答④	2	1.1%	21	12.3%	4	2.1%	16	9.8%	16	8.9%	18	6.1%
回答⑤			3	1.8%			4	2.5%			81	27.4%
回答⑥											5	1.7%

南小	質問 1 (1)		質問 1 (2)		質問 2 (1)		質問 2 (2)		質問 3		質問 4	
	回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率
回答①	200	84.7%	147	65.0%	196	83.8%	114	51.8%	42	17.9%	146	36.0%
回答②	31	13.1%	7	3.1%	5	2.1%	35	15.9%	138	59.0%	135	33.3%
回答③	2	0.8%	37	16.4%	29	12.4%	48	21.8%	26	11.1%	10	2.5%
回答④	3	1.3%	30	13.3%	4	1.7%	11	5.0%	28	12.0%	26	6.4%
回答⑤			5	2.2%			12	5.5%			84	20.7%
回答⑥											5	1.2%

北小	質問 1 (1)		質問 1 (2)		質問 2 (1)		質問 2 (2)		質問 3		質問 4	
	回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率
回答①	201	77.6%	155	63.8%	193	74.8%	105	47.1%	42	17.0%	143	35.0%
回答②	48	18.5%	5	2.1%	11	4.3%	35	15.7%	153	61.9%	144	35.3%
回答③	6	2.3%	36	14.8%	50	19.4%	47	21.1%	21	8.5%	11	2.7%
回答④	4	1.5%	34	14.0%	4	1.6%	21	9.4%	31	12.6%	28	6.9%
回答⑤			13	5.3%			15	6.7%			74	18.1%
回答⑥											8	2.0%

八坂小	質問 1 (1)		質問 1 (2)		質問 2 (1)		質問 2 (2)		質問 3		質問 4	
	回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率
回答①	8	38.1%	18	94.7%	11	52.4%	13	76.5%	2	9.5%	9	29.0%
回答②	11	52.4%	0	0.0%	8	38.1%	2	11.8%	12	57.1%	10	32.3%
回答③	0	0.0%	0	0.0%	1	4.8%	1	5.9%	4	19.0%	1	3.2%
回答④	2	9.5%	1	5.3%	1	4.8%	0	0.0%	3	14.3%	1	3.2%
回答⑤			0	0.0%			1	5.9%			10	32.3%
回答⑥											0	0.0%

第一中	質問 1 (1)		質問 1 (2)		質問 2 (1)		質問 2 (2)		質問 3		質問 4	
	回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率
回答①	187	85.0%	107	53.8%	177	81.9%	91	48.4%	57	28.6%	50	16.3%
回答②	31	14.1%	6	3.0%	3	1.4%	24	12.8%	106	53.3%	130	42.3%
回答③	1	0.5%	48	24.1%	33	15.3%	45	23.9%	12	6.0%	41	13.4%
回答④	1	0.5%	31	15.6%	3	1.4%	24	12.8%	24	12.1%	42	13.7%
回答⑤			7	3.5%			4	2.1%			39	12.7%
回答⑥											5	1.6%

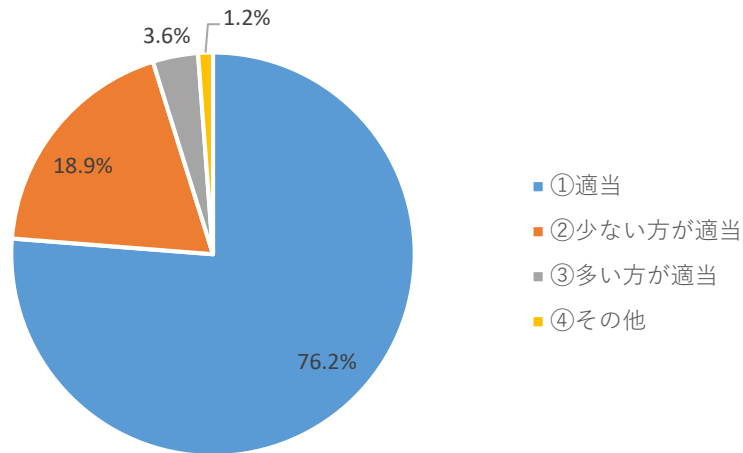
仁中	質問 1 (1)		質問 1 (2)		質問 2 (1)		質問 2 (2)		質問 3		質問 4	
	回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率
回答①	78	63.4%	61	53.0%	81	67.5%	48	42.5%	17	14.0%	20	10.4%
回答②	41	33.3%	10	8.7%	4	3.3%	8	7.1%	88	72.7%	97	50.3%
回答③	4	3.3%	21	18.3%	30	25.0%	37	32.7%	7	5.8%	18	9.3%
回答④	0	0.0%	21	18.3%	5	4.2%	14	12.4%	9	7.4%	27	14.0%
回答⑤			2	1.7%			6	5.3%			28	14.5%
回答⑥											3	1.6%

八坂中	質問 1 (1)		質問 1 (2)		質問 2 (1)		質問 2 (2)		質問 3		質問 4	
	回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率
回答①	9	56.3%	12	85.7%	12	75.0%	9	64.3%	2	11.8%	6	25.0%
回答②	7	43.8%	0	0.0%	4	25.0%	2	14.3%	9	52.9%	6	25.0%
回答③	0	0.0%	1	7.1%	0	0.0%	1	7.1%	4	23.5%	0	0.0%
回答④	0	0.0%	1	7.1%	0	0.0%	2	14.3%	2	11.8%	4	16.7%
回答⑤			0	0.0%			0	0.0%			8	33.3%
回答⑥											0	0.0%

美麻	質問 1 (1)		質問 1 (2)		質問 2 (1)		質問 2 (2)		質問 3		質問 4	
	回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率
回答①	24	61.5%	25	73.5%	24	60.0%	21	61.8%	9	21.4%	11	19.0%
回答②	3	7.7%	1	2.9%	2	5.0%	2	5.9%	20	47.6%	8	13.8%
回答③	10	25.6%	3	8.8%	10	25.0%	6	17.6%	4	9.5%	6	10.3%
回答④	2	5.1%	3	8.8%	4	10.0%	5	14.7%	9	21.4%	5	8.6%
回答⑤			2	5.9%			0	0.0%			25	43.1%
回答⑥											3	5.2%

市内全小中学校の集計

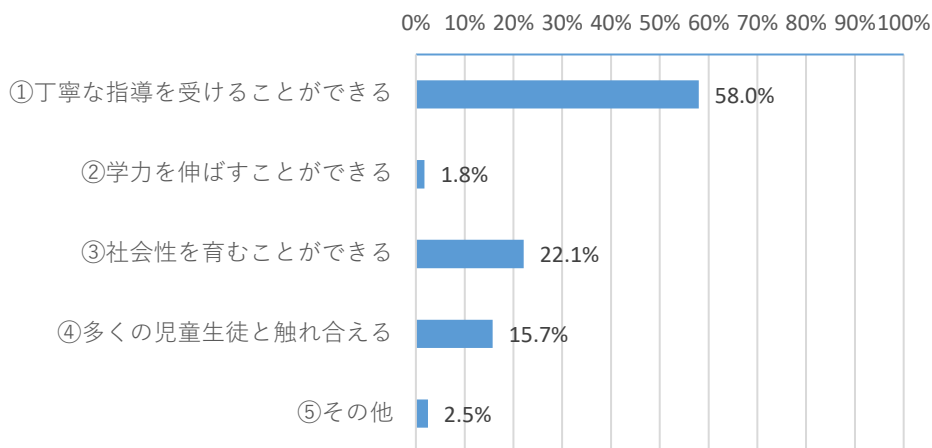
質問 1 1 学級当たりの児童・生徒数について



④ その他の主な記載内容

- ・先生によって異なる
- ・25人が適当
- ・30人が適当
- ・過疎により既に児童生徒が少ない。
- ・自然の増減にまかせる

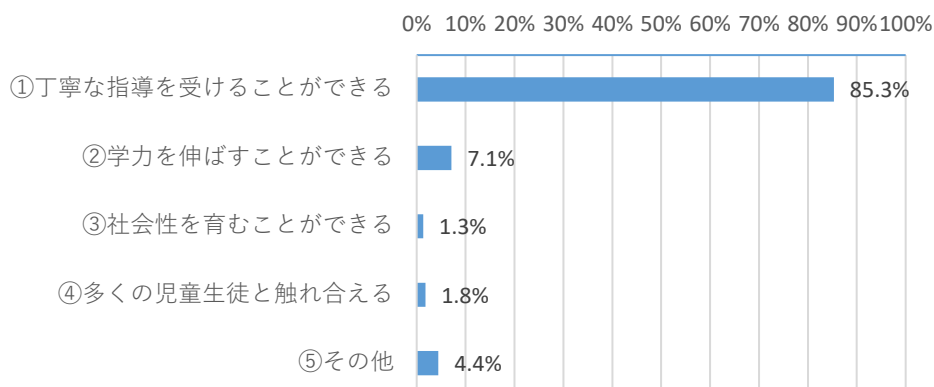
質問 1 で①「適当」を選んだ方の回答



⑤ その他の主な記載内容

- ・子どもが安心して過ごすことができる人数である。
- ・現状に特に問題がない。
- ・現状の児童数が、先生の目が行き届く範囲である。
- ・特に変える必要はない。必要に応じ加配で対応すればよい。

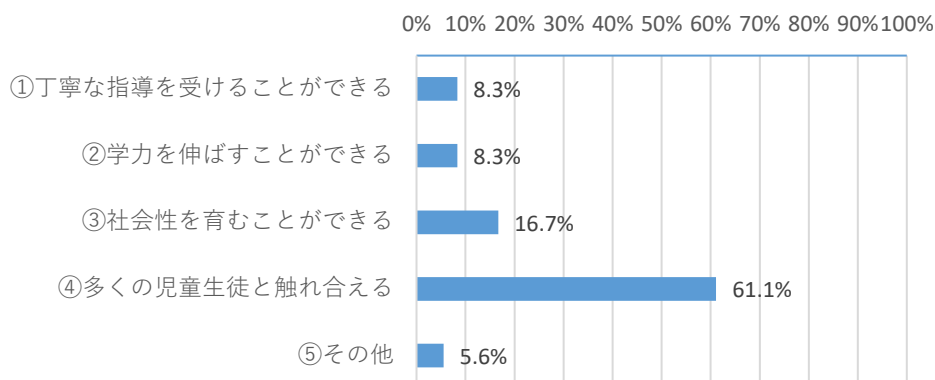
質問1で②「少ない方が適当」を選んだ方の回答



⑤その他の主な記載内容

- ・先生の指導に余裕がない。丁寧な指導ができていない。
- ・先生の目が行き届かない。
- ・少ない方が個性を引き出せる。自己主張ができる。
- ・落ち着きのない学年は、定数35人にとらわれず対応して欲しい。
- ・成長により体格大きくなり、高学年になると教室が狭い。

質問1で③「多い方が適当」を選んだ方の回答



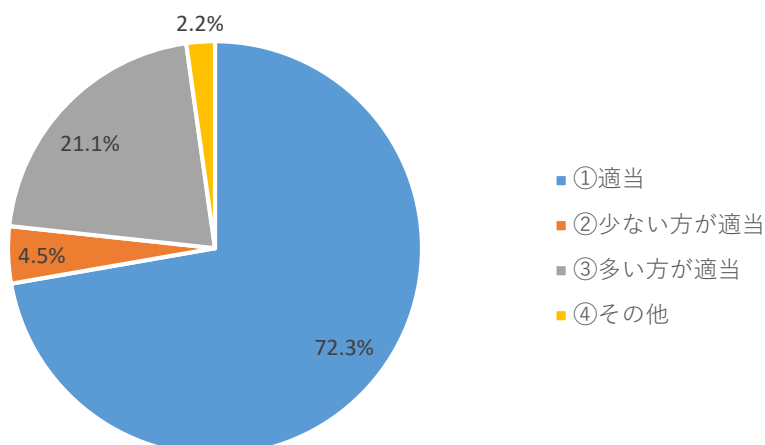
⑤その他の主な記載内容

- ・少人数では刺激が少なく、競争心に欠ける。
- ・生徒数が多くなることにより、切磋琢磨しあい個々の能力を高められる。

質問1で④「その他」を選んだ回答で理由を「その他」としたものの主な記載内容

- ・一人ひとりとの向き合い、人間性、人間関係を大事に。
- ・1学級25名程度が先生の指導、意思疎通が図られる。

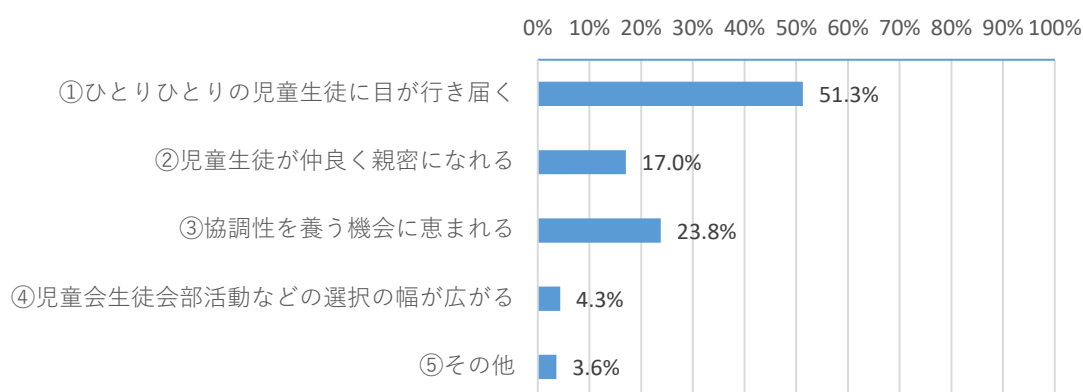
質問2 1学年当たりの児童・生徒数について



④その他の主な記載内容

- ・学年に3クラスが理想。
- ・学級数は多い方良いが。子どもの人数が減っているので仕方ない。これにより統合まで考えられない。
- ・学級数にはこだわらない。
- ・すでに1クラスしかない。
- ・クラス当たりの定員を20人として学級を増やす。

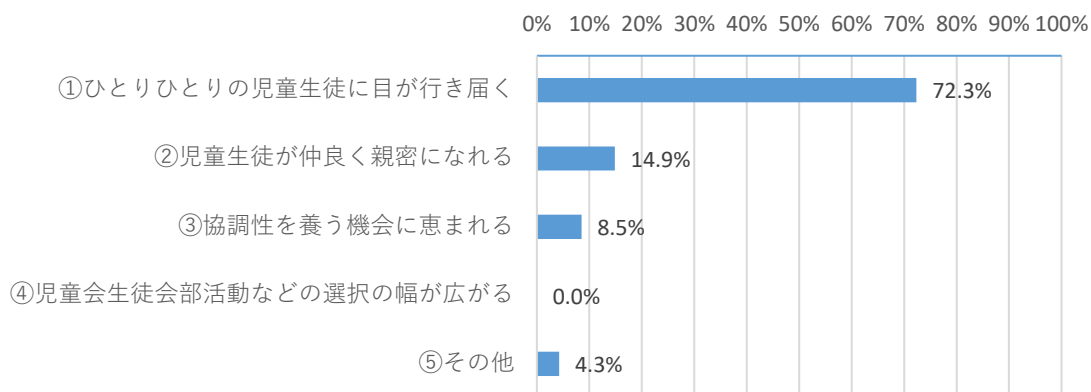
質問2で①「適当」を選んだ方の回答



⑤その他の主な記載内容

- ・現状と標準規模が乖離している。
- ・現在のままで良い。特に困っていない。問題ない。
- ・クラス替えはあった方がよい。
- ・クラス数は多いほど良いが、統合や遠距離通学は良くない。
- ・現状が、先生の目が行き届く範囲である。

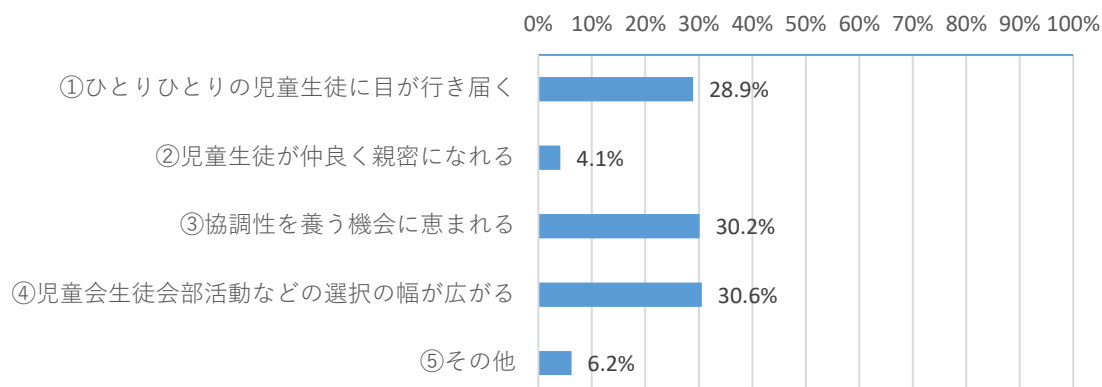
質問2で②「少ない方が適当」を選んだ方の回答



⑤その他の主な記載内容

- ・空欄（記載なし）

質問2で③「多い方が適当」を選んだ方の回答



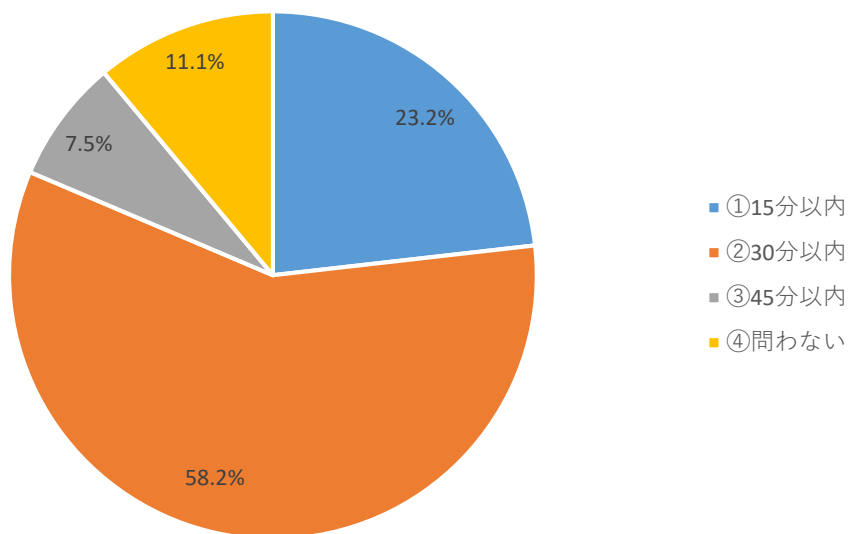
⑤その他の主な記載内容

- ・様々な場面で自身と異なる価値観、考え方に触れ合うことができる。
- ・多くの友だちと触れ合いができる。人間関係の築き方を学ぶことができる。
- ・友だち関係で問題が生じたとき対応が困難。
- ・クラス替えが必要。クラス替えをしても同じ子と同じクラスになりやすい。
- ・切磋琢磨して能力を伸ばすことができる。

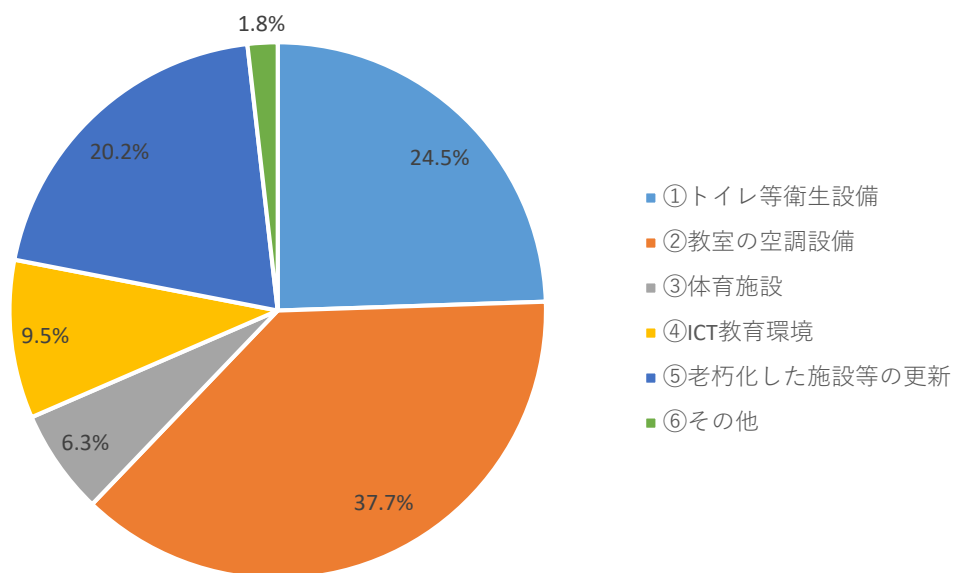
質問2で④「その他」を選んだ回答で、理由を「その他」としたものの主な記載内容

- ・仕方ない。
- ・団体として捉え活動することは少ない。

質問3 通学時間



質問4 学校施設・設備の充実について



④その他の主な記載内容

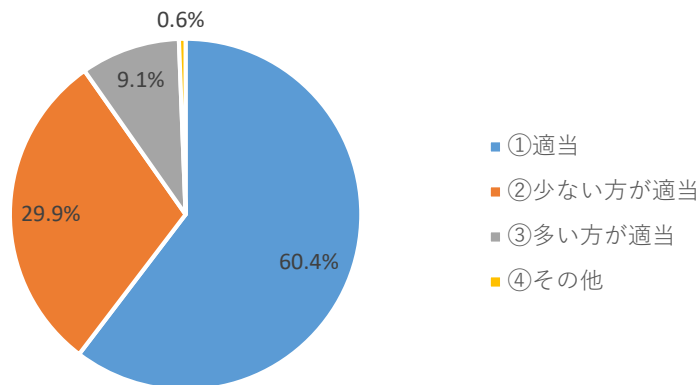
- ・冷房（職員室含む）12件
- ・トイレ（外トイレ含む）6件
- ・プール5件
- ・教室の照明2件
- ・網戸
- ・遊具
- ・楽器
- ・駐車場
- ・動物対策
- ・スクールバス2件
- ・通学路の安全確保

各学校ごとの集計

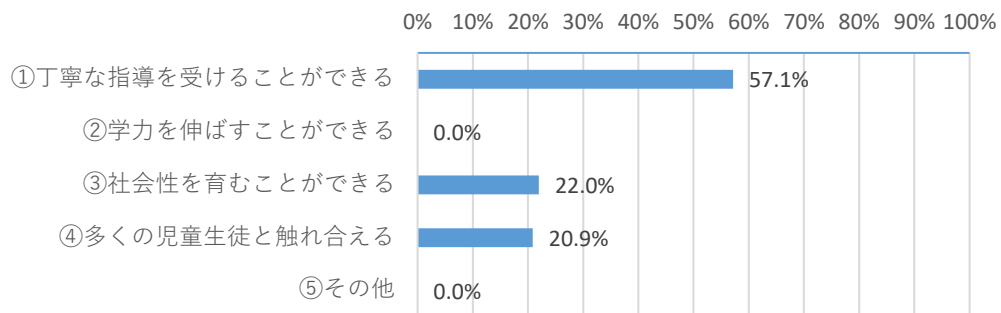
東小 P1

大町東小学校

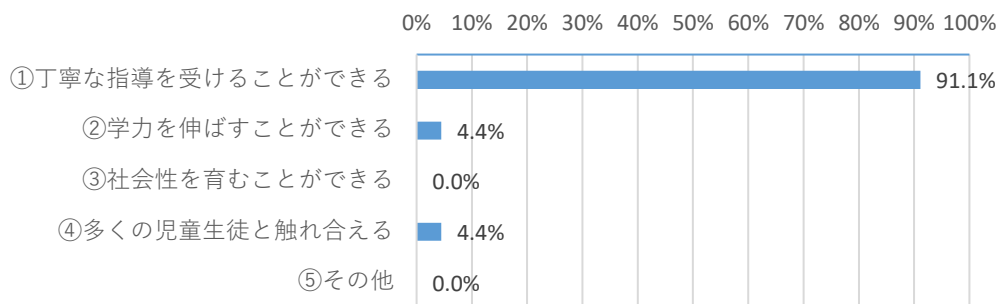
質問1 1学級当たりの児童・生徒数について



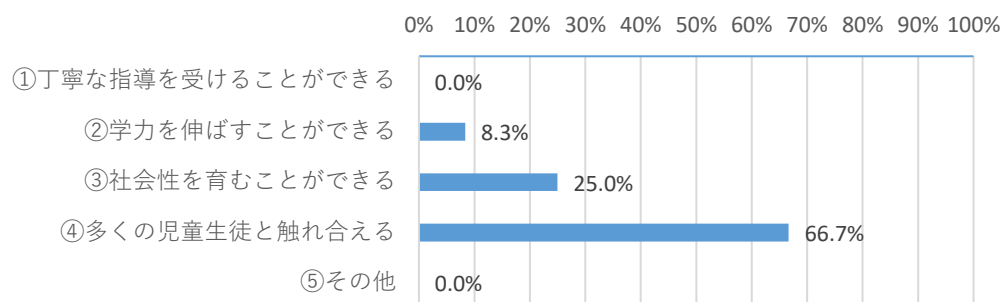
質問1で①「適当」を選んだ方の回答



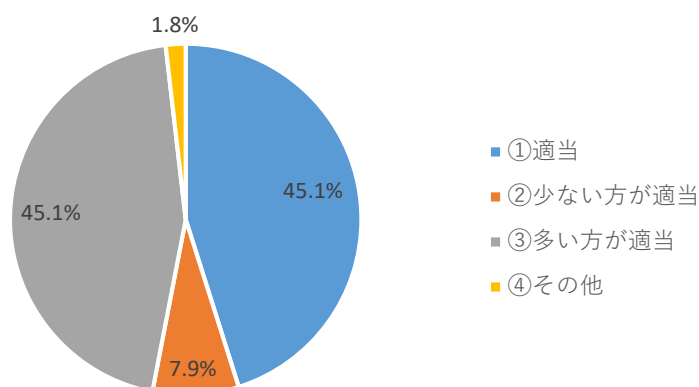
質問1で②「少ない方が適当」を選んだ方の回答



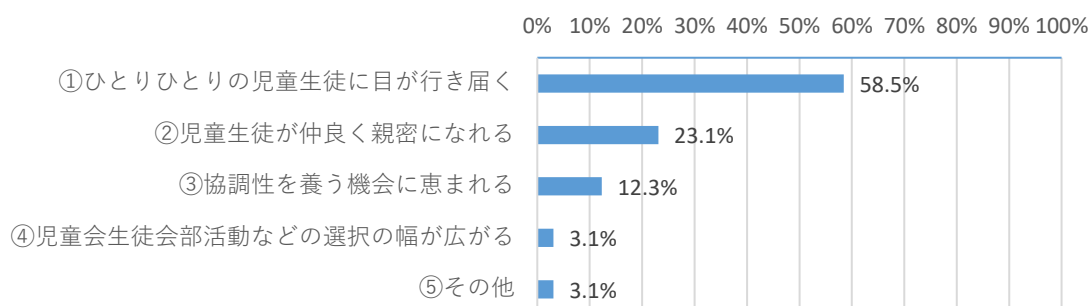
質問1で③「多い方が適当」を選んだ方の回答



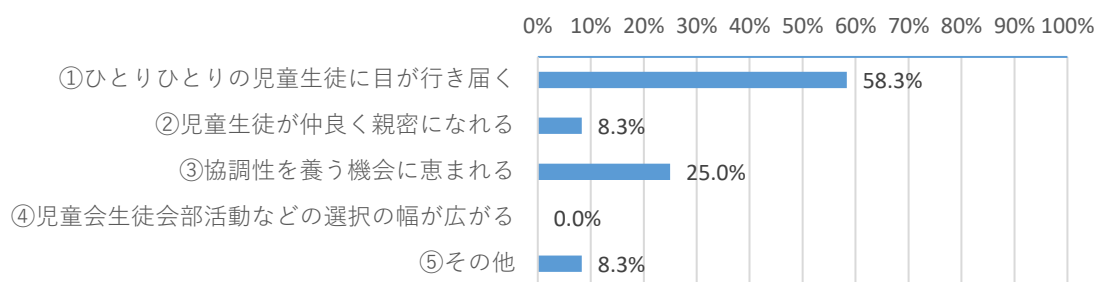
質問2 1学年当たりの児童・生徒数について



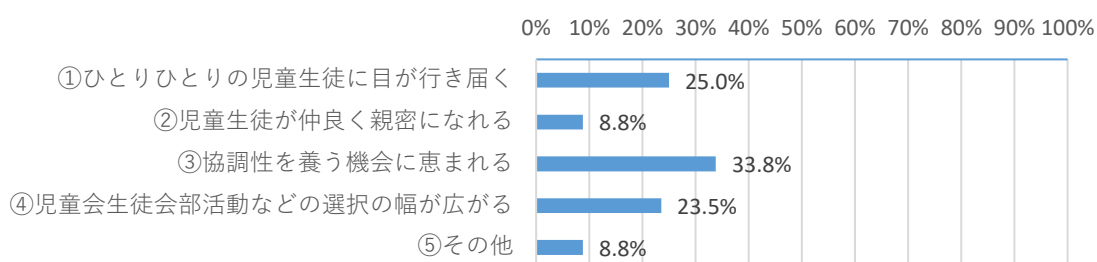
質問2で①「適当」を選んだ方の回答



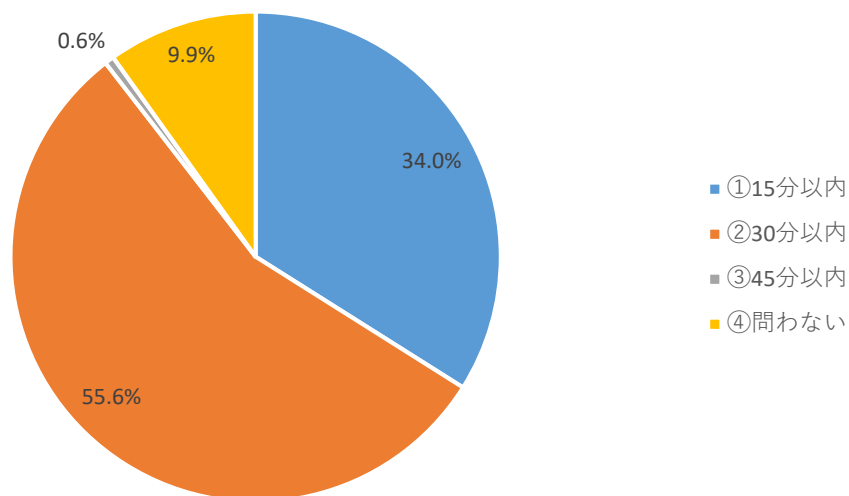
質問2で②「少ない方が適当」を選んだ方の回答



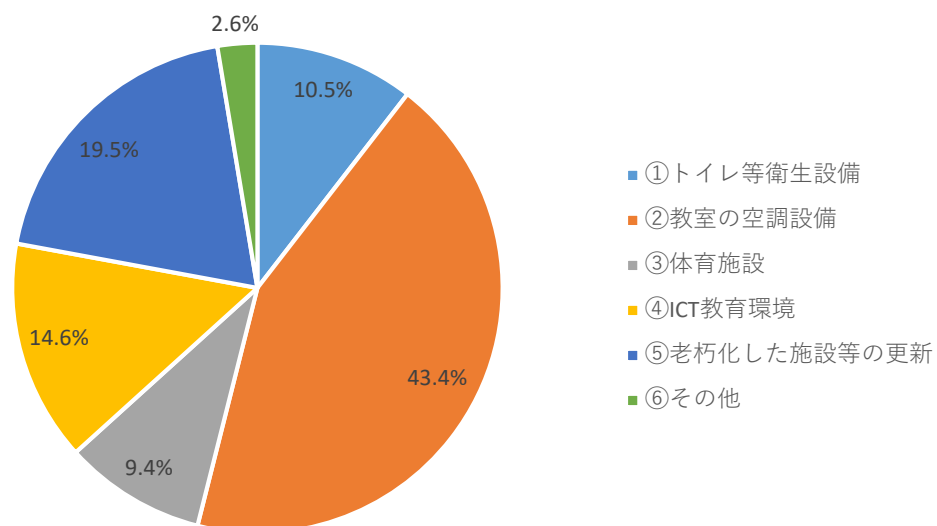
質問2で③「多い方が適当」を選んだ方の回答



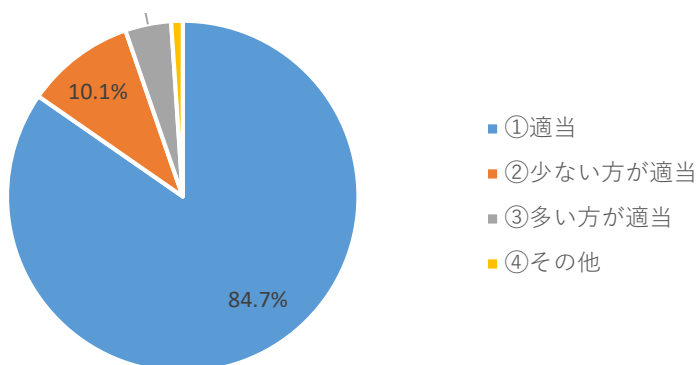
質問3 通学時間について



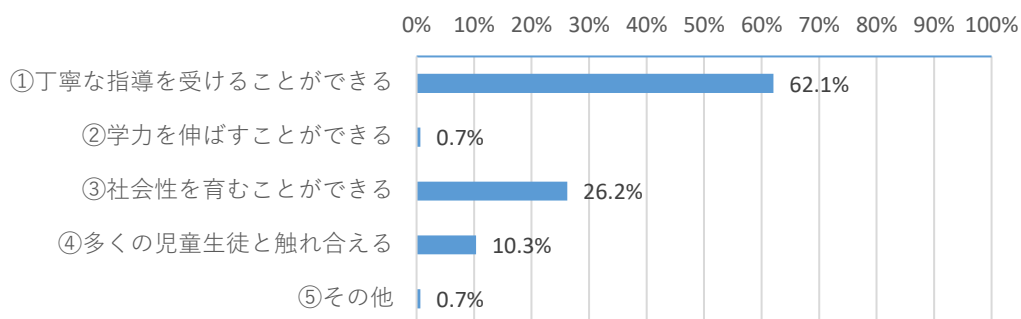
質問4 学校施設・設備の充実について



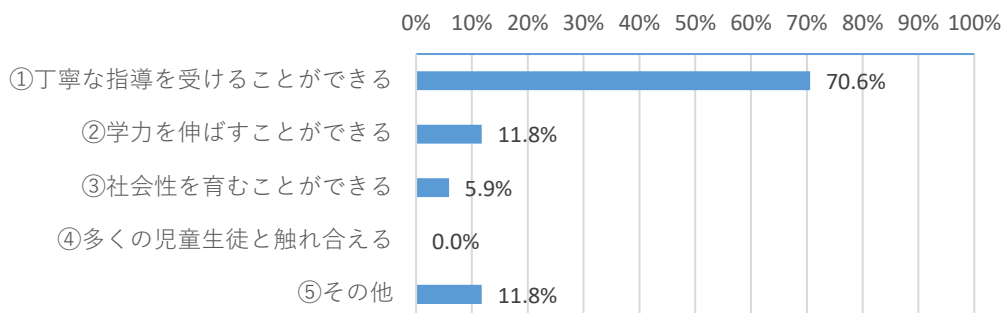
質問1 1学級当たりの児童・生徒数について



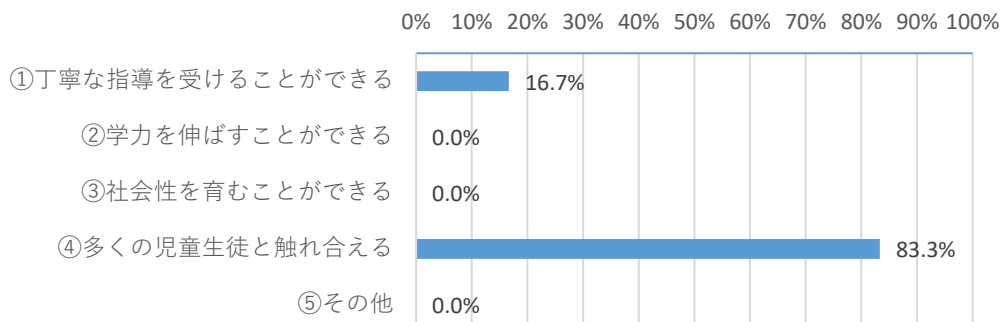
質問1で①「適当」を選んだ方の回答

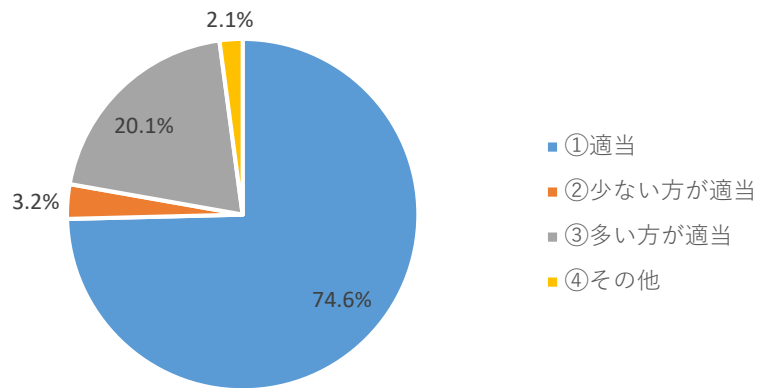


質問1で②「少ない方が適当」を選んだ方の回答

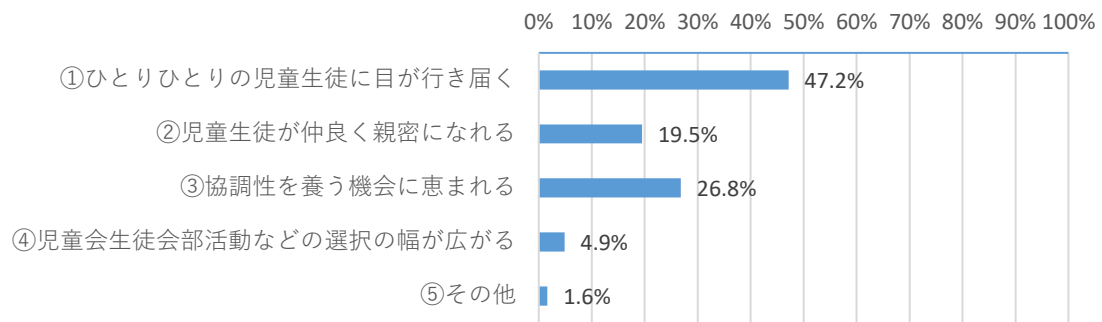


質問1で③「多い方が適当」を選んだ方の回答

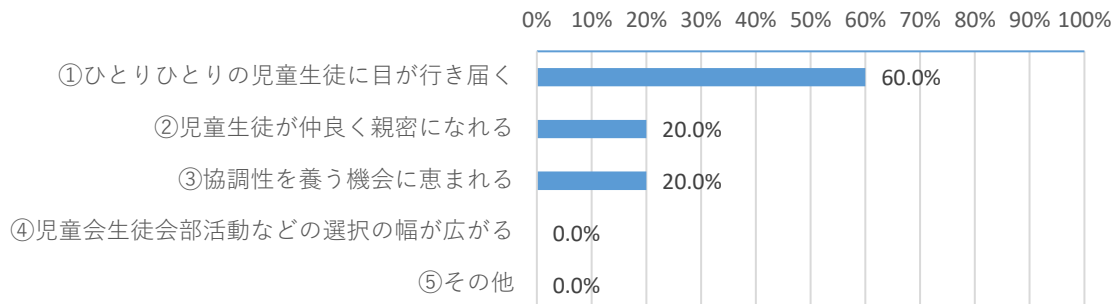




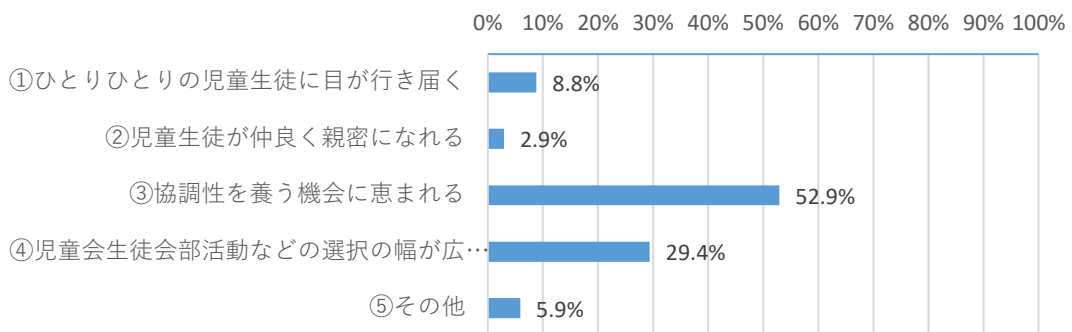
質問2で①「適当」を選んだ方の回答



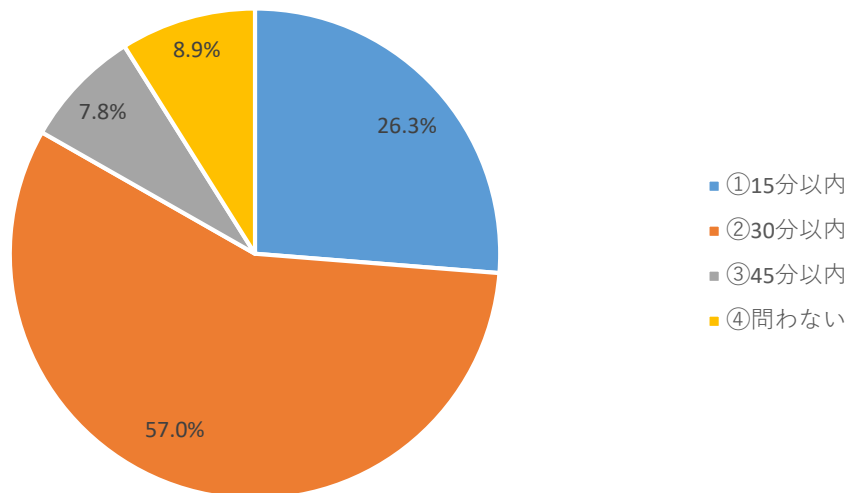
質問2で②「少ない方が適当」を選んだ方の回答



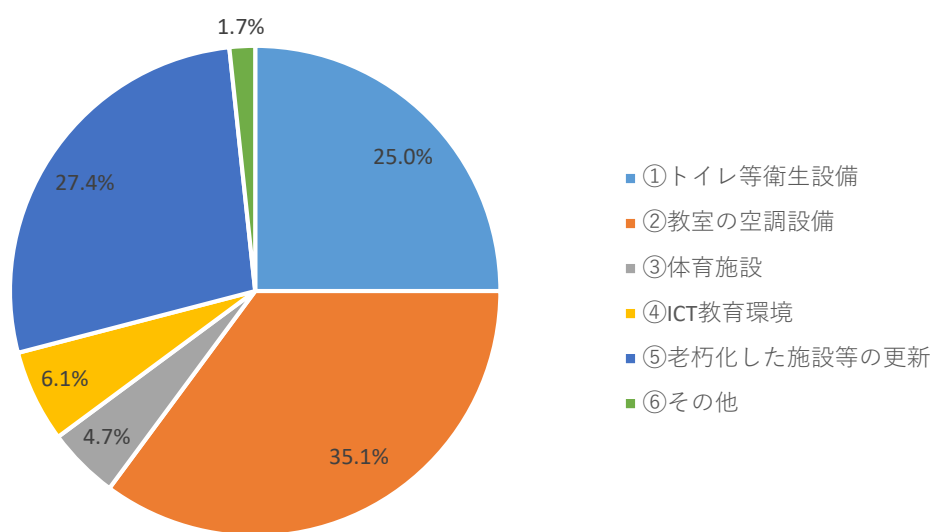
質問2で③「多い方が適当」を選んだ方の回答



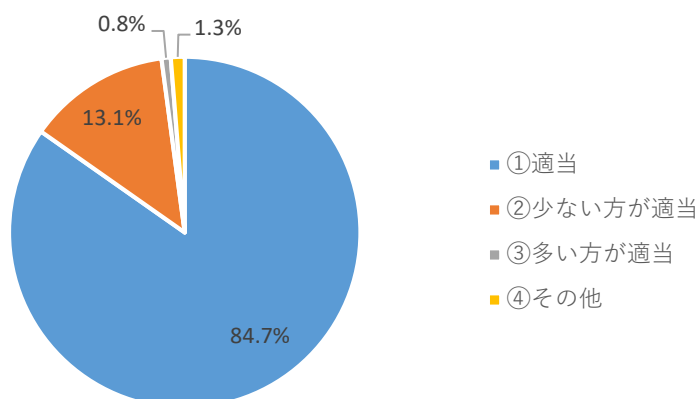
質問3 通学時間について



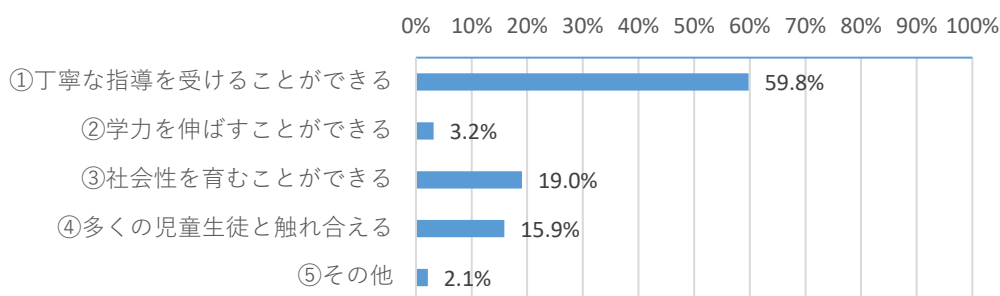
質問4 学校施設・設備の充実について



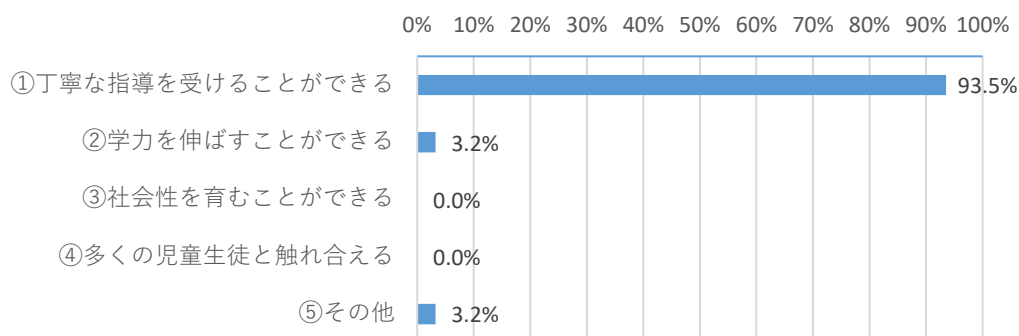
質問1 1学級当たりの児童・生徒数について



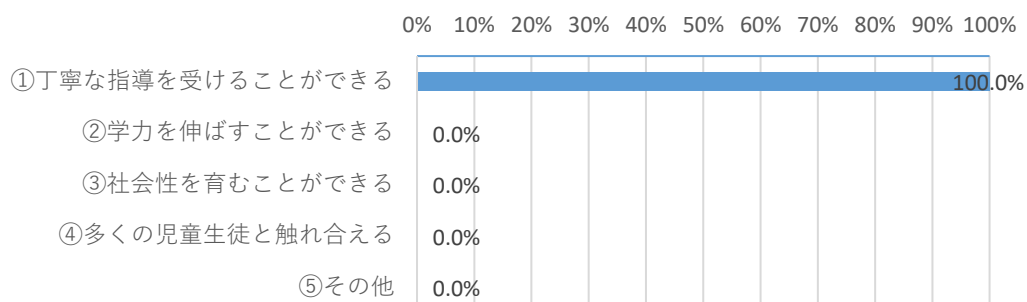
質問1で①「適当」を選んだ方の回答



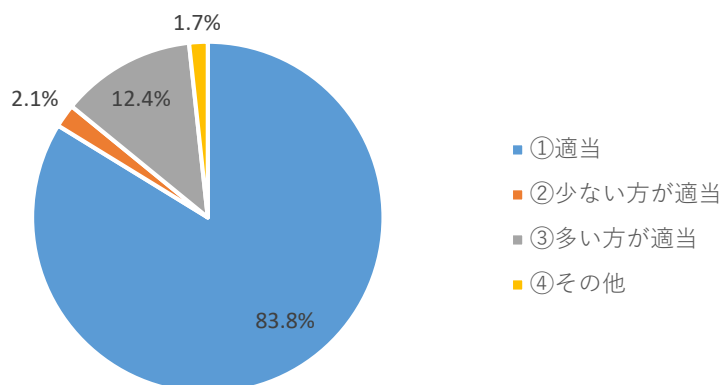
質問1で②「少ない方が適当」を選んだ方の回答



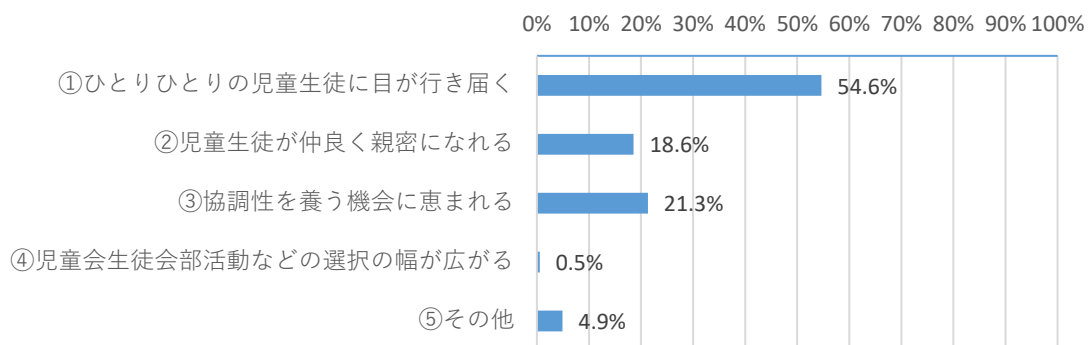
質問1で③「多い方が適当」を選んだ方の回答



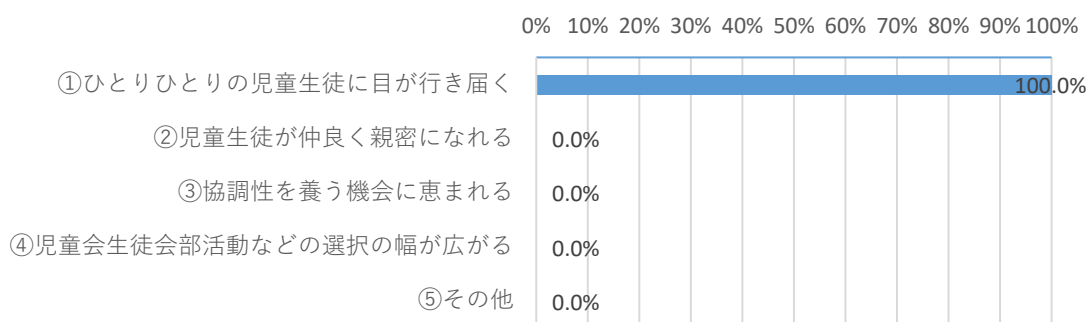
質問2 1学年当たりの児童・生徒数について



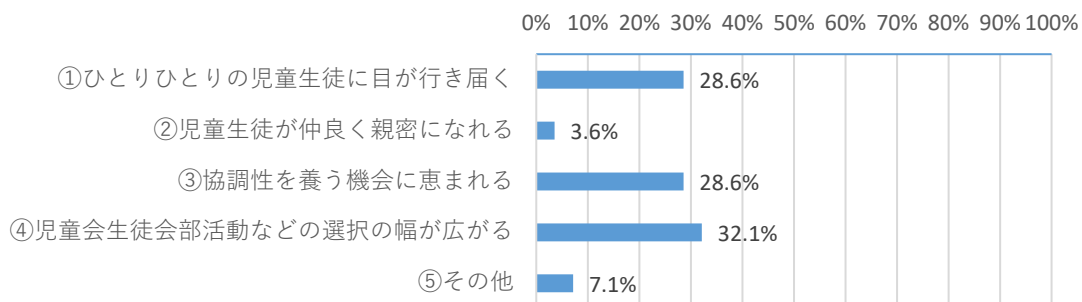
質問2で①「適当」を選んだ方の回答



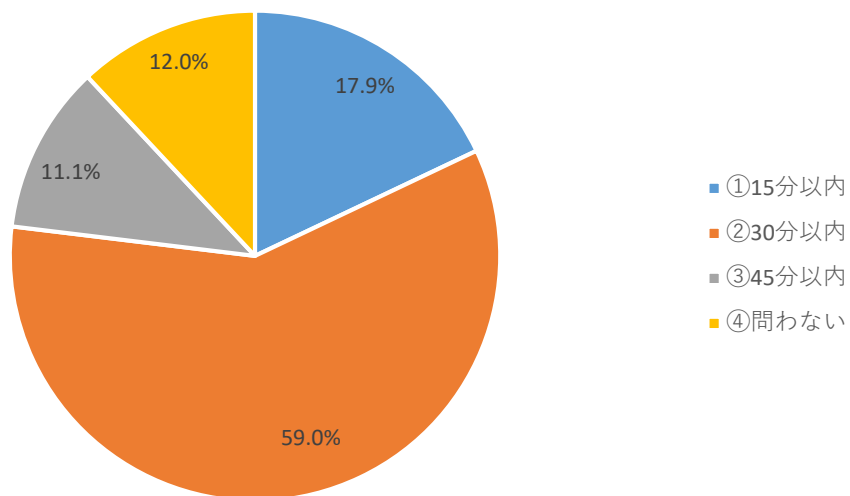
質問2で②「少ない方が適当」を選んだ方の回答



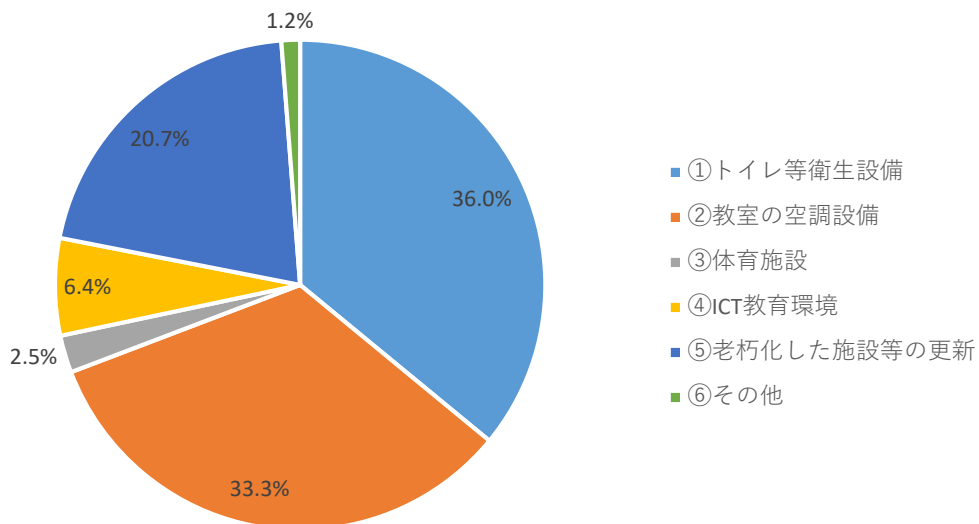
質問2で③「多い方が適当」を選んだ方の回答



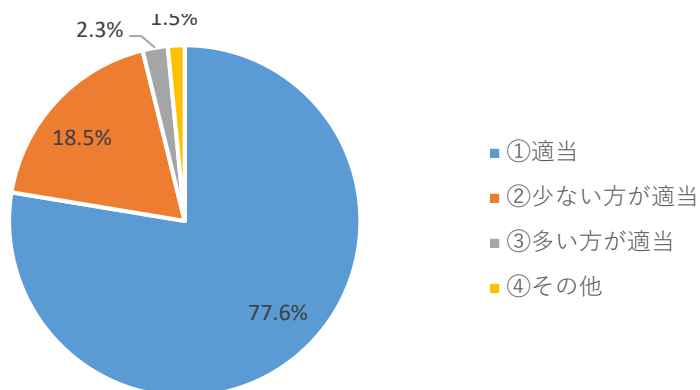
質問3 通学時間について



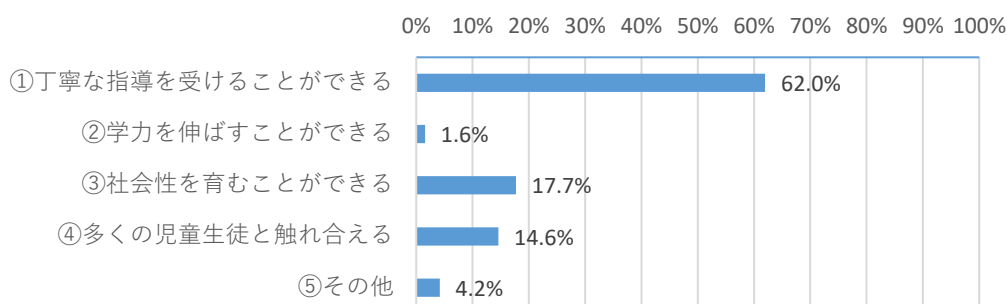
質問4 学校施設・設備の充実について



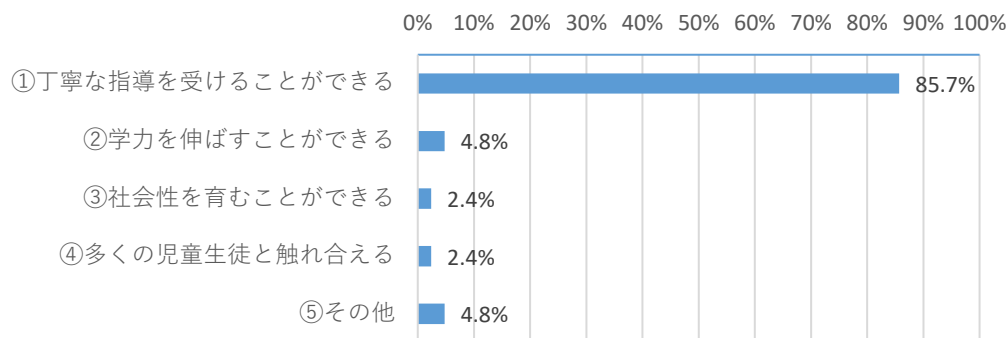
質問1 1学級当たりの児童・生徒数について



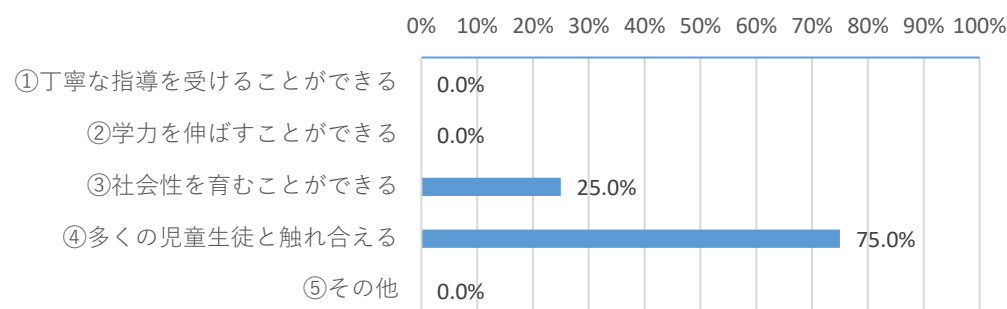
質問1で①「適当」を選んだ方の回答

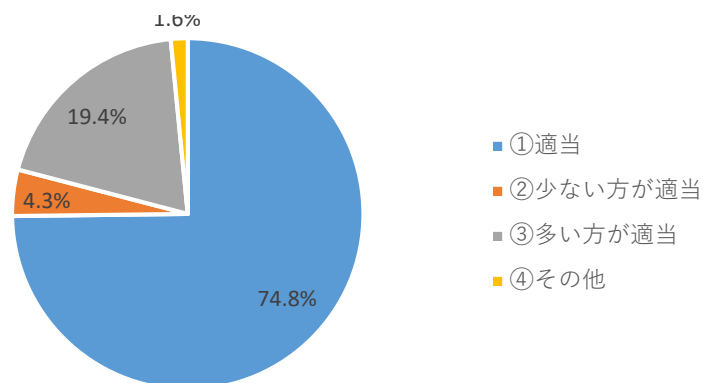


質問1で②「少ない方が適当」を選んだ方の回答

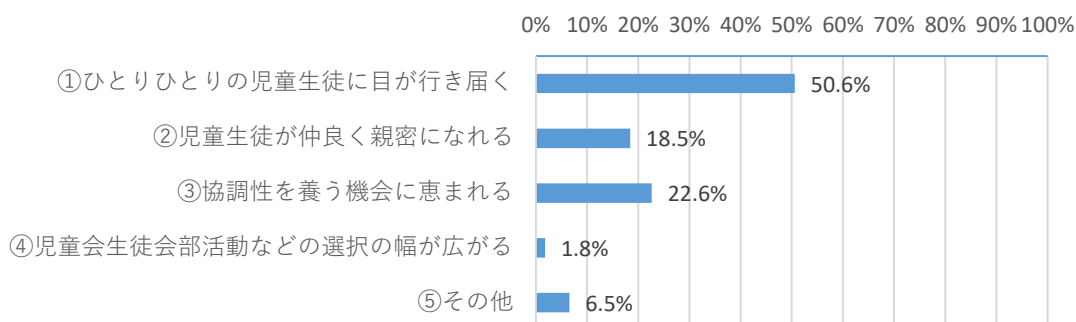


質問1で③「多い方が適当」を選んだ方の回答

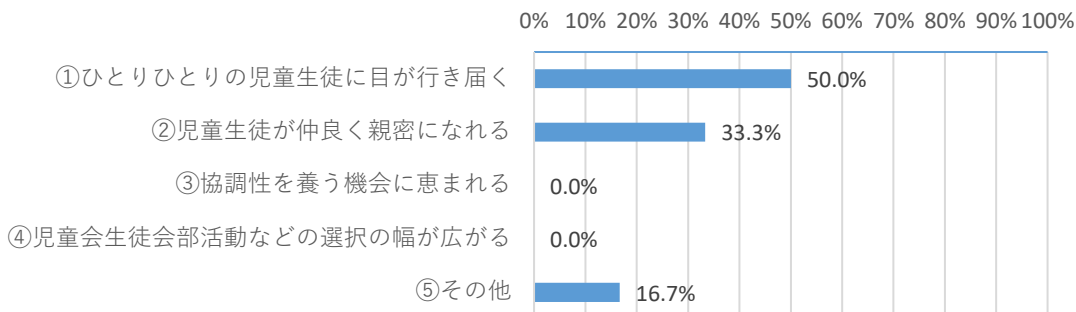




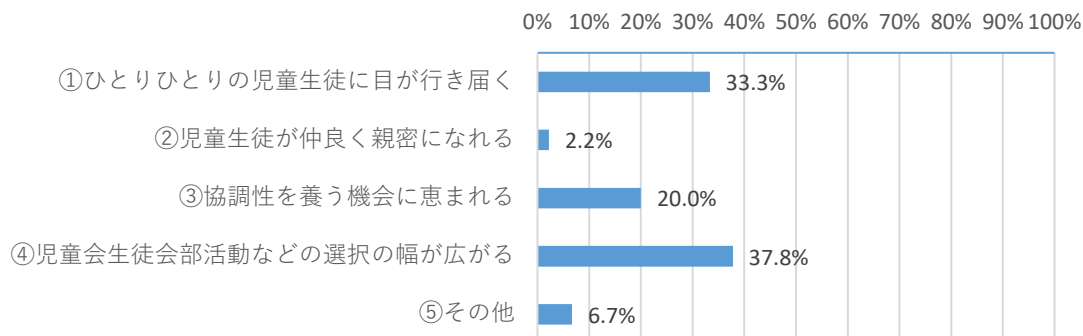
質問 2 で①「適当」を選んだ方の回答



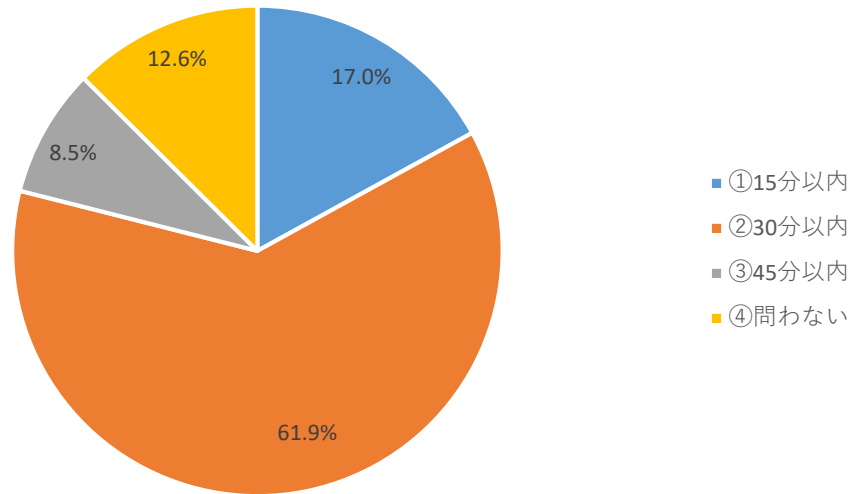
質問 2 で②「少ない方が適当」を選んだ方の回答



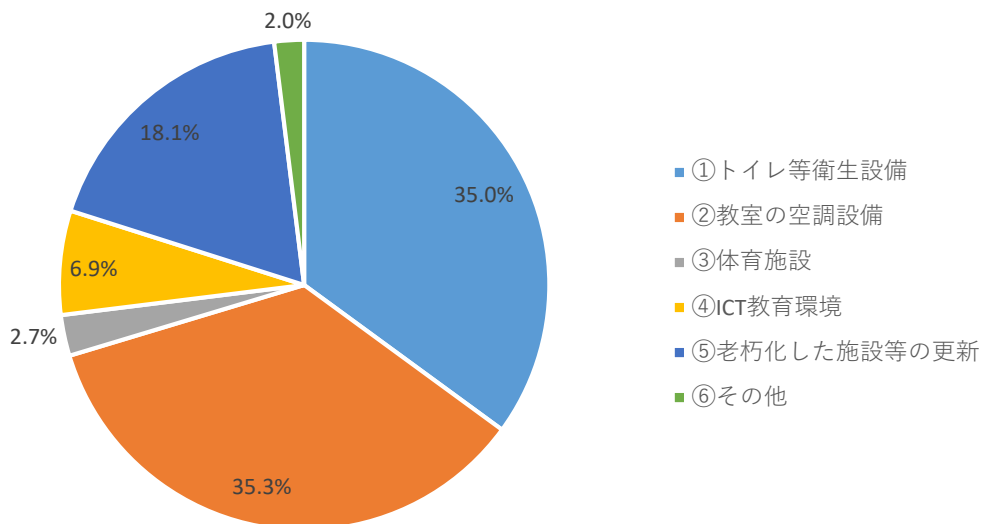
質問 2 で③「多い方が適当」を選んだ方の回答



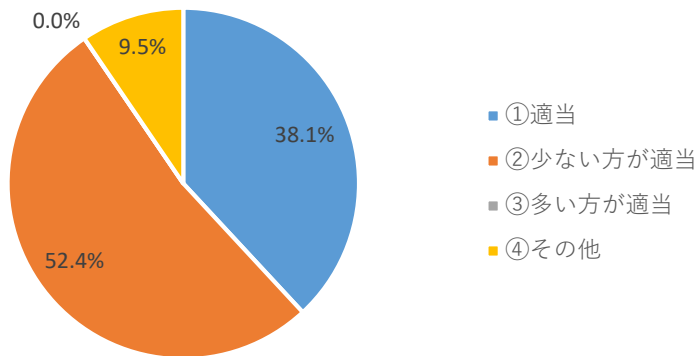
質問3 通学時間



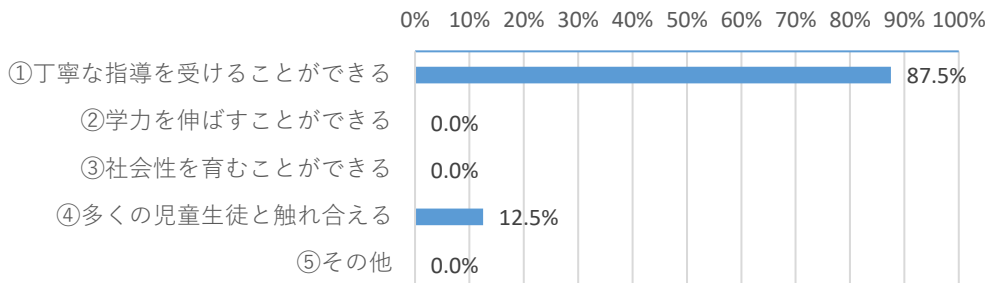
質問4 学校施設・設備の充実について



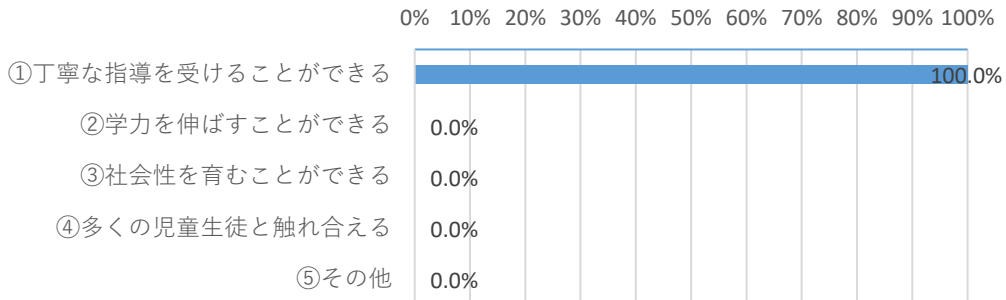
質問1 1学級当たりの児童・生徒数について



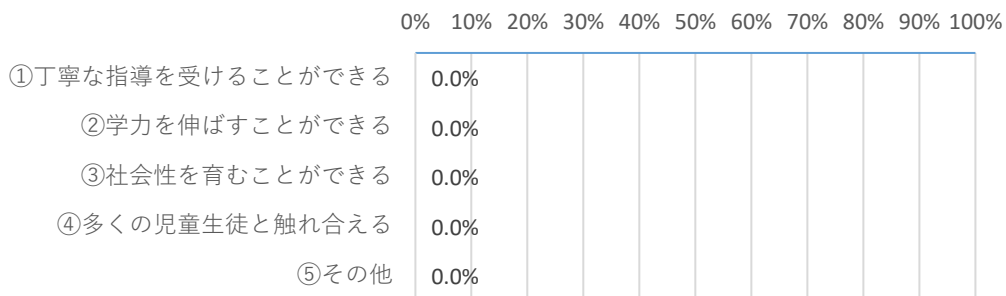
質問1で①「適当」を選んだ方の回答



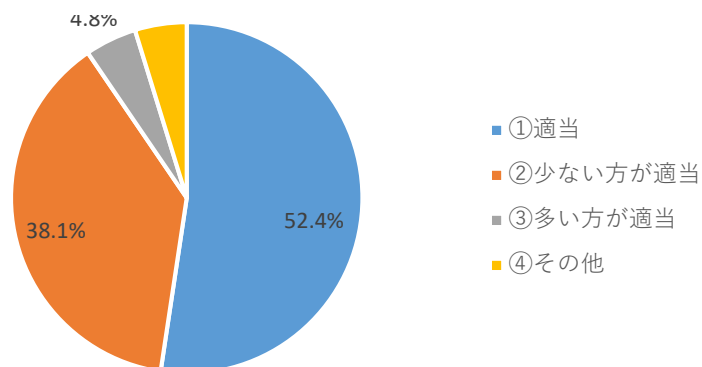
質問1で②「少ない方が適当」を選んだ方の回答



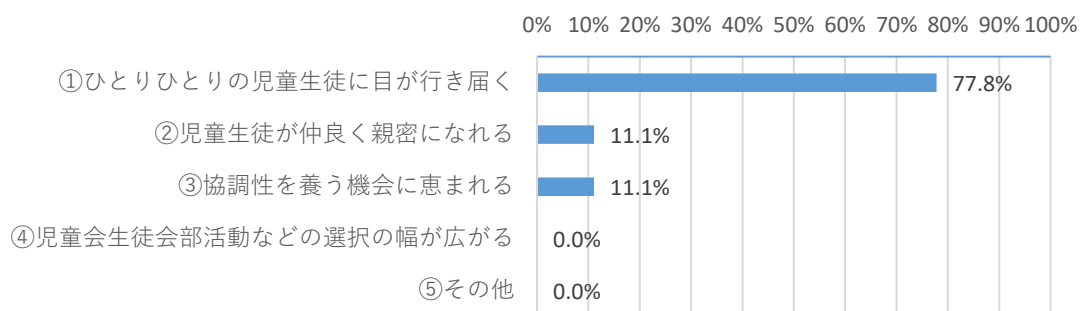
質問1で③「多い方が適当」を選んだ方の回答



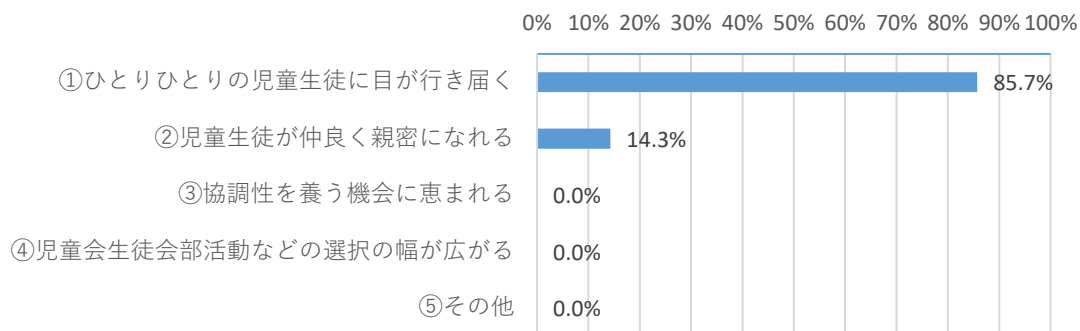
質問2 1学年当たりの児童・生徒数について



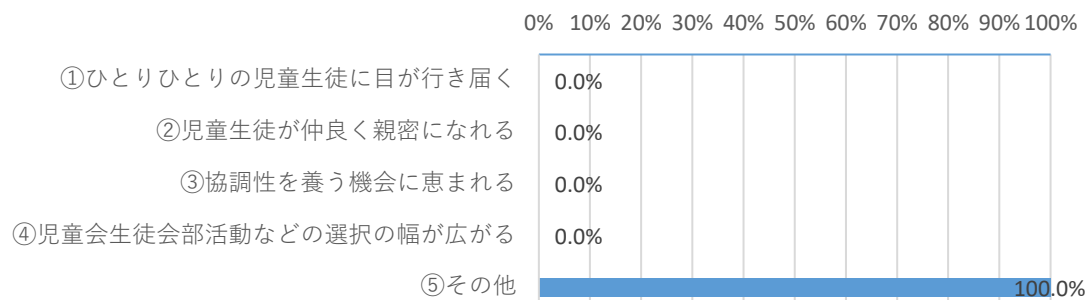
質問2で①「適当」を選んだ方の回答



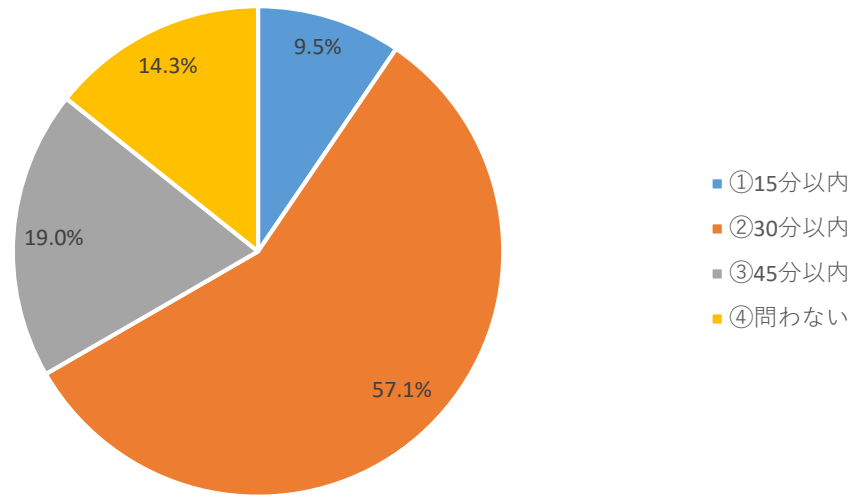
質問2で②「少ない方が適当」を選んだ方の回答



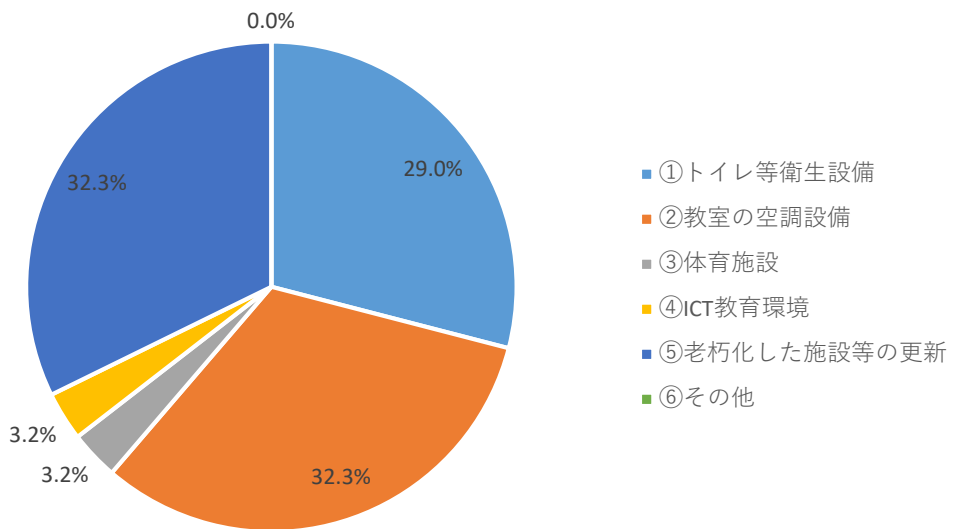
質問2で③「多い方が適当」を選んだ方の回答



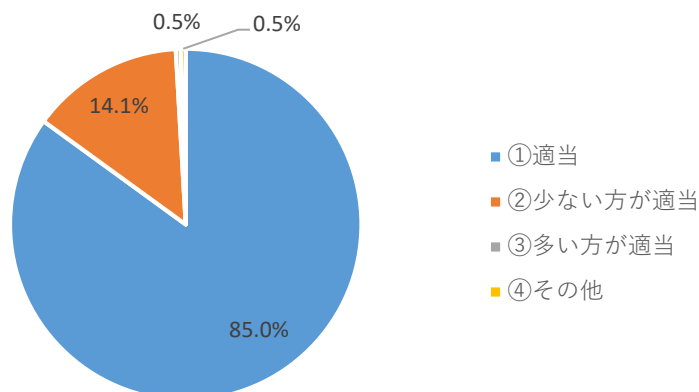
質問3 通学時間



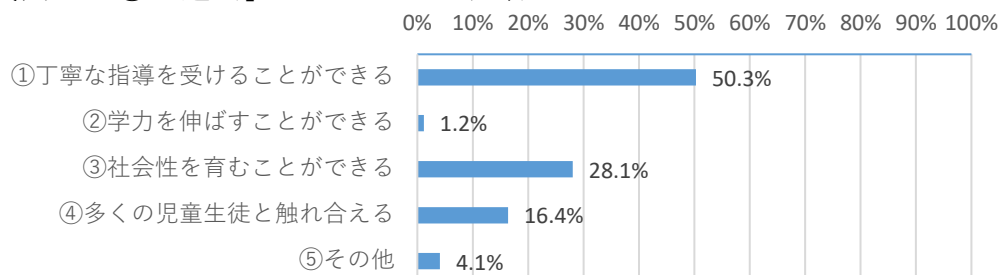
質問4 学校施設・設備の充実について



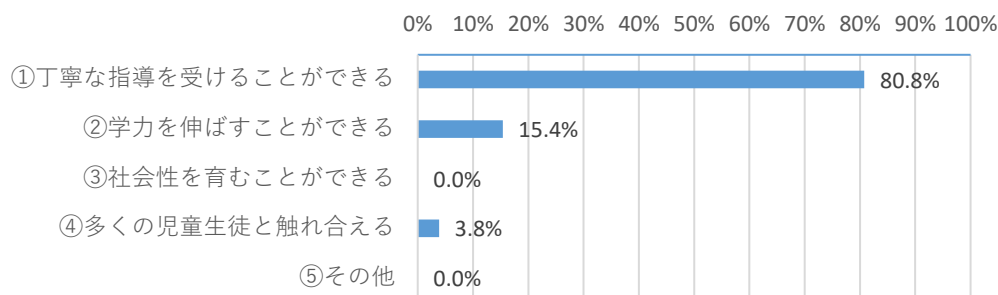
質問1 1学級当たりの児童・生徒数について



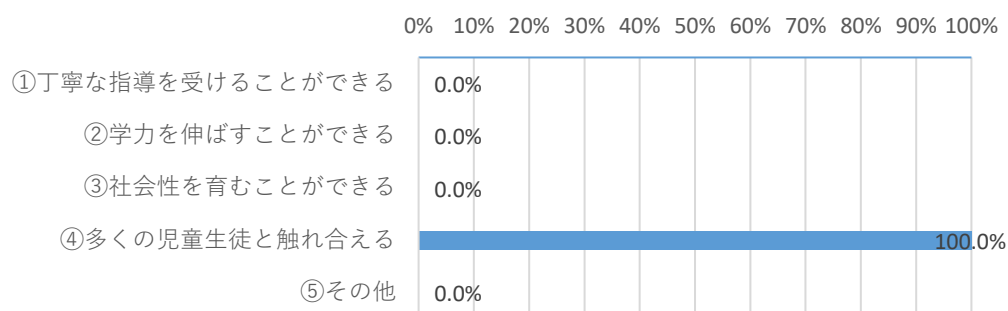
質問1で①「適当」を選んだ方の回答



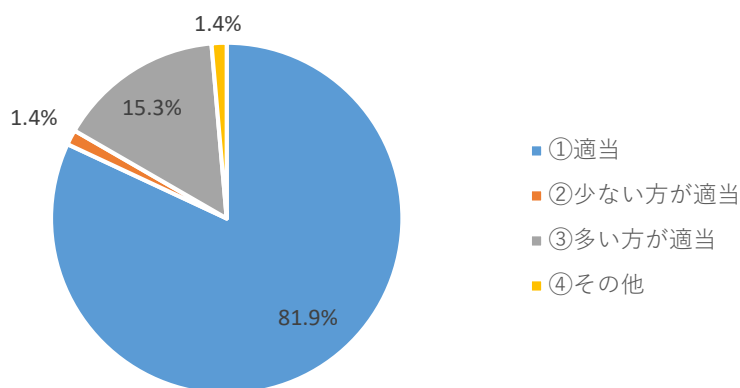
質問1で②「少ない方が適当」を選んだ方の回答



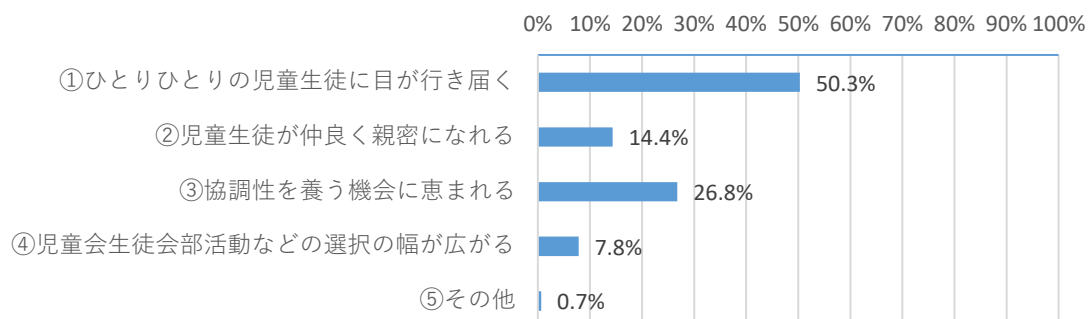
質問1で③「多い方が適当」を選んだ方の回答



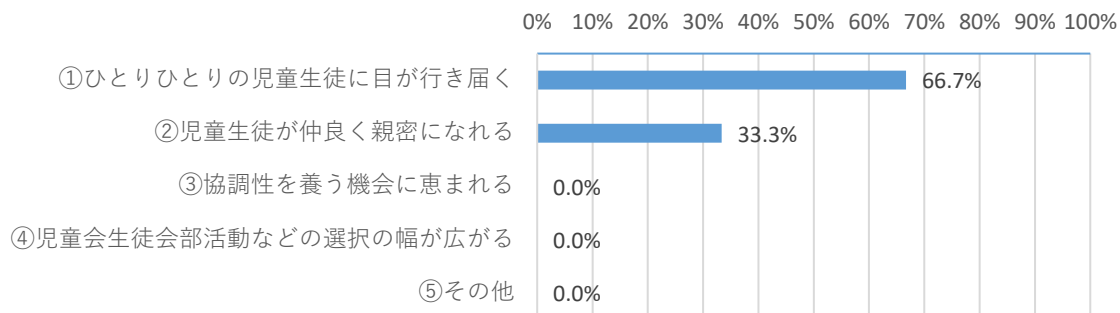
質問2 1学年当たりの児童・生徒数について



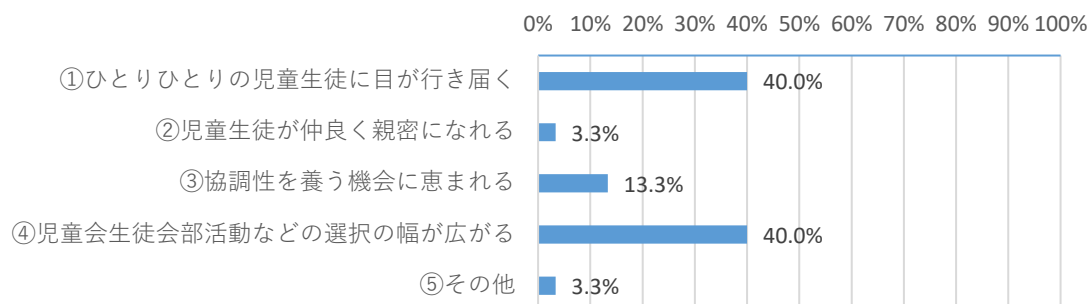
質問2で①「適当」を選んだ方の回答



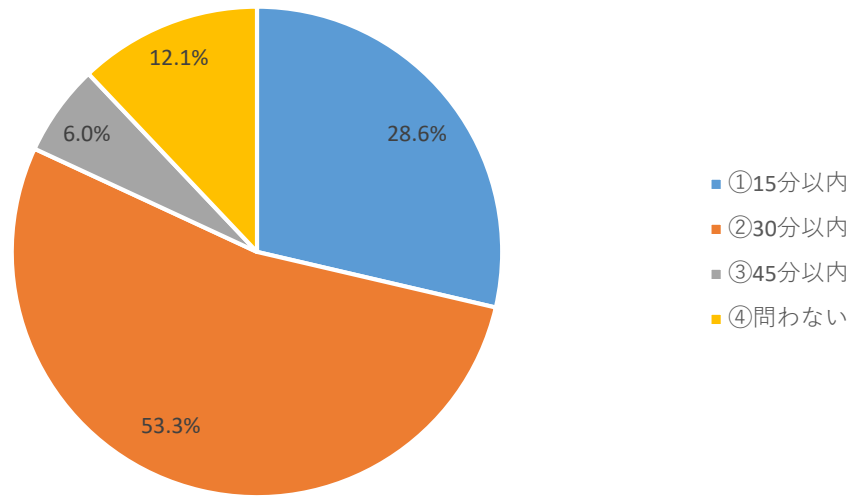
質問2で②「少ない方が適当」を選んだ方の回答



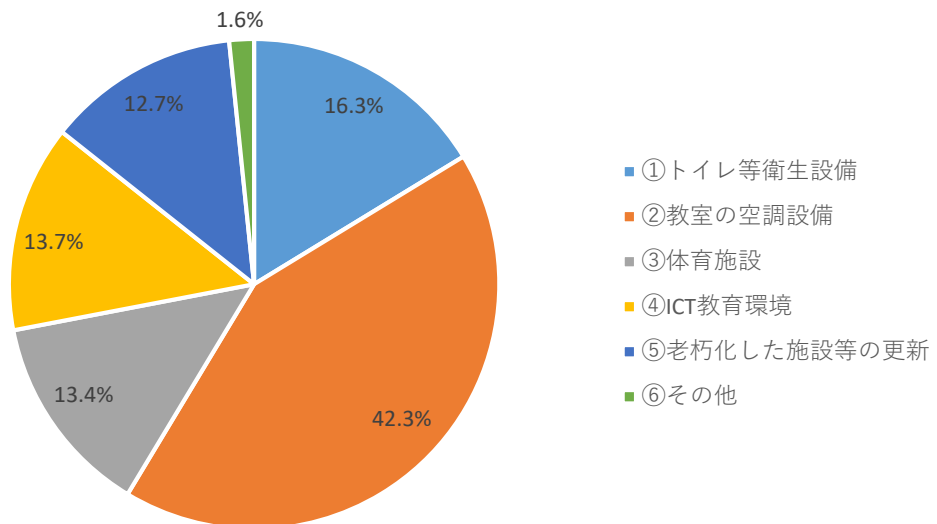
質問2で③「多い方が適当」を選んだ方の回答



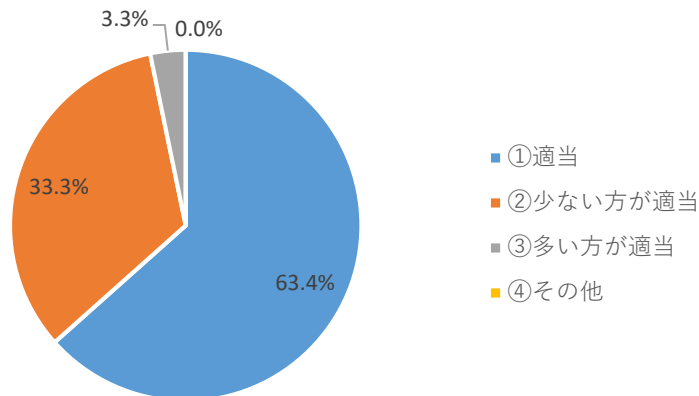
質問3 通学時間



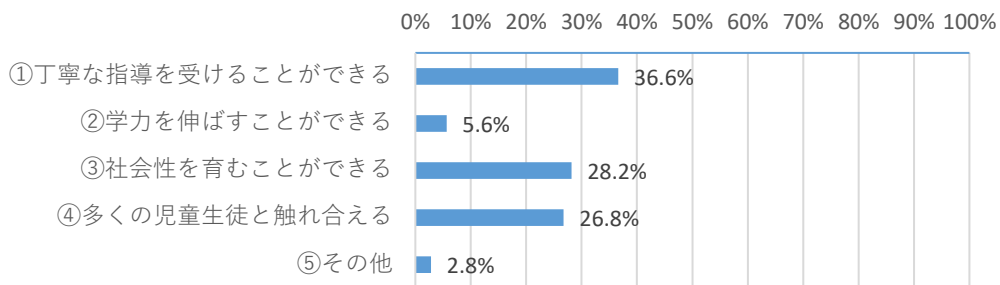
質問4 学校施設・設備の充実について



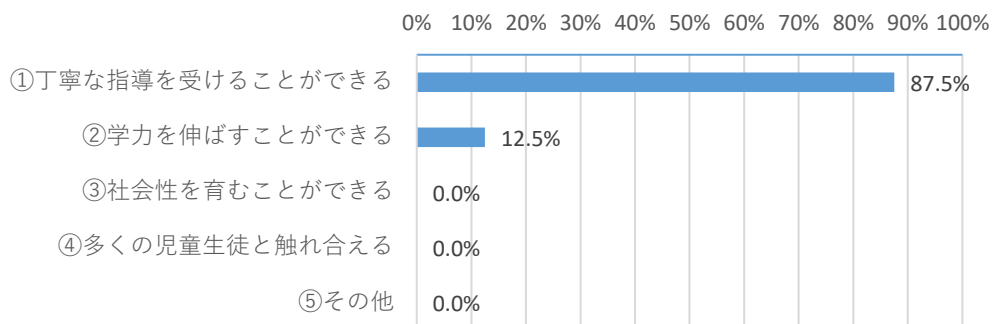
質問 1 1 学級当たりの児童・生徒数について



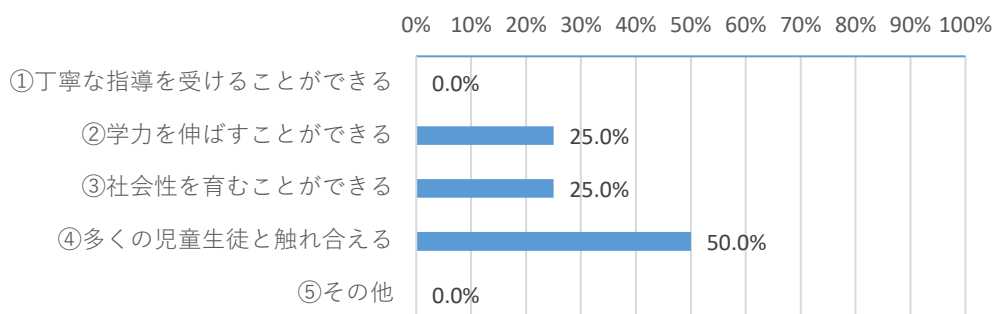
質問 1 で①「適当」を選んだ方の回答



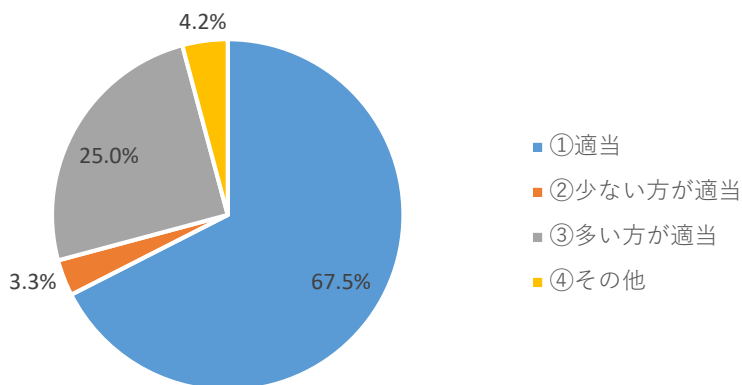
質問 1 で②「少ない方が適当」を選んだ方の回答



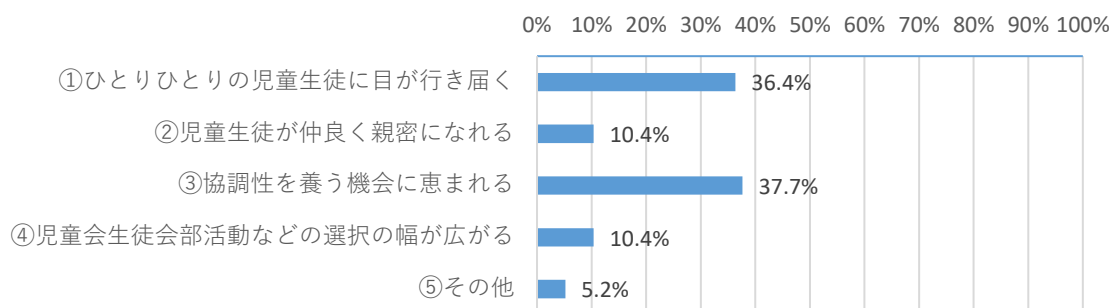
質問 1 で③「多い方が適当」を選んだ方の回答



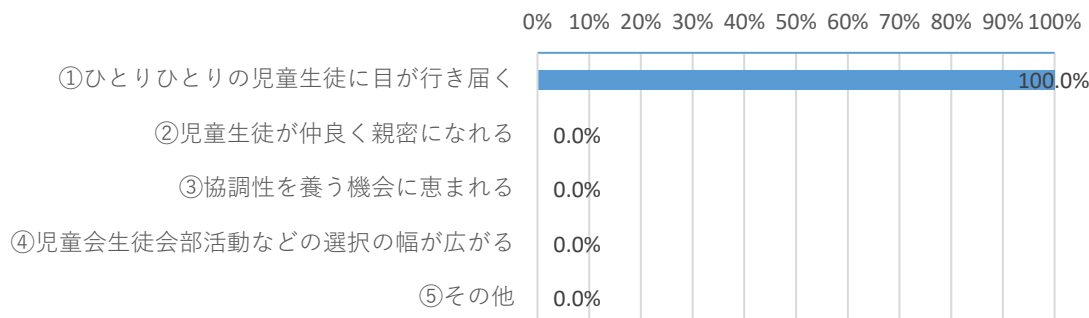
質問2 1学年当たりの児童・生徒数について



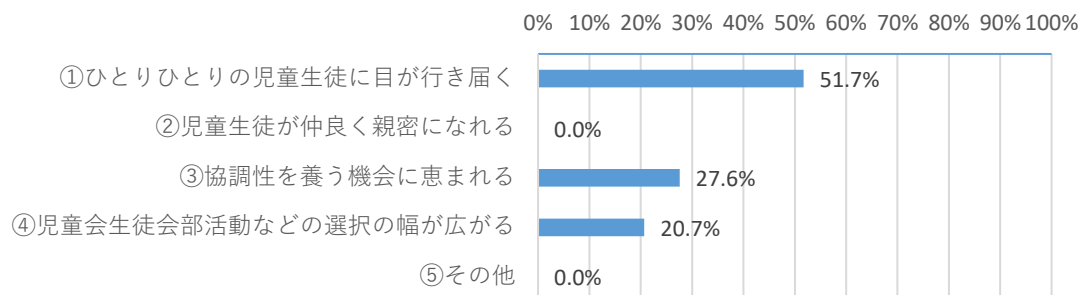
質問2で①「適当」を選んだ方の回答



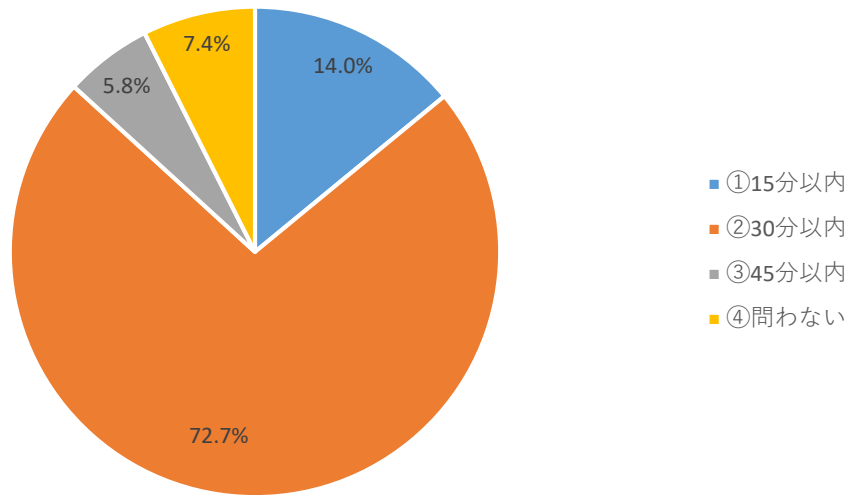
質問2で②「少ない方が適当」を選んだ方の回答



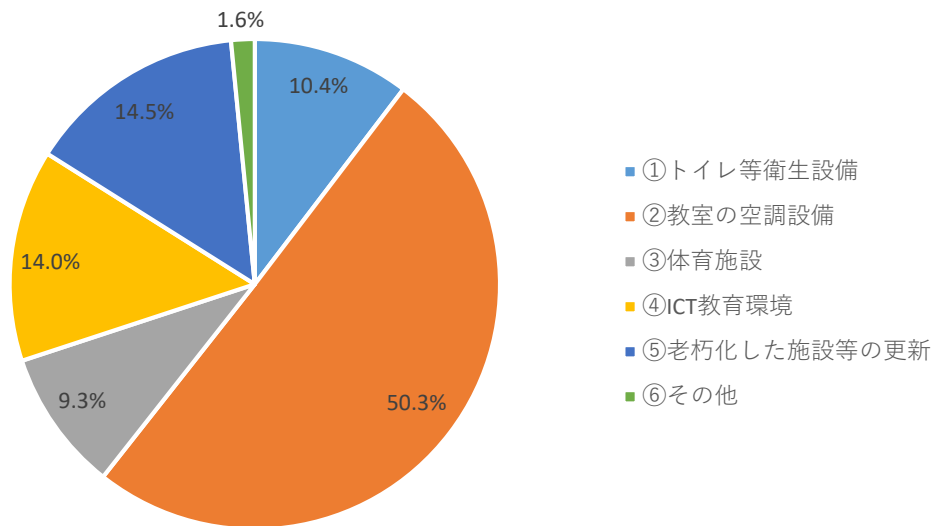
質問2で③「多い方が適当」を選んだ方の回答



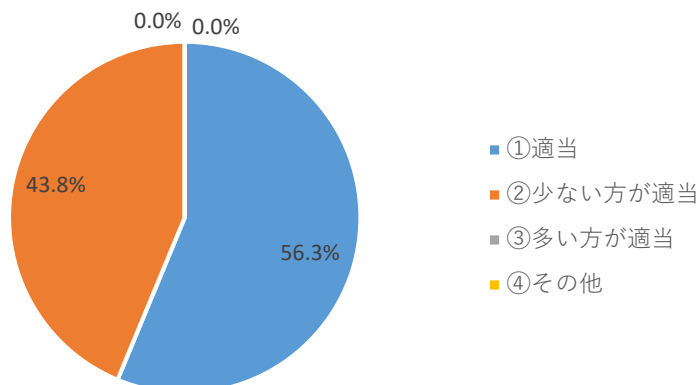
質問3 通学時間



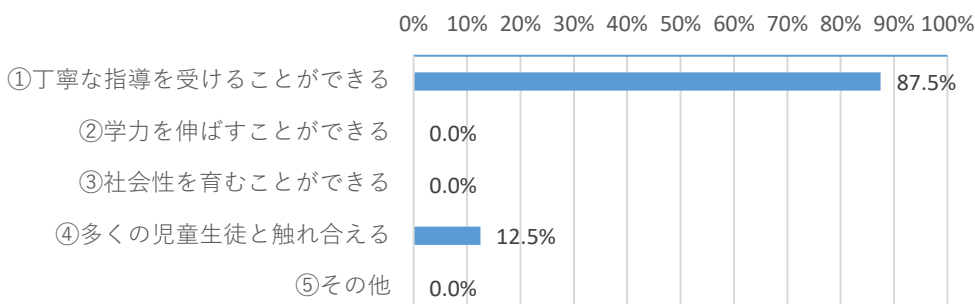
質問4 学校施設・設備の充実について



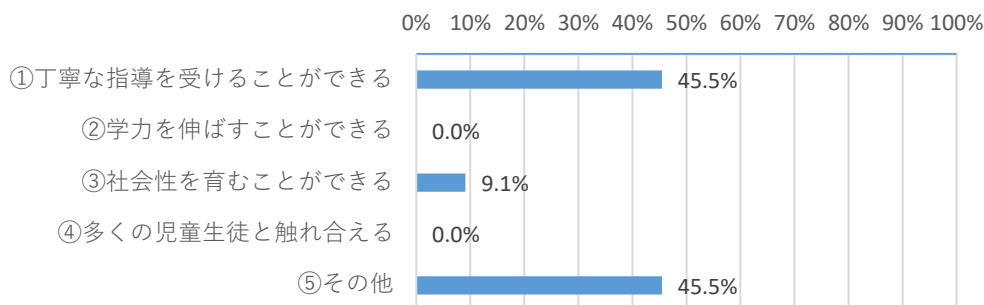
質問1 1学級当たりの児童・生徒数について



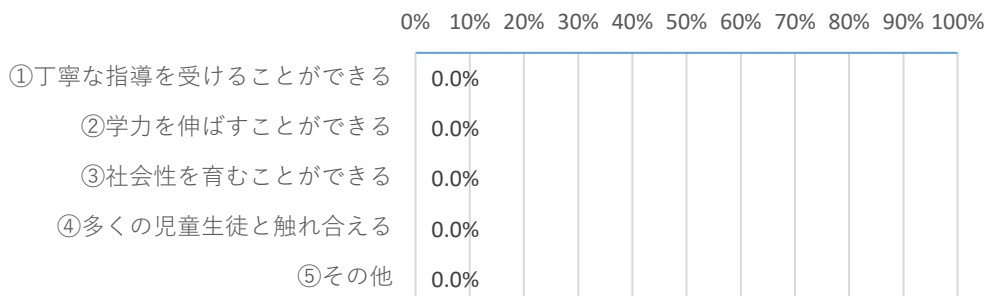
質問1で①「適当」を選んだ方の回答



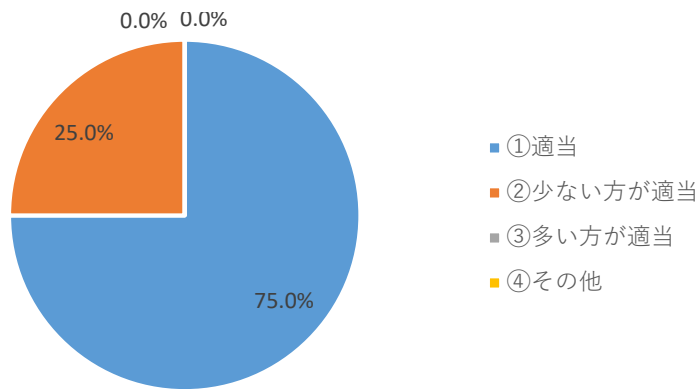
質問1で②「少ない方が適当」を選んだ方の回答



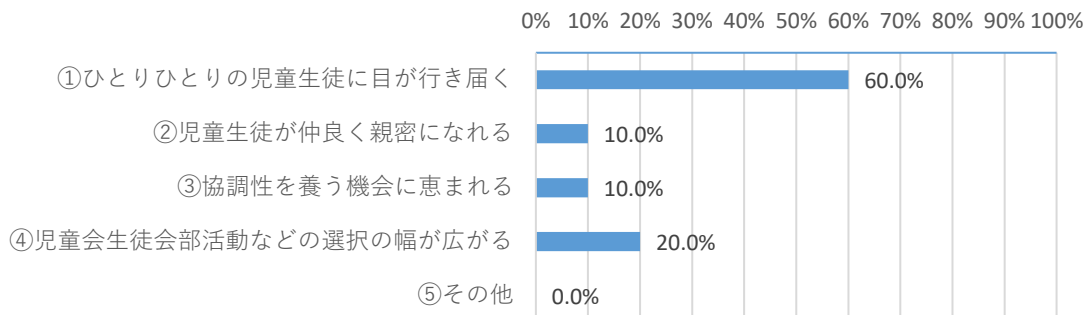
質問1で③「多い方が適当」を選んだ方の回答



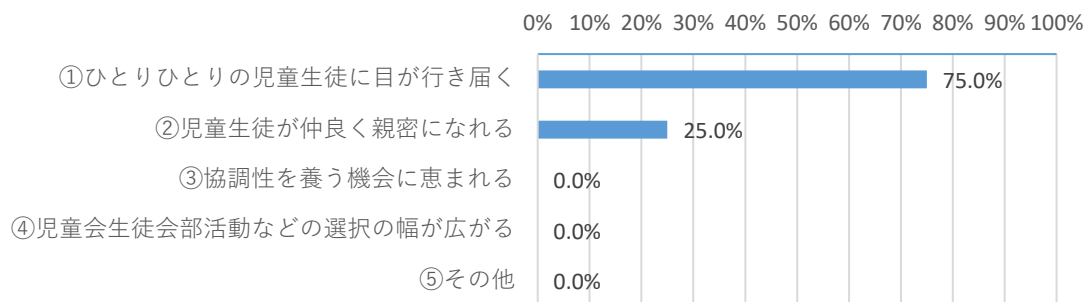
質問 2 1 学年当たりの児童・生徒数について



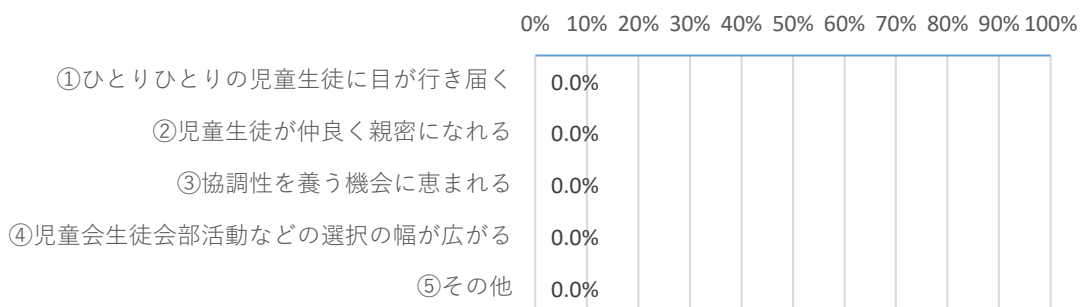
質問 2 で①「適当」を選んだ方の回答



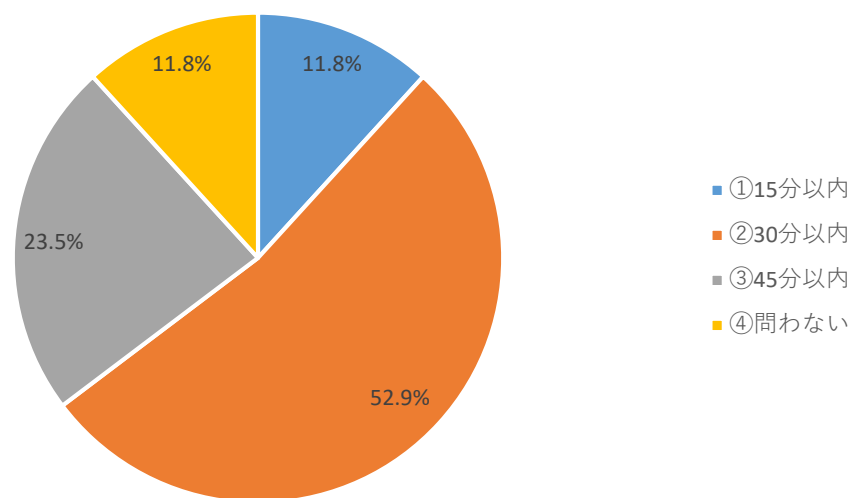
質問 2 で②「少ない方が適当」を選んだ方の回答



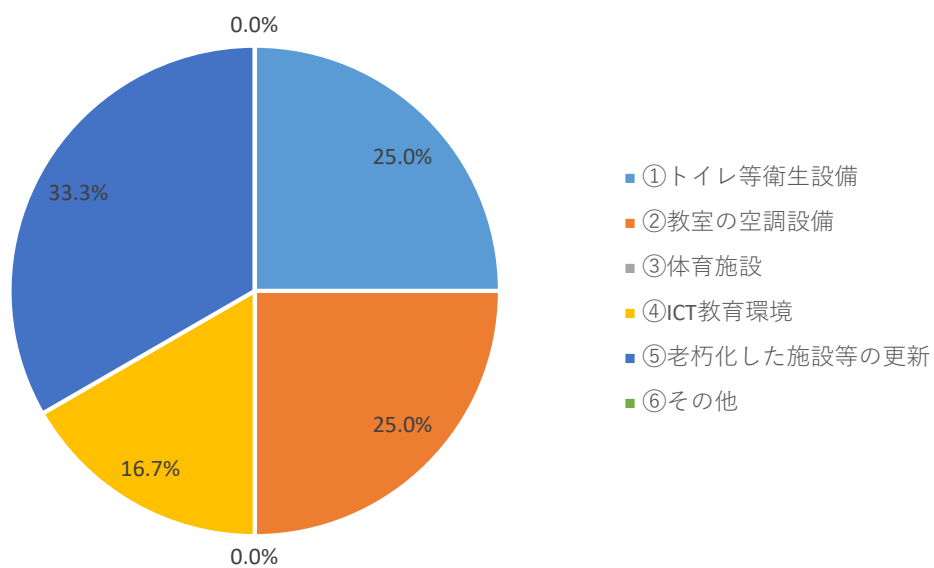
質問 2 で③「多い方が適当」を選んだ方の回答



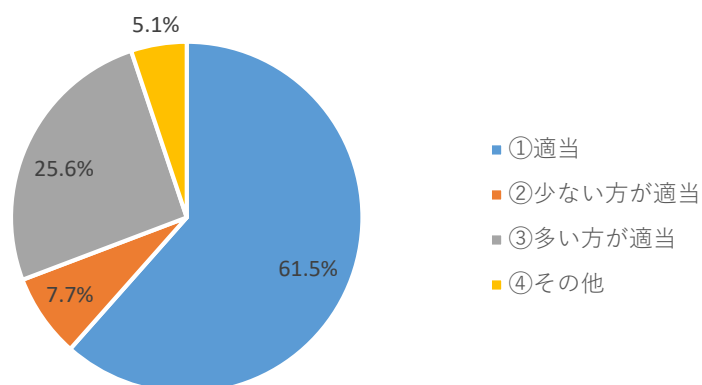
質問3 通学時間



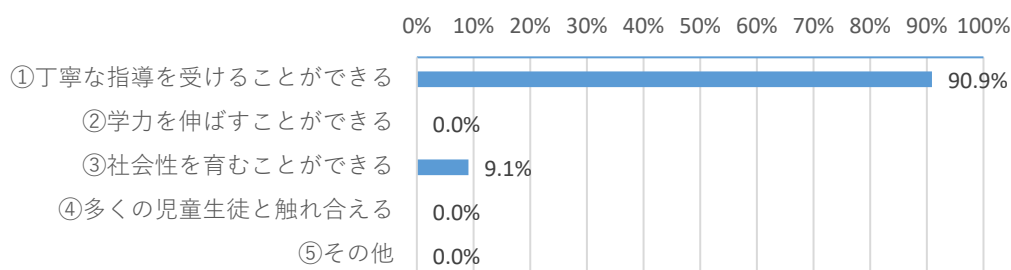
質問4 学校施設・設備の充実について



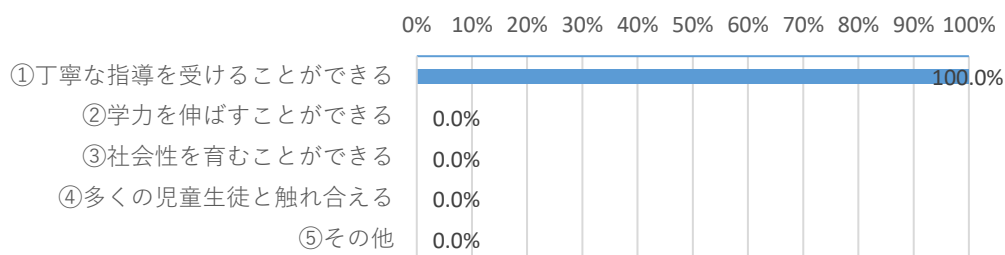
質問 1 1 学級当たりの児童・生徒数について



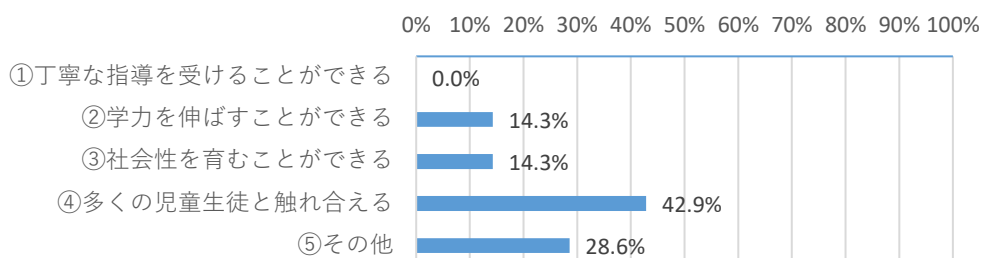
質問 1 で①「適当」を選んだ方の回答

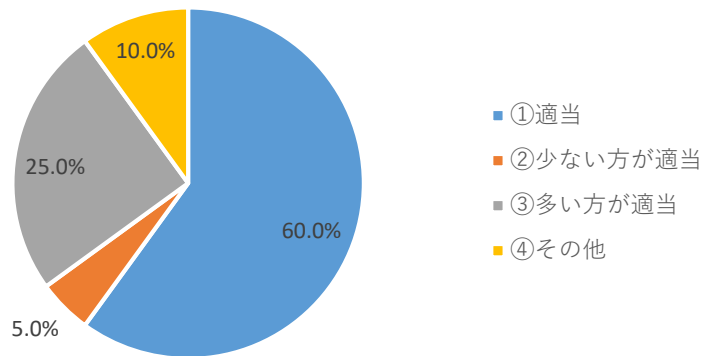


質問 1 で②「少ない方が適当」を選んだ方の回答

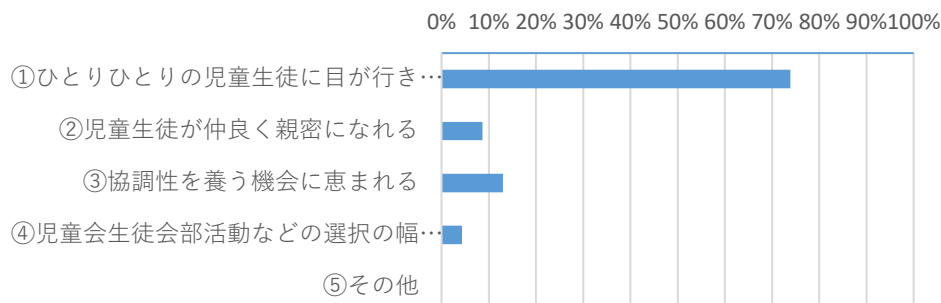


質問 1 で③「多い方が適当」を選んだ方の回答

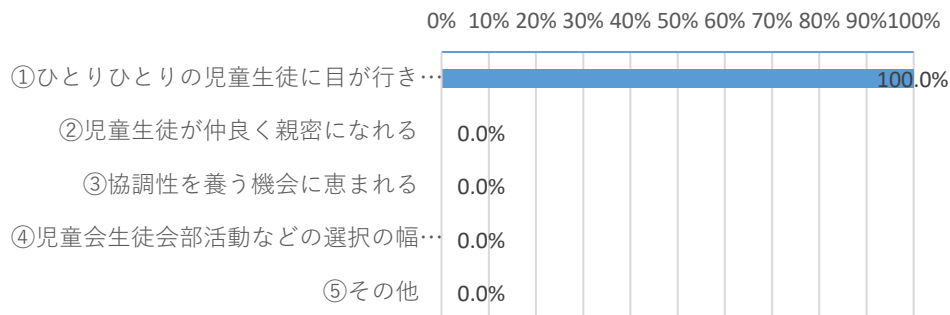




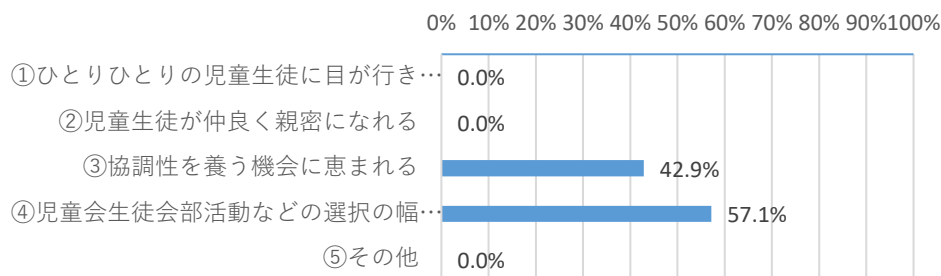
質問 2 で①「適当」を選んだ方の回答



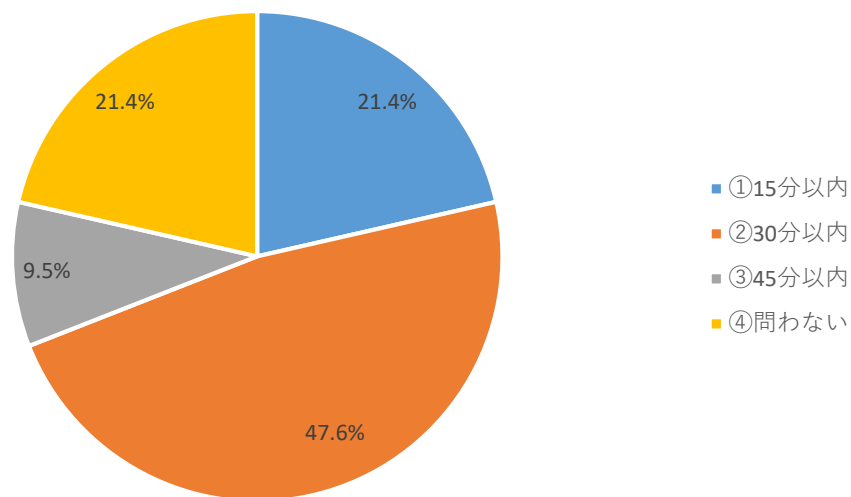
質問 2 で②「少ない方が適当」を選んだ方の回答



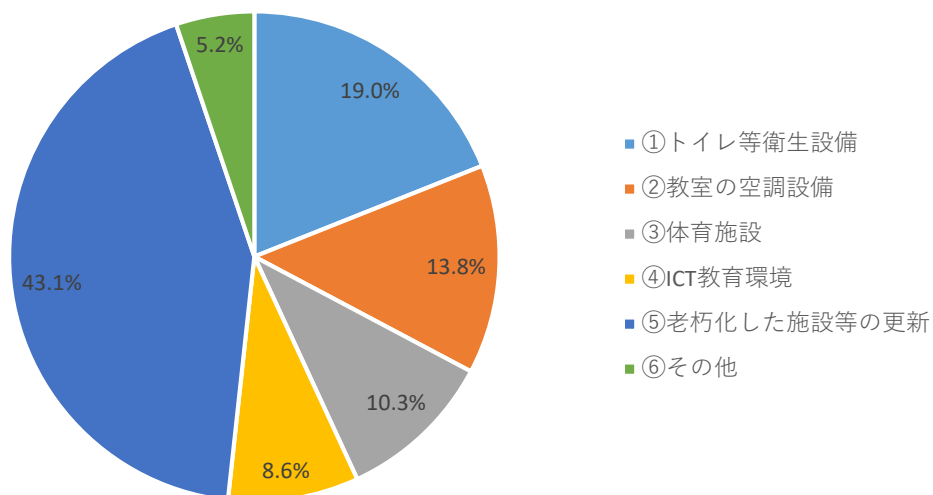
質問 2 で③「多い方が適当」を選んだ方の回答



質問3 通学時間



質問4 学校施設・設備の充実について



質問5 現在の学校教育環境についてどのような考えか（主なもの）

①働き方改革について

記載内容
先生がとにかく忙しい。余裕がない。
先生たちの会議が多く、クラスにいない。負担が大きくないか。中学では1年生について手厚くみてもらいたい。トラブルが多い気がする。
もっと教師の数を増やし、仕事量を減らすことはできないものか。
子どもたちの環境だけでなく、職員の環境も合わせて考える必要あり。
留守番電話対応時間、朝はより早い時間、夕方はもう少し遅い時間にしてもらいたい。
働き方改革の進行に伴い授業の質を高くしてほしい。より一層内容の濃い指導をお願いしたい。

②教職員の配置について

記載内容
先生の人数に余裕が必要と思われる。
児童・生徒が充実した指導が受けられる様に教員数を多く確保していただきたい。
人数に対応できる先生の配置ができるのか考えてもらいたい。副担任を必ず常駐されたい。
小一は手がかかるのに、目が行き届いていない。人数を減らし先生の目が届く環境づくりを。

③教育方法・内容について

記載内容
出来ることを伸ばすことも大切なことだが、できないことを減らす教育も考えてもらいたい。
「考える力」「生きる力」などを伸ばす活動を取り入れていただきたい。
大町に住んで居てよかったと思える教育、大町を自慢できる魅力作りをしていきたい。
社会性が身につけていない。
数学・英語は、習熟度別または学び方のコースを設け希望により編成したらどうか。
子どもたちが快適に過ごし、集中して取り組める環境を整えることが大切だと思う。
自然環境にも恵まれ、少人数で全校生徒と交流も深く、教育環境はよいと感じている。
小学生の間に授業を受ける態度を学んで欲しい。
中学での毎年のクラス替えはやめて欲しい。
必要に応じてクラス替えを行うなどの対応が欲しかった。

④学校・学級の規模・配置について

記載内容
1クラス25人から30人位が人数としては良い。
1クラスに生徒が多く、先生の目が届きづらいと思う。
1クラスの人数が多すぎ。担任の先生と生徒が向き合えていない。

1 学級の人数が多すぎて、学習や生活面で集団生活についてこられない子を救う余裕がない。
子どもの学級は 36 人と多い人数ですが、その分交流が多くなれるのではないかと。
児童・生徒数、学級数がもっとあると良い。
単級は避けてもらいたい。空教室が沢山ありもったいない。
少人数、多クラスが良い。
クラス内の人数は 20～30 人程度が良いが、クラス数は 2～3 必要。
これから児童数減少傾向であるが、1 学年に複数クラス欲しい。
1 学年 3～4 クラスあれば、様々な子どもたちとの触れ合いができ、選択肢が増えて良い。
多様な経験、人との関わりは一生涯において重要。学校の数を減らすことを希望する。
市内に 4 小学校必要でしょうか。年々子どもの数が減っているので合併してもよいのでは。
1 クラス当たりの人数を少人数にすることにより、親や先生方の負担が減るのではないかとと思う。
大町市に 4 つの小学校が必要なのか。
小さな市に 6 つも小学校は不要。統合すべき。少人数のため、学校行事等に負担が大きい。
少子化で人数が減ってきているので、統合した方が良い。
通学方法を検討し統合した方がいい。
学校の統合を早期に進めて欲しい。
積極的に統合を検討されたい。施設、教員、環境の充実と効率化で財政負担の軽減を。
統合した方が良い。旧市内の中学 2 校の生徒数は半々になるよう調整を。人間関係も変わる。
今後少子化が進む中、現在の学校は必要ない。
大町市に中学校は一つで良い。
大・中規模校と小規模校、一貫校等多様な選択ができる制度を取り入れて欲しい。
通学面を考えると現在の 4 校での継続が一番子どもにとって望ましい。
これからも学区内の学校に通えることを願う。
できるだけ統廃合せずにクラス数の調整で対応するのが良い。
統合する場合スクールバスの利用が考えられるが長時間乗車は好ましくない。
中高一貫校等、特色ある学校にして大きな編成の改革を望む。
子どもの人数に対して施設が広すぎる。

⑤少人数における効果について

記載内容
今の人数の方が生徒一人一人に目が行き届く。
少人数で行き届いた指導に感謝している
少人数だが、子ども達同士のつながりを大事に成長して欲しい。
1 クラス 23 名だが、先生方の指導も丁寧に受けることができている。
1 クラスの人数が少ない方が先生方の負担軽減になり、指導が行き届く。
学年・学校全体の人数が少なく、教育（先生の目が届く）としては良いと思う。

生徒数が少ないので、一人一人に先生が丁寧に対応してもらえている。
少人数で学年を超えての交流ができるところはとてもよいと思う。
学年1クラスで3年生は15人。他学年との交流も多く良い環境だと考えている。
1クラス10人以下でも社会性は育まれるし、多様性を受け入れられてよい環境だと感じています。

⑥少人数における課題について

記載内容
いずれ社会に出なければならない。他者との関わりを学ぶためクラス替えが必要。
子ども達の人との関わりを形成する時期、3クラス以上で協調性を養う場を。
少人数指導が行き届く反面、仲良い友達とずっといられるため、競い合う場がない。
1学年1クラスしかないのはクラス替えもなく、競争心にも欠ける気がする。
協調性や社会性を養う大切な場である。多くの子どもたちと触れ合う機会を大切にしたい。
クラス数が少ないため、グループが固定してしまいやすい。
少ない人数の中で育てているが、高校進学した際、環境の変化になじんでいけない。
子どもたちのためにも、ある程度の集団の中で様々な人間と関わり社会性を育むことが大事。
6年間同じクラス。何か問題が起きた時、この地域で一体どこに逃げ場を探せばよいのか。
学年・学校全体の人数が少なく、交流や選択の幅が狭くなっていると感じる。
人数が少ないため、強い子の意見に大きく左右されてしまう。
大人の目が行き届きすぎてしまい、子どもにとって窮屈な環境なのではと思うことがある。
単級化により、クラス替えはなくなるとともに、児童会役員などとまどいが生じている。
学年1クラスで児童数も減り、児童会や校内清掃など負担になる。

⑦学力・体力の向上について

記載内容
学力向上に取り組んで欲しい。
対話授業はやめてもらいたい。保護者への説明不足。人数が多いと実施困難。
「対話の時間」がとても有効。
小学生からの対話授業を行ってほしい。
宿題についていけないと感じる。理解しているかきちんとみて理解させて欲しい。

⑧ICT・英語教育について

記載内容
情報化社会に生きる子どもは大変。教員の対応も不可欠。親の対応も必須。
タブレット教育、プログラミング教育等現代に必要なことを学べる環境整備を！
児童の様子などに合わせてタブレットなど利用の工夫があると良い。
英語学習に注力いただきたい。現状では英語によるコミュニケーションはできないと思う。

⑨いじめ・不登校・問題行動について

記載内容
何より生徒が落ち着いて学習に取り組める環境を望む。
一部の生徒により、授業等学習の機会が損なわれないように配慮を。
保健室が本来の目的外で利用されていて本来の機能を果していない。
放課後等に、日中来られない児童が学校で学べる環境を教育委員会で作ってもらいたい。
特定の中学校に不登校が多く不安。なぜ、市内の他中学校に比べ、在籍率が極端に高いのか。

⑩特別支援教育について

記載内容
他になにより優先して加配の先生を増やし、多様な子どもへのきめ細かな指導を望む。
学校によって特別支援学級が不十分と聞いている。同じ市内なのになぜか。
支援学級が複数あり、一人一人に合わせた教育環境がありがたい。
担任の先生に発達に問題がある子についての対応を学んで欲しい。
特別な支援を必要とする子に対する理解が進んでいない。正しい理解と適切な対応をお願いしたい。

⑪山村留学・特認校について

記載内容
山村留学生として在籍している。地元の学校は35人学級5クラスある大規模校なので、少人数はとても良いと思う。
山留生です。少人数のクラスはこんなに素晴らしいのかと感心している。また、先生方の熱心なご指導に感謝している。
特認校になっているが、地元の子どもたちが落ち着いて勉強をする環境にしてほしい。
特認校制度は、少人数の学校にはとてもいいことだと思っていたが、支援が必要な児童生徒が多く先生の負担大にもつながっている。

⑫部活動について

記載内容
部活の人数の減少など、将来的に不安。
部活動の将来に不安を感じる。大町市としてはっきりした方針を示して欲しい。
部活について教師に頼りすぎているように思う。
部活動は、保護者に負担をかけず、学校主体で行って欲しい。練習や試合への参加に、子どもたち自身で公共交通機関などを利用する方法を考えてもらいたい。
部活動等の休日練習の時、スクールバスの定期でふれあいバスに乗れるとよい。

⑬放課後対策について

記載内容
児童クラブとは別に放課後の学校開放を希望。学校を放課後1～2時間開放してほしい。
放課後、児童クラブとは別の学校開放希望。グラウンドや体育館等、1～3時間でもいいので開放して放課後過ごす時間をゲームやDVD等インドアな過ごし方から変えたい。

⑭先生への要望

記載内容
担任の先生、それぞれの経験値や考えにより、児童に対する対応が異なる。
安心して生活できる学校、熱意・指導力ある教師の配置が大切。
学校生活でトラブルがあった場合、保護者との連絡をとって対応して欲しい。
本当におもしろくて分かりやすい授業への工夫が必要。
先生の教育力の向上、専門性の向上に力を入れて欲しい。

⑮PTA活動について

記載内容
PTA活動に負担を感じる。
PTA活動が大変 レクも大切だが必ずやる必要はない。

⑯通学について

記述
学校も大切だが、通学路整備の安全確保をもっとしっかりすべき。
冬季のスクールバス乗車の実現希望。
不審者多発傾向の為、バス通増を希望。
登下校時の安全確保を考え、山間部等の徒歩通学の見直しを。
登下校の際、必要なもののみ持ち帰るようにしてもらい、子どもの負担が減った。

⑰学校施設・設備について（全般）

記載内容
施設が老朽化している。
学校の広さに余裕もあるため、活用できればいいと思う。
備品（楽器や調理室の道具等）気持ちよく使えるよう更新して欲しい。
現在のランドセルに学校の棚の高さが合わず、入らない。
避難所としての利用に考慮した施設にして欲しい。

⑩学校施設・設備について（衛生管理・トイレ）

記載内容
学校内での感染症対策を。次亜塩素酸などの噴霧を。
子どもの清掃だけでは不十分。数年に一度で良いので、業者の床掃除をお願いしたい。
トイレが不衛生。そのトイレに入った上履きで体育館を使い、児童が座る。
洋式トイレ増を希望。子どもがいつもトイレを我慢して帰ってくる。
トイレ設備の改善希望。

⑪学校施設・設備について（暑さ・寒さ対策）

記載内容
夏の暑さが厳しい。子どもたちが勉強に集中できる環境整備を。
健康面から考えてエアコンが本当に必要か。
暖房の充実
夏休み延長は、授業時間の確保や行事に影響が生じる。
夏休みを他県と同じくらいとっても良い。

⑫家庭教育について

記載内容
親の子どもへ関わりが浅くなっている。
児童の行き過ぎた言動に、先生方のみでの対応には限界がきている。各家庭での取り組みが必要。
家庭の教育力の重要性が増している。学校に求めるものが多すぎ。
自分たちが学んできた時代のやり方と違うので下手に家で教えられない。

⑬地域との関わりについて

記載内容
市内をコミュニティスクール化するなら、教育委員会が、もっと指導すべき。
コミュニティスクールがもっと活発になることを望む
もっと学校に第三者が関わるが必要ある。オープンな環境は良いことに繋り視野も広がる。
小中学校は地域との関係が大事。各6地区にあることが大事。
地域や保護者が連携して、子ども達の教育を考える場が増えると良い。

⑭その他

記載内容
施設や教育環境も大事かもしれないが、市の活性化に力を入れたほうがよいのでは。
少子化を踏まえ、早めの対応を求める。
市の人口を増やして生徒を増やすなどの取組も必要ではないか。

資料6 義務教育に関する第2回保護者アンケート調査結果

1 回収結果

学校別		発送数	回収者数	回収率	回答比
小学校	東小	138	117	84.8%	17.3%
	西小	191	165	86.4%	24.4%
	南小	210	157	74.8%	23.3%
	北小	233	190	81.5%	28.1%
	八坂小	37	26	70.3%	3.9%
	美麻前期	43	20	46.5%	3.0%
	計	852	675	79.2%	100%
中学校	一中	227	172	75.8%	49.7%
	仁中	304	151	49.7%	43.6%
	八坂中	21	6	28.6%	1.7%
	美麻後期	33	17	51.5%	4.9%
	計	585	346	59.1%	100%

2 設問一覧

- 問 1 あなたの居住地区を教えてください。…………… 2
- 問 2 お子様の学年に○印をつけてください。…………… 2
- 問 3 小学校(中学校)の1学年あたりの学級数(クラスの数)について、どのようにお考えですか。…………… 3
- 問 4 「問3」でお答えいただいた理由について、お聞かせください。…………… 5
- 問 5 小学校(中学校)の1学級(クラス)あたりの児童(生徒)数について、どのようにお考えですか。…………… 9
- 問 6 「問5」でお答えいただいた理由について、お聞かせください。…………… 11
- 問 7 小学校(中学校)の通学時間(徒歩以外の自転車やスクールバス、JRなど公共交通機関の利用を含めた通学時間)について、どの程度が望ましいとお考えですか。…………… 16
- 問 8 学校で優先して取り組む課題としては、次のどれが大切とお考えですか。… 18
- 問 9 大町市の子どもたちに育みたい能力は、次のどれが大切とお考えですか。… 21
- 問 10 学校への人材配置について、優先して取り組むべき課題としては、次のどれが大切とお考えですか。…………… 24
- 問 11_中 部活動について、部員数の減少や少子化に伴う教員数の減少から顧問の確保が困難となる等の課題があります。部活動について今後どのようにすることが望ましいとお考えですか。(中学校のみ)…………… 27
- 問 11_小(問 12_中) 少子化の中で、学校の数は、どのようにすることが望ましいとお考えですか。…………… 29

3 調査の結果

問1 あなたの居住地区を教えてください。

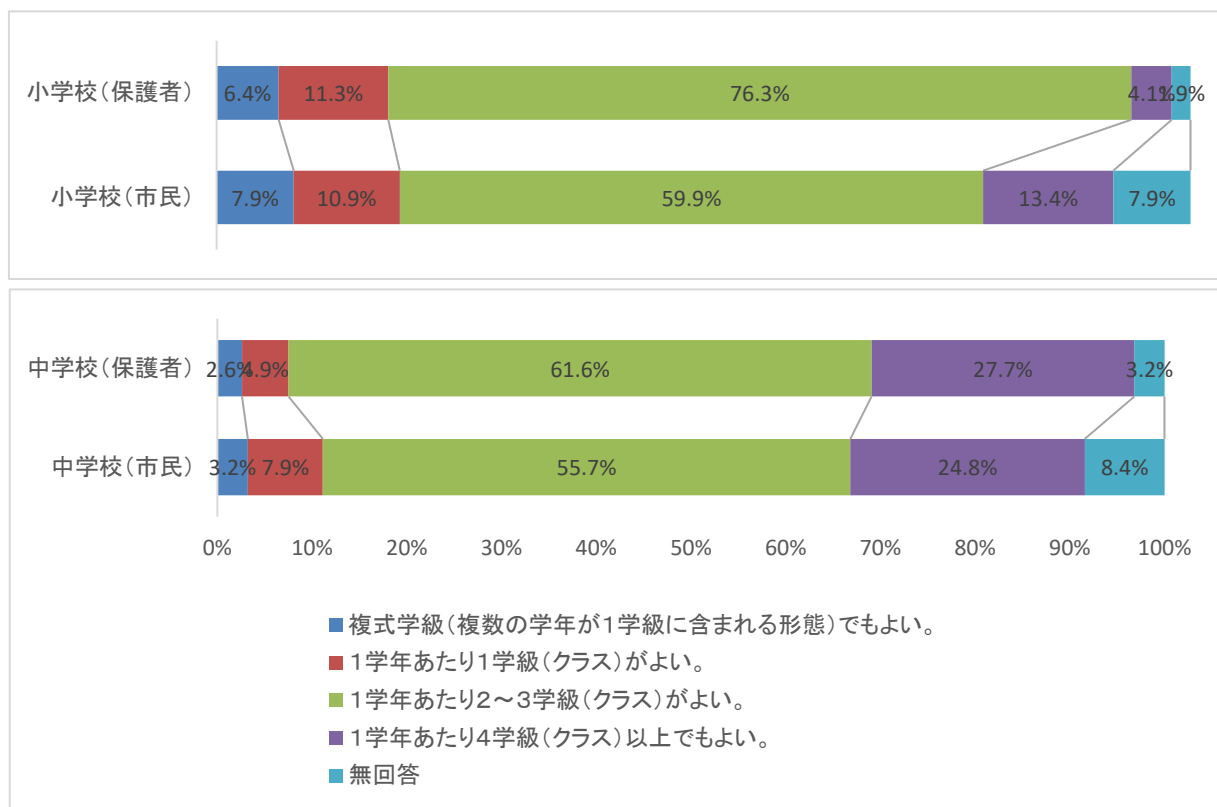
	小学校		中学校		市民アンケート	
	回答者数	構成比	回答者数	構成比	回答者数	構成比
大 町	319	47.3%	160	46.2%	185	45.8%
平	88	13.0%	70	20.2%	67	16.6%
常 盤	153	22.7%	68	19.7%	90	22.3%
社	65	9.6%	25	7.2%	34	8.4%
八 坂	22	3.3%	5	1.4%	13	3.2%
美 麻	18	2.7%	12	3.5%	15	3.7%
無回答	10	1.5%	6	1.7%	0	0.0%
計	675	100.0%	346	100.0%	404	100.0%

問2 お子様の学年に○印をつけてください。（2人以上のお子様就学している場合、該当欄する学年すべてに○印を記入してください。）

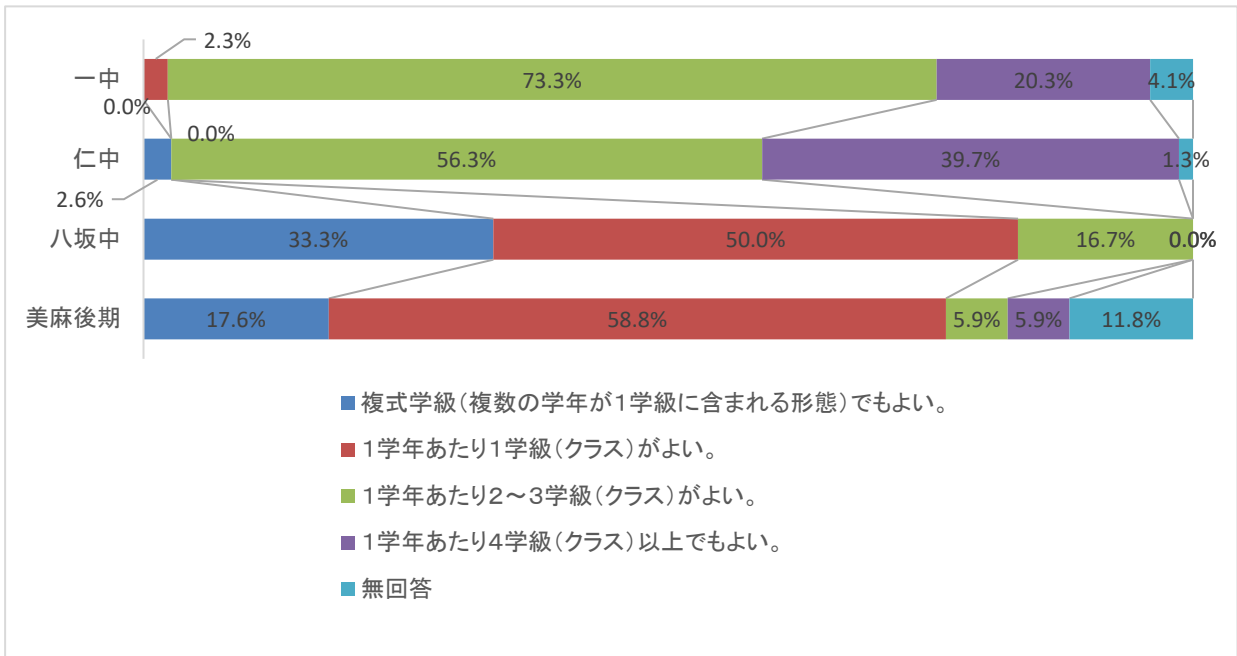
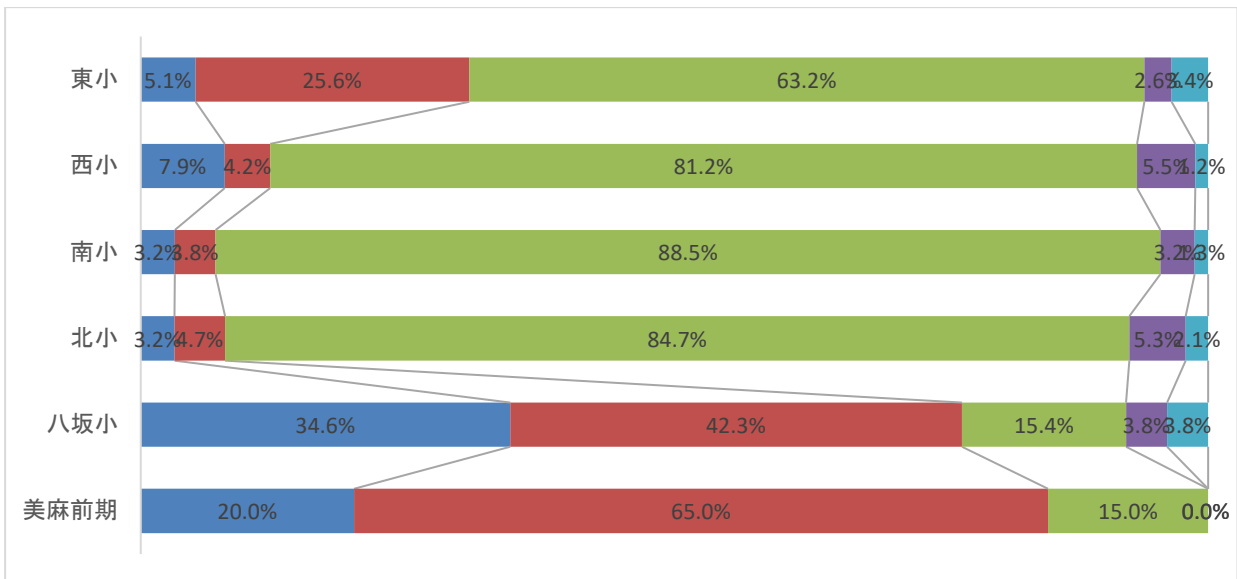
		回答者数	構成比
小 学 校	1年生	143	16.5%
	2年生	147	16.9%
	3年生	134	15.4%
	4年生	139	16.0%
	5年生	146	16.8%
	6年生	148	17.0%
	無回答	12	1.4%
	計	869	100.0%
中 学 生	1年生（7年生）	125	34.0%
	2年生（8年生）	116	31.5%
	3年生（9年生）	119	32.3%
	無回答	8	2.2%
	計	368	100.0%

問3 小学校（中学校）の1学年あたりの学級数（クラスの数）について、どのようにお考えですか。（1つ）

	小学校				中学校			
	保護者		市民		保護者		市民	
	回答者数	構成比	回答者数	構成比	回答者数	構成比	回答者数	構成比
複式学級（複数の学年が1学級に含まれる形態）でもよい。	43	6.4%	32	7.9%	9	2.6%	13	3.2%
1学年あたり1学級（クラス）がよい。	76	11.3%	44	10.9%	17	4.9%	32	7.9%
1学年あたり2～3学級（クラス）がよい。	515	76.3%	242	59.9%	213	61.6%	225	55.7%
1学年あたり4学級（クラス）以上でもよい。	28	4.1%	54	13.4%	96	27.7%	100	24.8%
無回答	13	1.9%	32	7.9%	11	3.2%	34	8.4%
計	675	100%	404	100%	346	100%	404	100%



【学校別】



保護者全体集計を見ると、小学校、中学校とも「1学年あたり2～3学級がよい」が一番多く、市民アンケートと比べても、より高い値を示している。なお小学校では、複数学級を望むが「4学級以上でもよい」は市民アンケートに比べると値が少なく、2～3学級が適当と考えている傾向が見られる。ただ、中学校では「4学級以上でもよい」が、市民アンケートに比べて、より高い値を示しており、4学級以上を望む声もある。

学校別で見ると、八坂地区、美麻地区にある学校では「1学年あたり1学級がよい」が一番多い。さらに「複式学級でもよい」も高い値を示しており、両方をあわせると小・中学校とも約7～8割を示している。

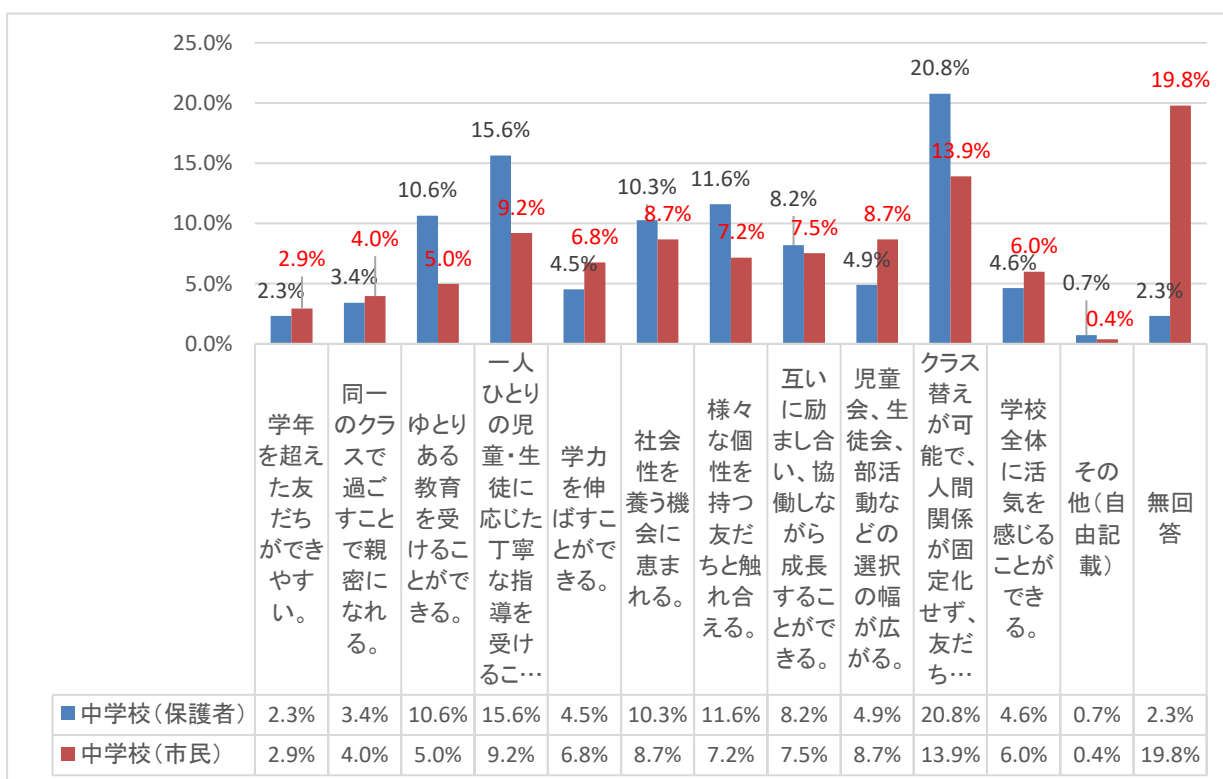
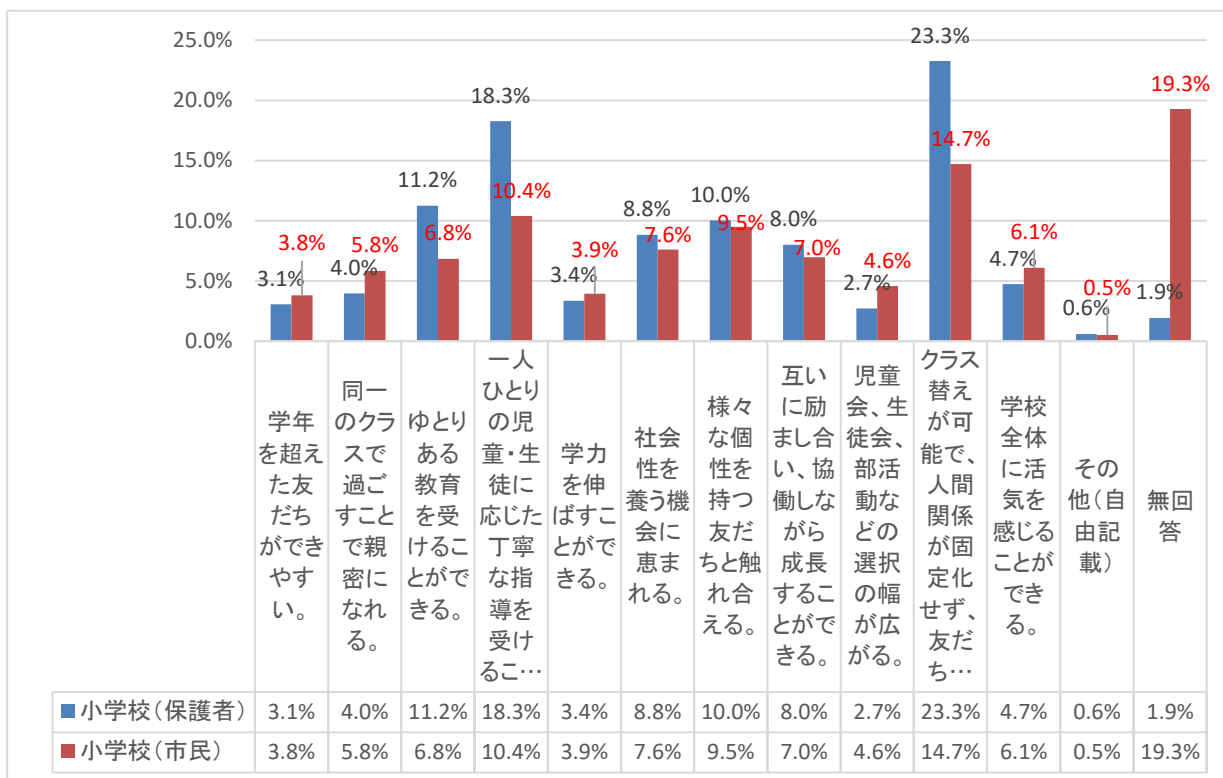
各学校とも現状の学級数に満足している。

問4 「問3」でお答えいただいた理由について、お聞かせください。（3つ以内）

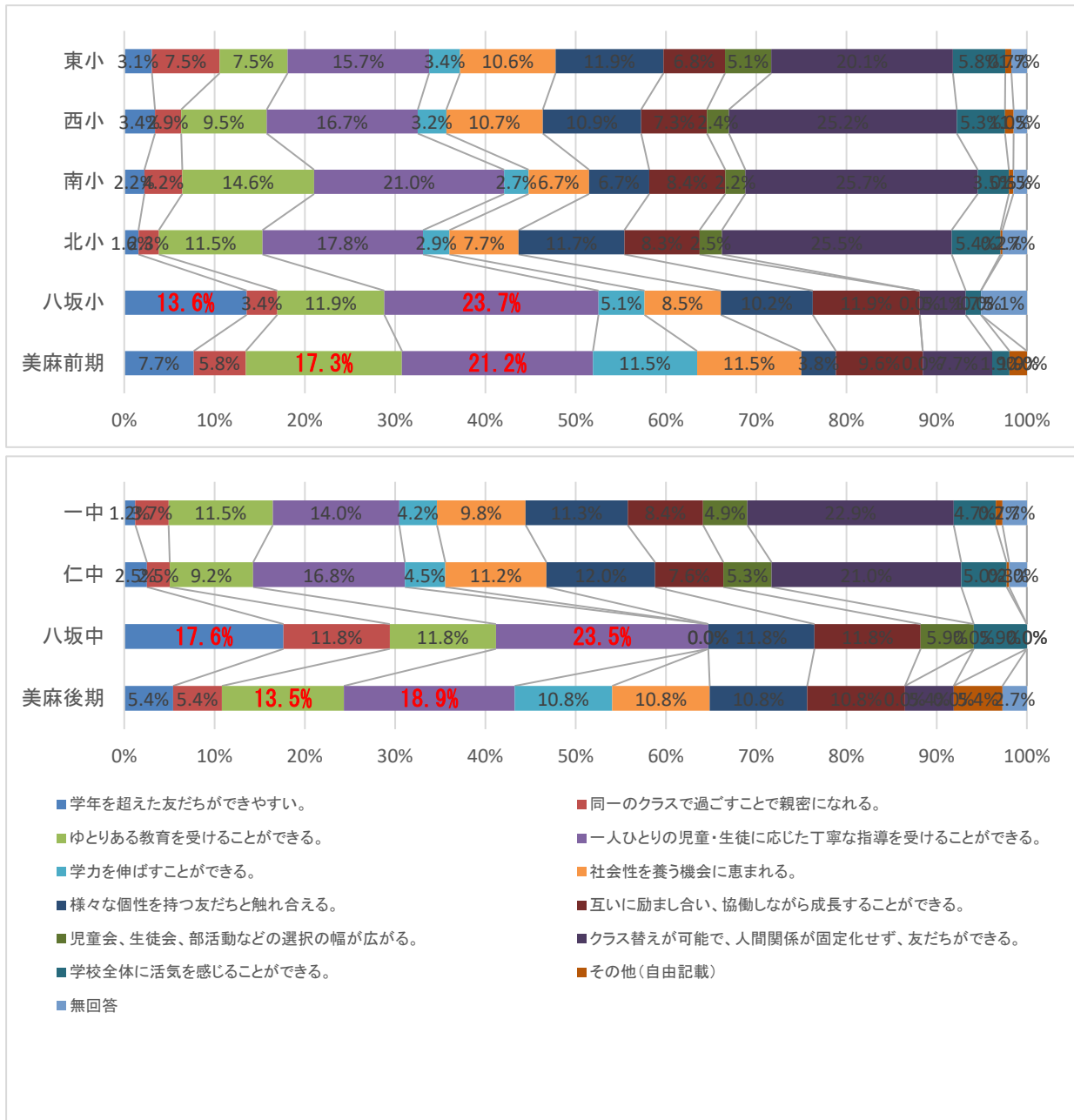
	小学校				中学校			
	保護者		市民		保護者		市民	
	回答者数	構成比	回答者数	構成比	回答者数	構成比	回答者数	構成比
学年を超えた友だちが きやすい。	51	3.1%	30	3.8%	19	2.3%	23	2.9%
同一のクラスで過ごす ことで親密になれる。	66	4.0%	46	5.8%	28	3.4%	31	4.0%
ゆとりある教育を受ける ことができる。	187	11.2%	54	6.8%	87	10.6%	39	5.0%
一人ひとりの児童・生徒 に応じた丁寧な指導を受け ることができる。	304	18.3%	82	10.4%	128	15.6%	72	9.2%
学力を伸ばすことができ る。	56	3.4%	31	3.9%	37	4.5%	53	6.8%
社会性を養う機会に恵ま れる。	147	8.8%	60	7.6%	84	10.3%	68	8.7%
様々な個性を持つ友だち と触れ合える。	167	10.0%	75	9.5%	95	11.6%	56	7.2%
互いに励まし合い、協働 しながら成長することが できる。	133	8.0%	55	7.0%	67	8.2%	59	7.5%
児童会、生徒会、部活動 などの選択の幅が広が る。	45	2.7%	36	4.6%	40	4.9%	68	8.7%
クラス替えが可能で、人 間関係が固定化せず、友 だちができる。	387	23.3%	116	14.7%	170	20.8%	109	13.9%
学校全体に活気を感じる ことができる。	79	4.7%	48	6.1%	38	4.6%	47	6.0%
その他（自由記載）	10	0.6%	4	0.5%	6	0.7%	3	0.4%
無回答	32	1.9%	152	19.3%	19	2.3%	155	19.8%
計	1,664	100%	789	100%	818	100%	783	100%

【その他（自由記載）】

- ・高学年になると特に女の子はグループができ、1クラスに3つ以上のグループがある方が変化に対応できると思うから。
- ・保護者、PTA活動の負担軽減
- ・運動会などクラスごとで競えたり、遊びができるので。
- ・担任、クラスが違うことで、様々な特色やり方があることを知ることができる。
- ・2クラスくらいがよい。
- ・居住地区をこえ様々な友人が出来る。
- ・教員が授業準備数等が少なく済み、子ども達と触れ合う時間を作れる。
- ・クラスの子ども同士合わなかった際に、クラス替えで離すことができる。
- ・八坂小へ通ってみて、複式学級の良さがありました。いろんな子がいて、影響し合う良さ。
- ・人間関係に幅があった方が良いと思う。
- ・クラス替えが必須ではないと思う。必要があれば、で。
- ・PTA保護者役員の負担減
- ・1クラス30人くらいにすればクラスが多くなってもよい。
- ・現状に満足しているため。
- ・学年に合った指導を受ける事ができる。



【学校別】



全体集計では、小・中学校とも「クラス替えが可能で、人間関係が固定化せず、友だちができる」が一番多く、市民アンケートと比べても、より高い値を示している。幅広い交流・人間関係を望んでいる。

一方で小・中学校とも「一人ひとりの児童・生徒に応じた丁寧な指導を受けることができる」が2番目に多く、市民アンケート同様に学級内の人数が少ない方が個々の指導が丁寧であるということから複数学級を望む意見もあったと推測する。

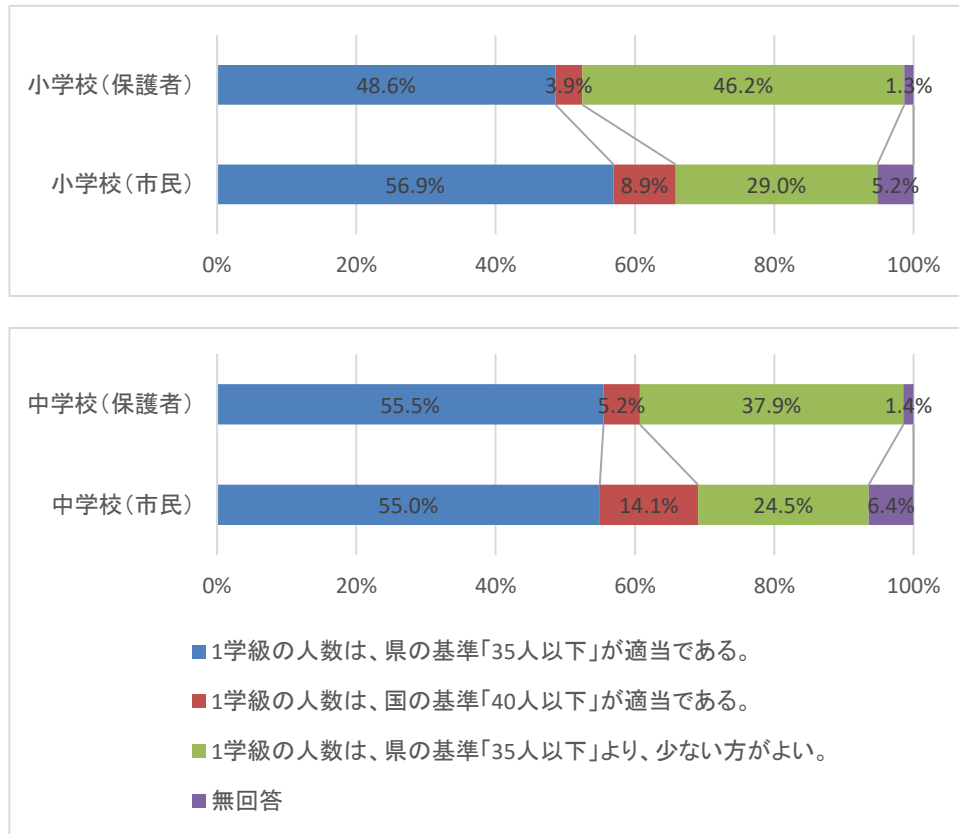
学校別で見ると、八坂地区、美麻地区にある学校では「一人ひとりの児童・生徒に応じた丁寧な指導を受けることができる」が一番多い。八坂地区では小・中学校とも「学年を超えた友だちがしやすい」、美麻地区では前期・後期とも「ゆとりある教育を受けることができる」がそれぞれ2番目に多い。両地区とも少人数による丁寧な教育や、少人数校独自の学年を超えた交友等、小規模校における特色ある教育環境の充実を望んでいると思われる。

問5 小学校（中学校）の1学級（クラス）あたりの児童（生徒）数について、どのようにお考えですか。（1つ）

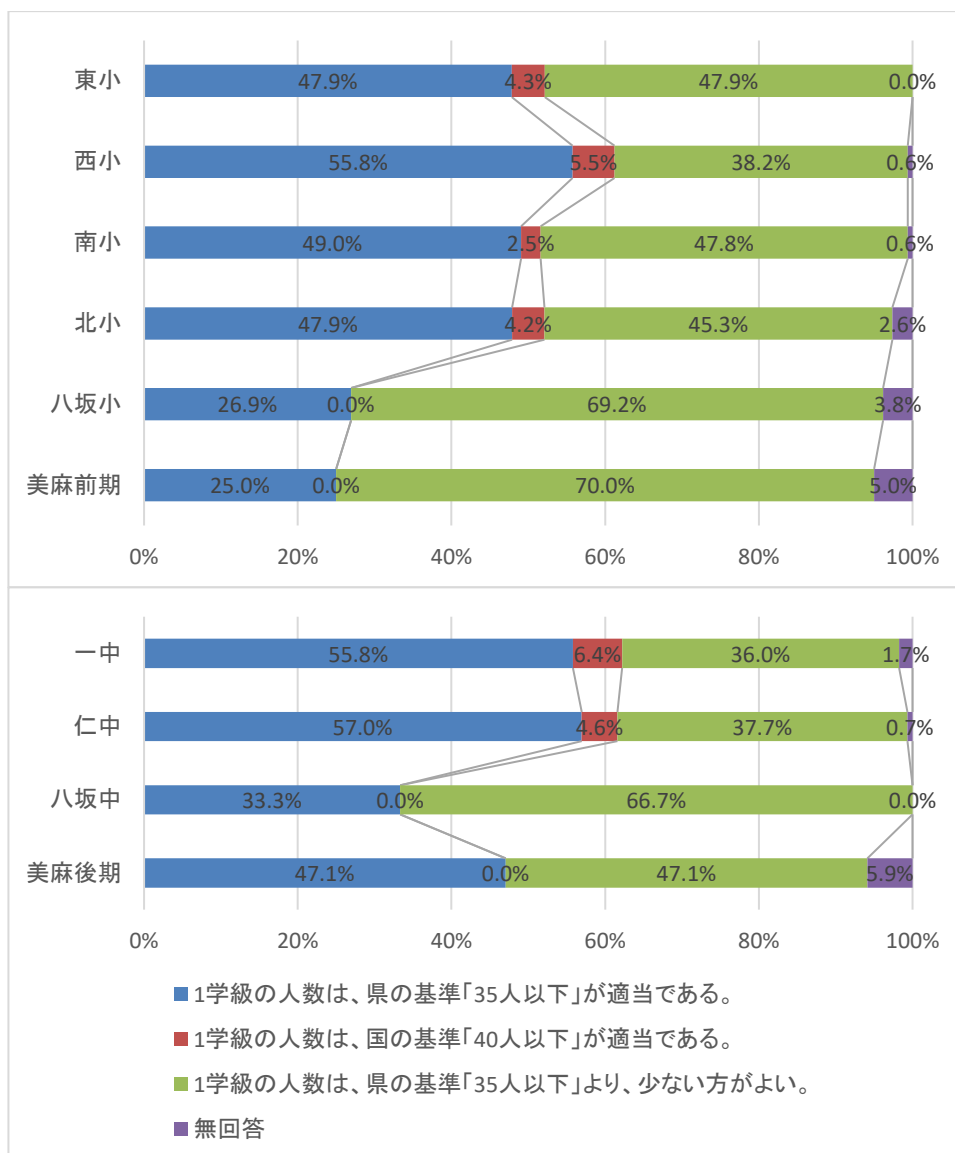
	小学校				中学校			
	保護者		市民		保護者		市民	
	回答者数	構成比	回答者数	構成比	回答者数	構成比	回答者数	構成比
1学級の人数は、県の基準「35人以下」が適当である。	328	48.6%	230	56.9%	192	55.5%	222	55.0%
1学級の人数は、国の基準「40人以下」が適当である。	26	3.9%	36	8.9%	18	5.2%	57	14.1%
1学級の人数は、県の基準「35人以下」より、少ない方がよい。	312	46.2%	117	29.0%	131	37.9%	99	24.5%
無回答	9	1.3%	21	5.2%	5	1.4%	26	6.4%
計	675	100%	404	100%	346	100%	404	100%

※1学級（クラス）あたりの児童（生徒）数について、国の基準は、小学校1学年のみ「35人以下」、小学校2学年以上及び中学校全学年で「40人以下」となっていますが、長野県は独自に基準を設け、小学校・中学校全ての学年で「35人以下」としています。

長野県の例：1学年に36人の児童（生徒）がいる場合、18人と18人の2学級に、1学年に70人の児童（生徒）がいる場合、35人と35人の2学級になります。このことを参考に回答してください。



【学校別】



全体集計では、市民アンケート同様に小・中学校とも「1学級の人数は、県の基準「35人以下」が適当である」が1番多いが、2番目に多い「県の基準「35人以下」より、少ない方がよい」の意見が、市民アンケートと比べると、より高い値を示している。

学校別で見ると、八坂地区、美麻地区にある学校では「1学級の人数は、県の基準「35人以下」より、少ない方がよい。」が一番多い。

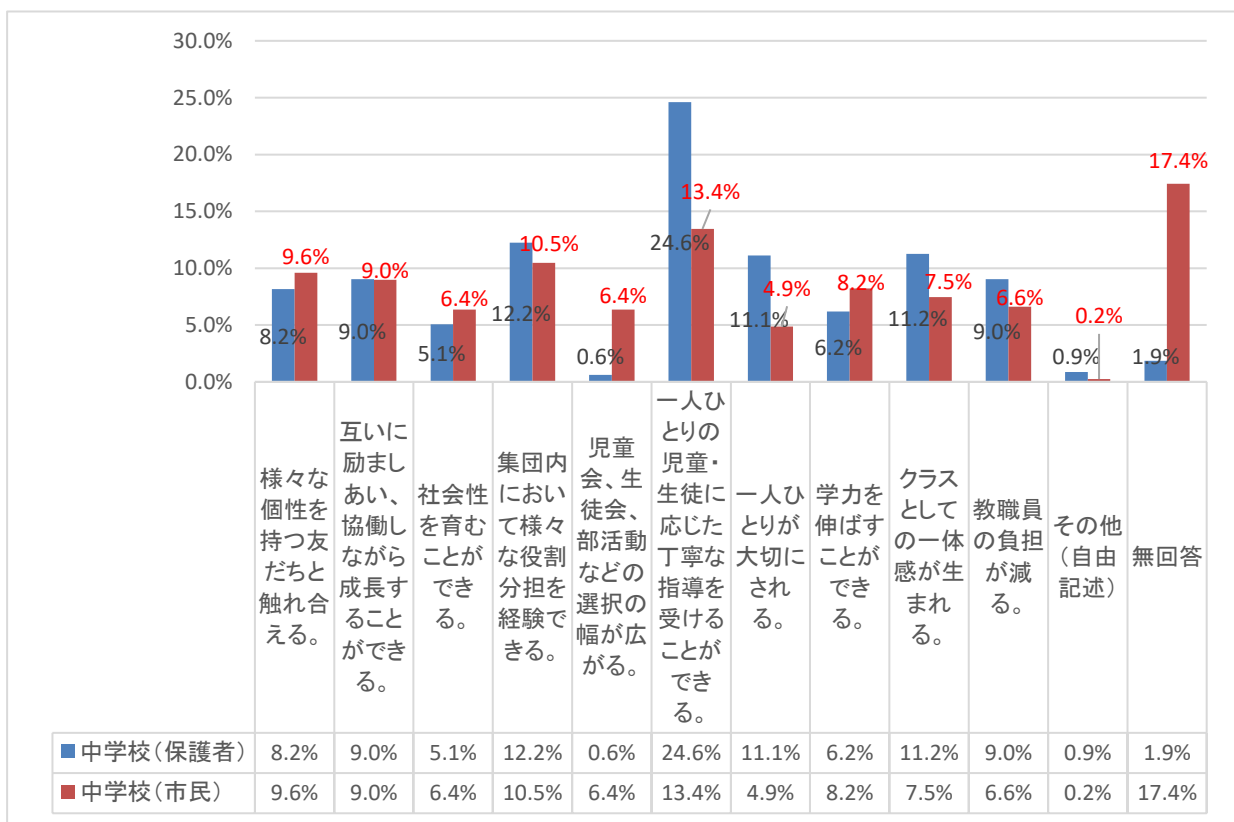
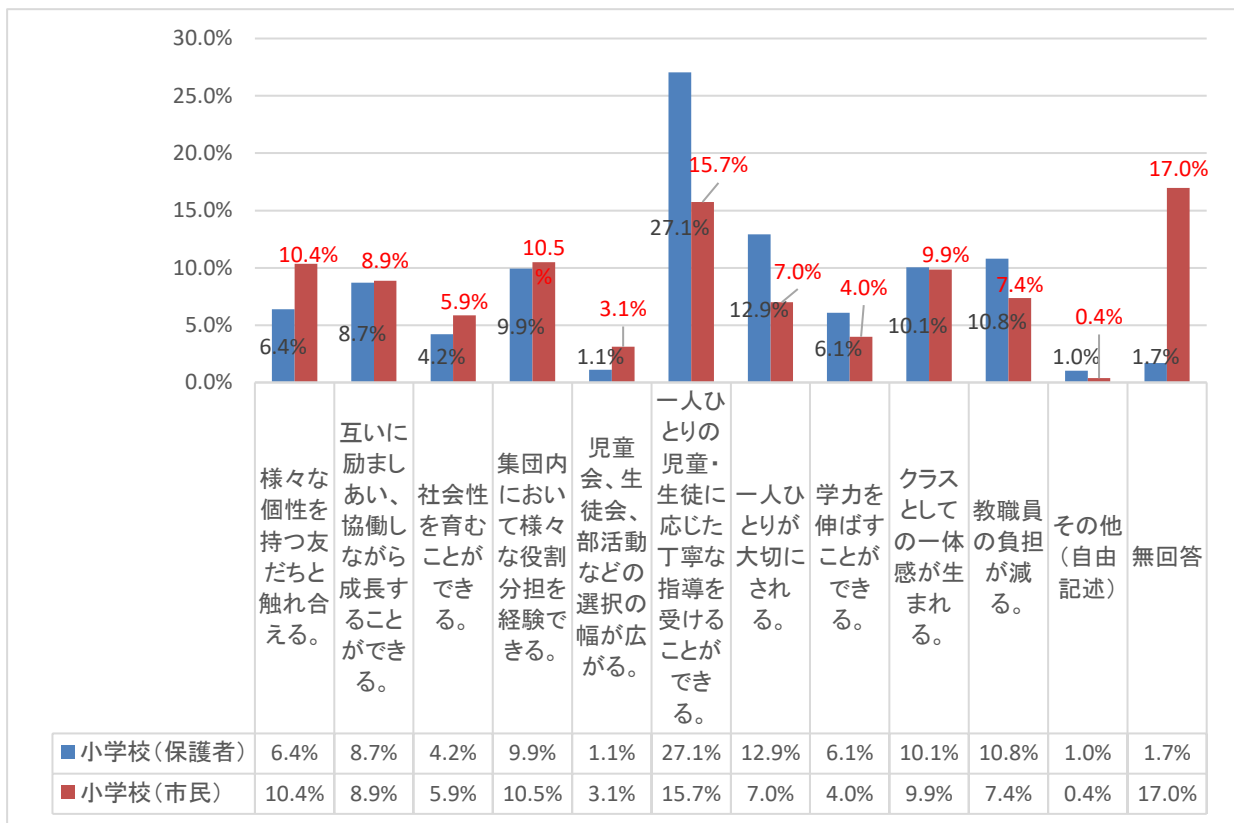
「1学級の人数は、県の基準「35人以下」が適当である」と「1学級の人数は、県の基準「35人以下」より、少ない方がよい。」を合わせると9割を超えており、市民アンケートよりさらに高い値となり、少人数の学級を望む声が高い。

問6 「問5」でお答えいただいた理由について、お聞かせください。（3つ以内）

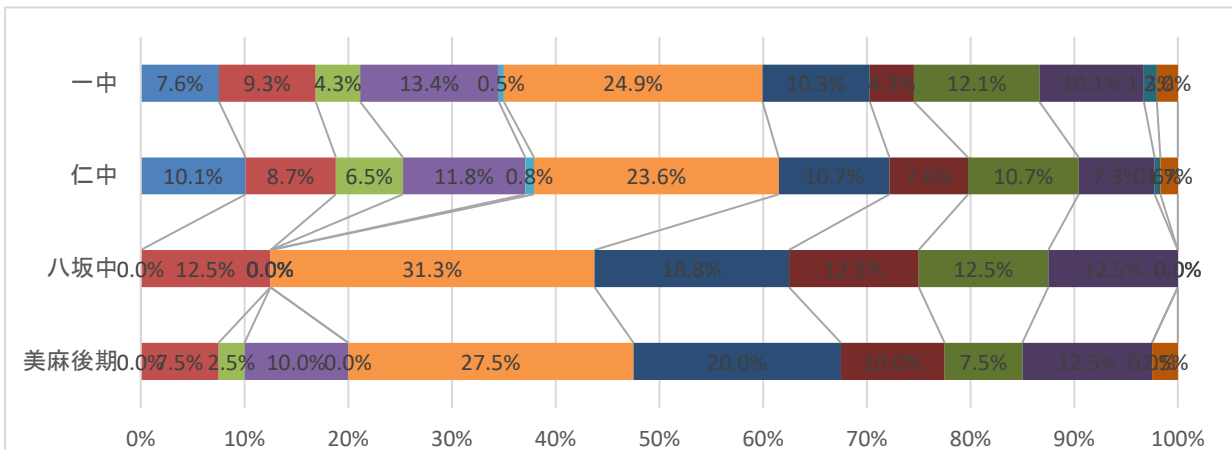
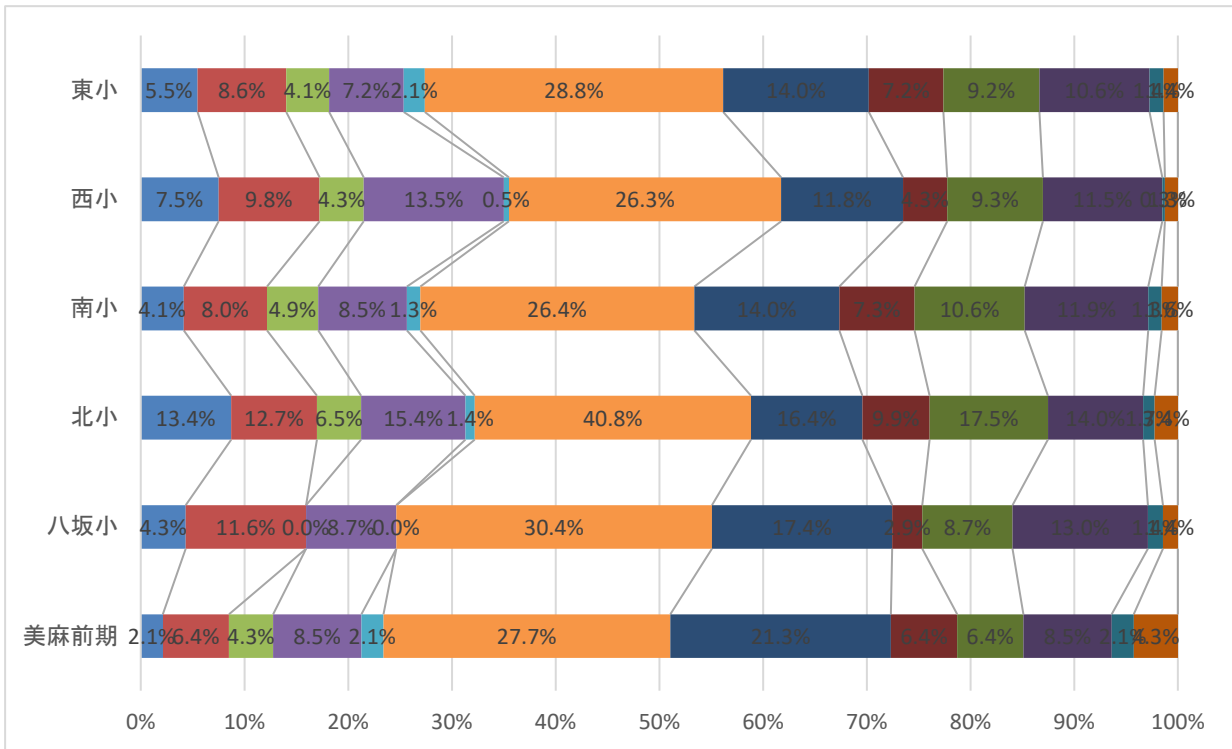
	小学校				中学校			
	保護者		市民		保護者		市民	
	回答者数	構成比	回答者数	構成比	回答者数	構成比	回答者数	構成比
様々な個性を持つ友だちと触れ合える。	105	6.4%	83	10.4%	66	8.2%	77	9.6%
互いに励ましあい、協働しながら成長することができる。	143	8.7%	71	8.9%	73	9.0%	72	9.0%
社会性を育むことができる。	69	4.2%	47	5.9%	41	5.1%	51	6.4%
集団内において様々な役割分担を経験できる。	163	9.9%	84	10.5%	99	12.2%	84	10.5%
児童会、生徒会、部活動などの選択の幅が広がる。	18	1.1%	25	3.1%	5	0.6%	51	6.4%
一人ひとりの児童・生徒に応じた丁寧な指導を受けることができる。	444	27.1%	126	15.7%	199	24.6%	108	13.4%
一人ひとりが大切にされる。	212	12.9%	56	7.0%	90	11.1%	39	4.9%
学力を伸ばすことができる。	100	6.1%	32	4.0%	50	6.2%	66	8.2%
クラスとしての一体感が生まれる。	165	10.1%	79	9.9%	91	11.2%	60	7.5%
教職員の負担が減る。	177	10.8%	59	7.4%	73	9.0%	53	6.6%
その他（自由記述）	17	1.0%	3	0.4%	7	0.9%	2	0.2%
無回答	28	1.7%	136	17.0%	15	1.9%	140	17.4%
計	1,641	100%	801	100%	809	100%	803	100%

【その他（自由記載）】

- ・クラス替えが可能で、人間関係が固定化せず友だちができる。
- ・少ないとまわりがよくみえていい。
- ・担任の先生が一人一人を見るのに35人より少ない方が丁寧に見てもらえると感じる。
- ・国基準の根拠を知らないなので、私には評価できません。35人となっている理由があるのであればそれが適当なのだと思います。
- ・様々な特性のある子に対して配慮してもらえる。
- ・あまりに少人数では、選択の可能性が減ってしまいますので、30人位が適当と考えます。
- ・先生の目が行き届くと思うから。
- ・先生が見きれない、大人数に対応できていない。
- ・あまり人数が多いと先生の負担も大きくなるのではないかと思うが、”丁寧な指導”や”ひとりひとりが大切にされる””学力を伸ばす””クラスとしての一体感が生まれる”というのは、先生の持ち味に左右されることが多いのではないかと感じる。
- ・明確な理由はありません。
- ・クラスの人数は20人位だと、先生方もしっかり見られるのでは？と思う。
- ・数について考える前に、今、子ども達が何を必要としているかを知るのが先ではないか。
- ・少なくとも幅が狭く、あまり良くないかもしれないが、多くても先生からの目が行き届きにくいかも、という気がします。
- ・選択肢6,7,8,9は1クラス当たりの生徒数、というより、先生の持ち味によって左右することが多いのではと感じます。
- ・35人以下の基準の為、たった一人多いだけで、18人クラスを2学級にすることは違和感を覚えるので。
- ・いろいろな生徒と対応するため、30名以下が良いと思います。
- ・最近支援学級に入っていない子でも、おかしな子が学級にいるので、先生の目が届きやすいのでは。
- ・今現在も、35人もいたら担任が子どもを把握しきれないと感じているから。
- ・クラス数を多く、ひとクラス人数を少なく、が理想です。



【学校別】



- 様々な個性を持つ友だちと触れ合える。
- 互いに励ましあい、協働しながら成長することができる。
- 社会性を育むことができる。
- 集団内において様々な役割分担を経験できる。
- 児童会、生徒会、部活動などの選択の幅が広がる。
- 一人一人の児童・生徒に応じた丁寧な指導を受けることができる。
- 一人一人が大切にされる。
- 学力を伸ばすことができる。
- クラスとしての一体感が生まれる。
- 教職員の負担が減る。
- その他(自由記載)
- 無回答

全体集計では、小・中学校とも市民アンケート同様に「一人一人の児童・生徒に応じた丁寧な指導を受けることができる」が一番多いが、市民アンケートと比べるとより高い値を示している。

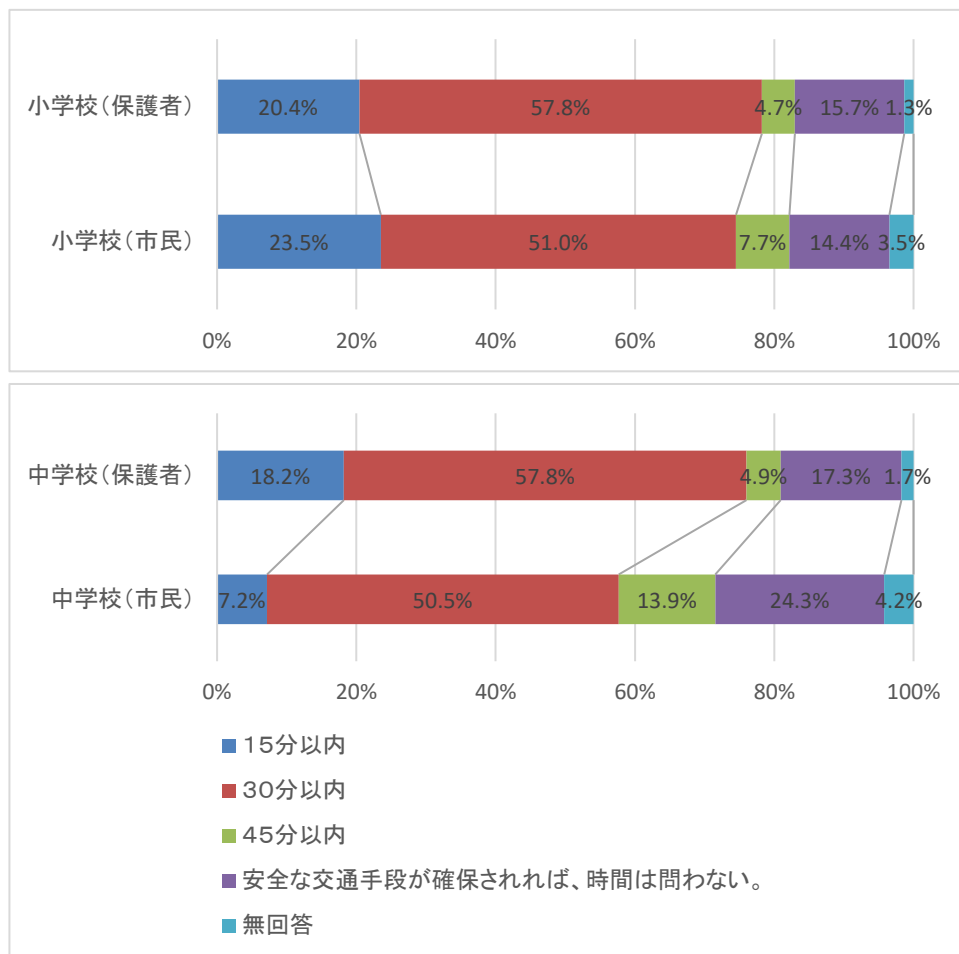
小学校では、「一人ひとりが大切にされる」が2番目に多い。市民アンケートで2番目に多かった「集団内において様々な役割分担を経験できる」は5番目となっている。

中学校では、市民アンケートと同様に「集団内において様々な役割分担を経験できる」が2番目に多い。

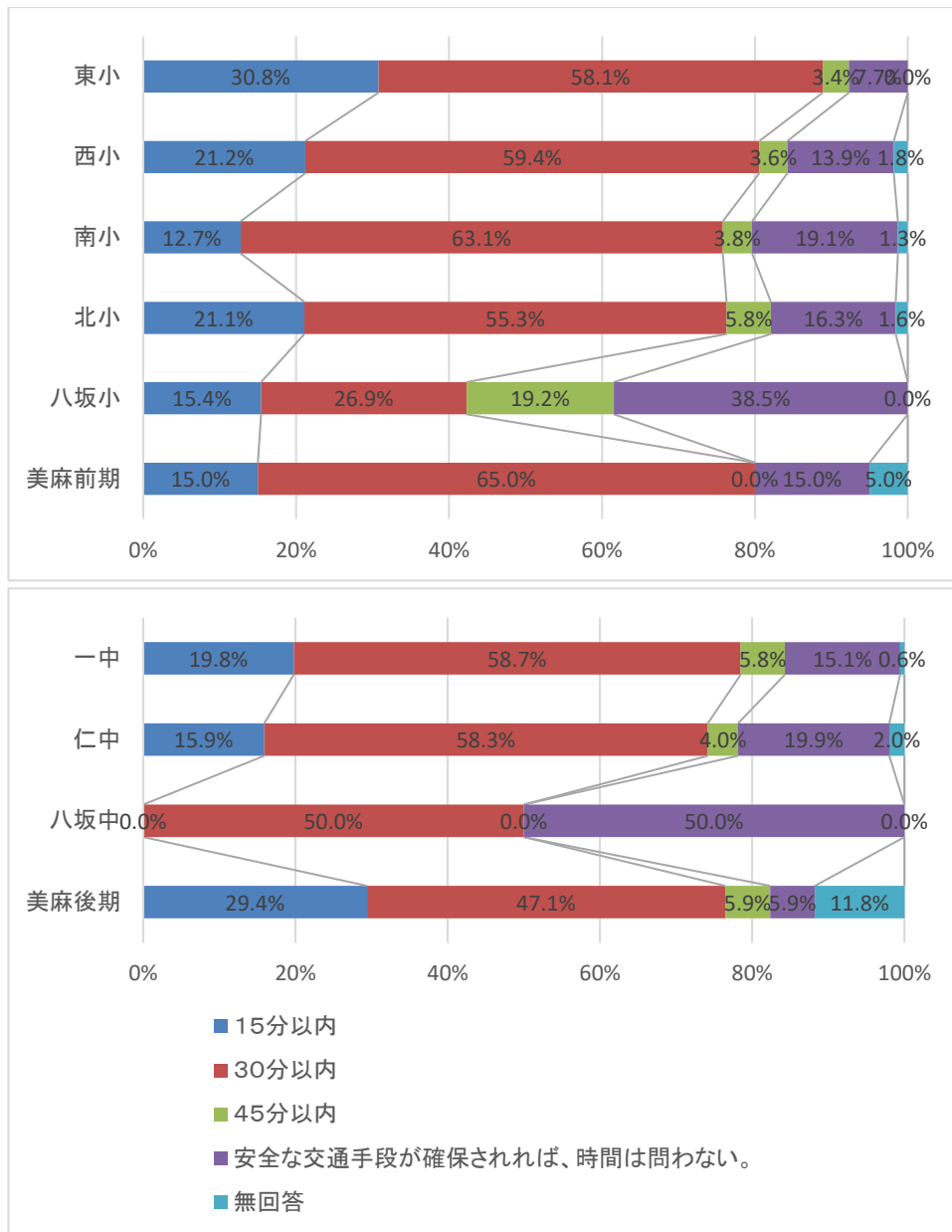
学校別で見ると、小学校は全体集計と全校とも同じ傾向である。中学校では、八坂・美麻地区で「一人ひとりが大切にされる」が2番目に多い。

問7 小学校（中学校）の通学時間（徒歩以外の自転車やスクールバス、JRなど公共交通機関の利用を含めた通学時間）について、どの程度が望ましいとお考えですか。（1つ）

	小学校				中学校			
	保護者		市民		保護者		市民	
	回答者数	構成比	回答者数	構成比	回答者数	構成比	回答者数	構成比
15分以内	138	20.4%	95	23.5%	63	18.2%	29	7.2%
30分以内	390	57.8%	206	51.0%	200	57.8%	204	50.5%
45分以内	32	4.7%	31	7.7%	17	4.9%	56	13.9%
安全な交通手段が確保されれば、時間は問わない。	106	15.7%	58	14.4%	60	17.3%	98	24.3%
無回答	9	1.3%	14	3.5%	6	1.7%	17	4.2%
計	675	100%	404	100%	346	100%	404	100%



【学校別】



全体集計を見ると、小・中学校とも「30分以内」が約6割を占めている。市民アンケートよりさらに高い値である。

市民アンケートでは、中学校で「安全な交通手段が確保されれば、時間は問わない」が2番目に多かったが、保護者アンケートでは「15分以内」が2番目となっている。

保護者アンケートでは、小・中学校とも通学時間は短い方を望んでいる。

学校別で見ると、八坂地区では「安全な交通手段が確保されれば、時間は問わない」が比較的大きな値を占めている。

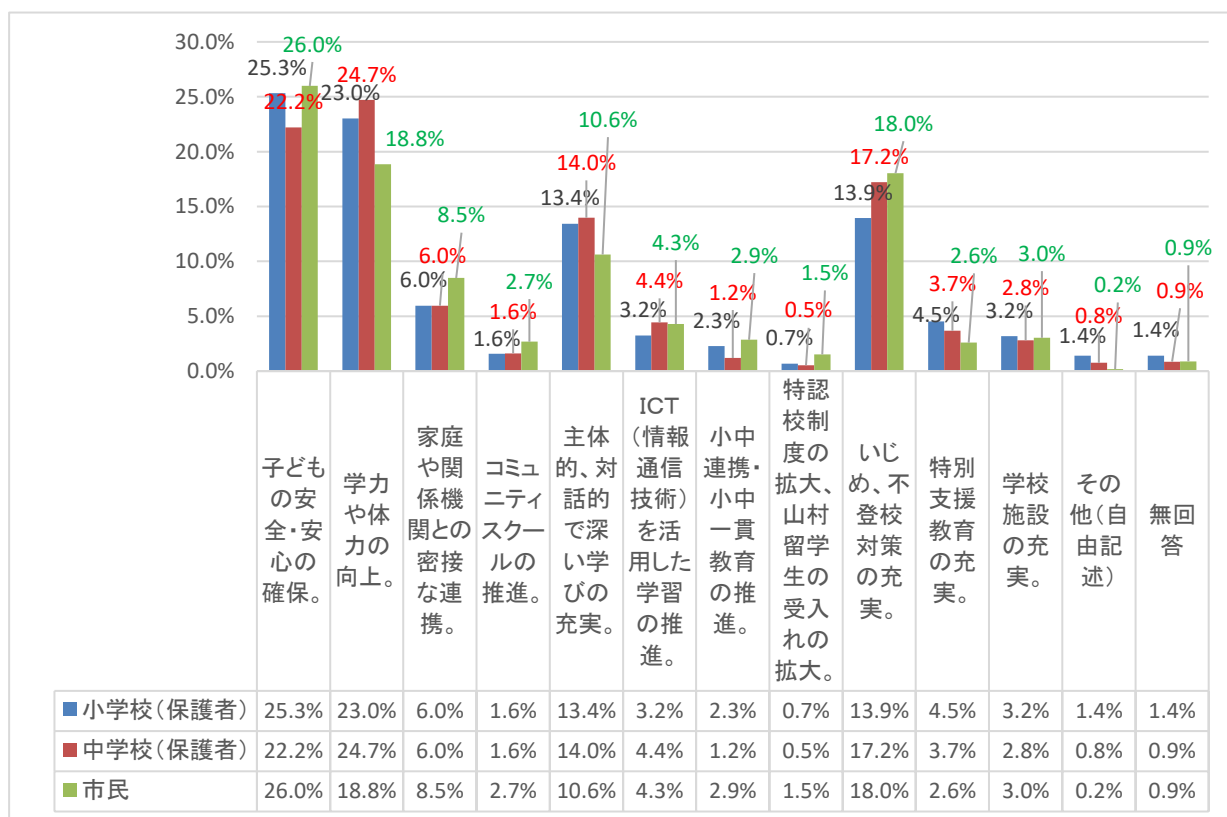
問8 学校で優先して取り組む課題としては、次のどれが大切とお考えですか。（3つ以内）

	小学校		中学校		市民	
	回答者数	構成比	回答者数	構成比	回答者数	構成比
子どもの安全・安心の確保。	447	25.3%	205	22.2%	291	26.0%
学力や体力の向上。	406	23.0%	228	24.7%	211	18.8%
家庭や関係機関との密接な連携。	105	6.0%	55	6.0%	95	8.5%
コミュニティスクールの推進。	28	1.6%	15	1.6%	30	2.7%
主体的、対話的で深い学びの充実。	237	13.4%	129	14.0%	119	10.6%
ICT（情報通信技術）を活用した学習の推進。	57	3.2%	41	4.4%	48	4.3%
小中連携・小中一貫教育の推進。	40	2.3%	11	1.2%	32	2.9%
特認校制度の拡大、山村留学生の受入れの拡大。	12	0.7%	5	0.5%	17	1.5%
いじめ、不登校対策の充実。	246	13.9%	159	17.2%	202	18.0%
特別支援教育の充実。	80	4.5%	34	3.7%	29	2.6%
学校施設の充実。	56	3.2%	26	2.8%	34	3.0%
その他（自由記述）	25	1.4%	7	0.8%	2	0.2%
無回答	25	1.4%	8	0.9%	10	0.9%
計	1,764	100%	923	100%	1,120	100%

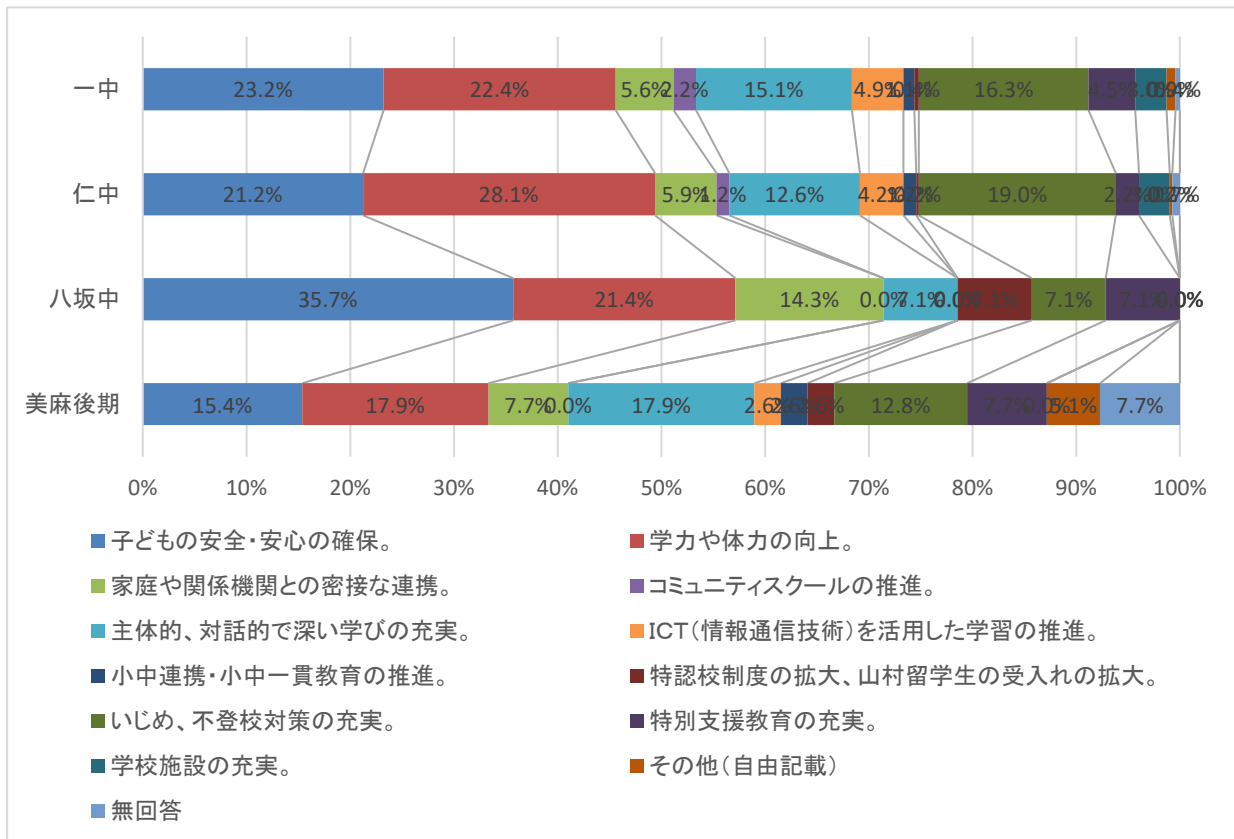
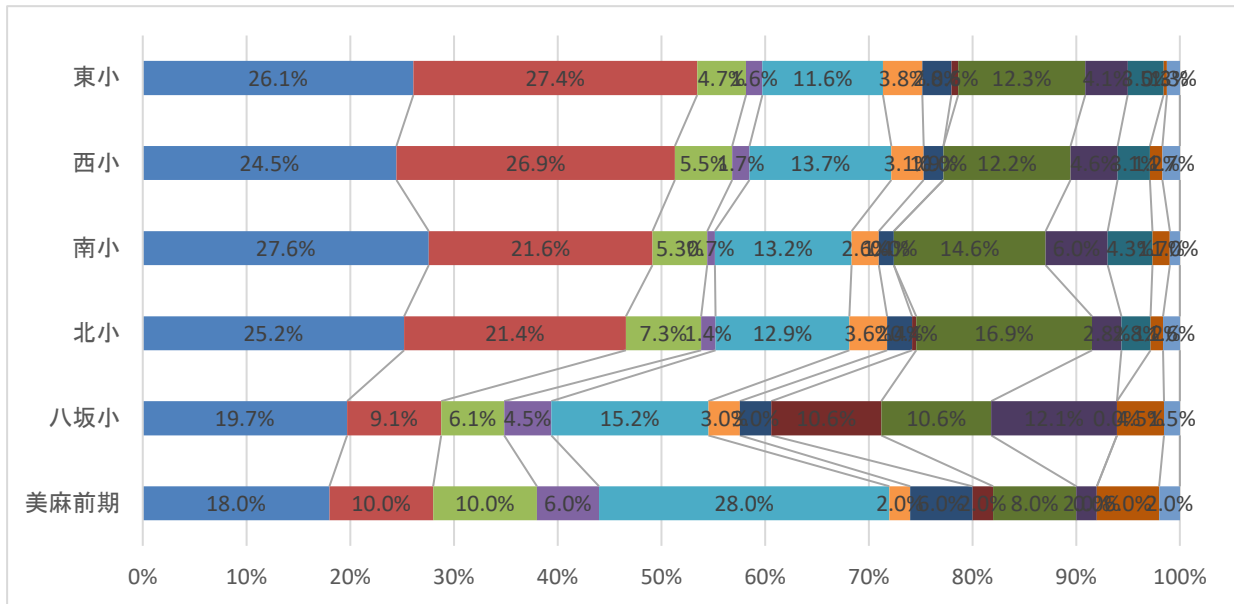
【その他（自由記載）】

- ・外国の方との交流
- ・放課後児童クラブの充実
- ・地域の「子育て力」の底上げ
- ・社会性を育てたい。
- ・先生と子どもの信頼関係
- ・自分の考えを述べ、また相手とのコミュニケーションを図れるような配慮
- ・教職員が忙しすぎず、一人一人の子どもと向き合う時間の確保
- ・子どもの心身の健全な育成
- ・コミュニケーション能力の向上。
- ・学習の進み具合が早すぎてついていけない子と、ついていける子で分けた学習体制を作ること。松川村がやっているように、「さんすう」の時だけ1組2組合わせて進行具合、理解度の早いクラス、遅いクラスに分けてやっている体制。
- ・社会性の経験
- ・一人一人を認める事。それによって自信もつくでしょう。自分を出せる人に成長させてもらいたい。
- ・学力・体力を養うことはもちろんですが、何より成長していく過程で将来を左右する社会性を養える場となる学校の存在は必要不可欠で、日々ありがたいと思っております。私が感じる課題は、具体的に思いつきませんが、安全・安心が一番大切かと思えます。
- ・配慮の必要な子に対する理解と配慮の必要性
- ・子ども達の個性を伸ばす教育を優先して欲しい。

- ・人として生きてゆく上での大切なことを教える場
- ・団体生活の過ごし方、仲間の大切さ
- ・従わせる教育より、楽しく学べるよう授業の内容の改善
- ・個性を認め合う学び
- ・思いやり教育。人を見下さない。個性を認める。
- ・多様性をもっと受け入れ姿勢が必要と思う。画一的、みんな一緒は人権無視でとても苦しい。「みんなちがう」という個性が宝であり、それを潰さないやり方が急務。
- ・子どもから学ぶ姿勢
- ・子どもの” やりたい”” 学びたい” を土台にした授業
- ・個々の成長、特性に沿った授業（暗記だけで終わらない学習）
- ・先生方の意識の向上
- ・実践的な授業、精神的に自立させることのできる学びを増やす。
- ・5は、今のやり方では、従わせる感が強い気がします。思春期の子どもは反発するのでは？キライなタイプの大人のいう事は聞かないと思います。理解のある人には心を開くと思います。9にもつながると思います。
- ・教職員の質の向上
- ・中学では、早い段階で専門コースを設けるべき。
- ・スピーチや対話（ディベート）など、これからの国際社会で意見が言える人材になるための教育
- ・自分たちの社会（子どもの社会）、地域社会、日本、世界がかかえる問題について話し合う。取り組む時間を作る。
- ・プールの再生を切に願います。
- ・個性、特性に応じた教育の多様性
- ・先生方の授業のあり方の意識向上



【学校別】



全体集計では、小・中学校とも「子どもの安全・安心の確保」「学力や体力の向上」「いじめ、不登校対策の充実」「主体的、対話的で深い学びの充実」の4つが特に高い割合を占めている。

学校別に見ても、それぞれの割合は違うが、同じ4つの項目で約6～7割を占めている。

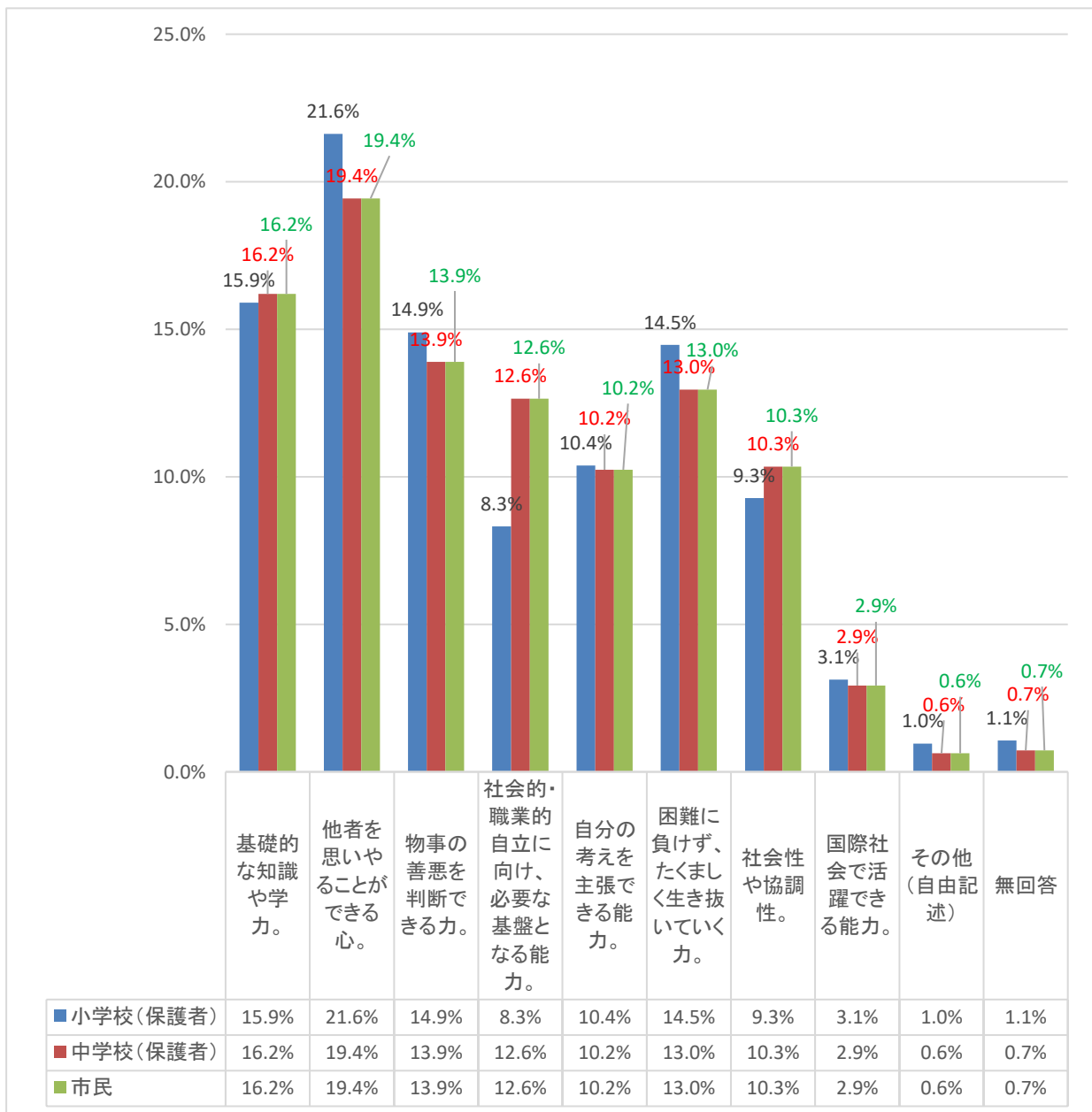
問9 大町市の子どもたちに育みたい能力は、次のどれが大切とお考えですか。（3つ以内）

	小学校		中学校		市 民	
	回答者数	構成比	回答者数	構成比	回答者数	構成比
基礎的な知識や学力。	300	15.9%	155	16.2%	178	15.6%
他者を思いやることができる心。	408	21.6%	186	19.4%	223	19.5%
物事の善悪を判断できる力。	281	14.9%	133	13.9%	185	16.2%
社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力。	157	8.3%	121	12.6%	100	8.8%
自分の考えを主張できる能力。	196	10.4%	98	10.2%	100	8.8%
困難に負けず、たくましく生き抜いていく力。	273	14.5%	124	13.0%	169	14.8%
社会性や協調性。	175	9.3%	99	10.3%	130	11.4%
国際社会で活躍できる能力。	59	3.1%	28	2.9%	40	3.5%
その他（自由記述）	18	1.0%	6	0.6%	5	0.4%
無回答	20	1.1%	7	0.7%	11	1.0%
計	1,887	100%	957	100%	1,141	100%

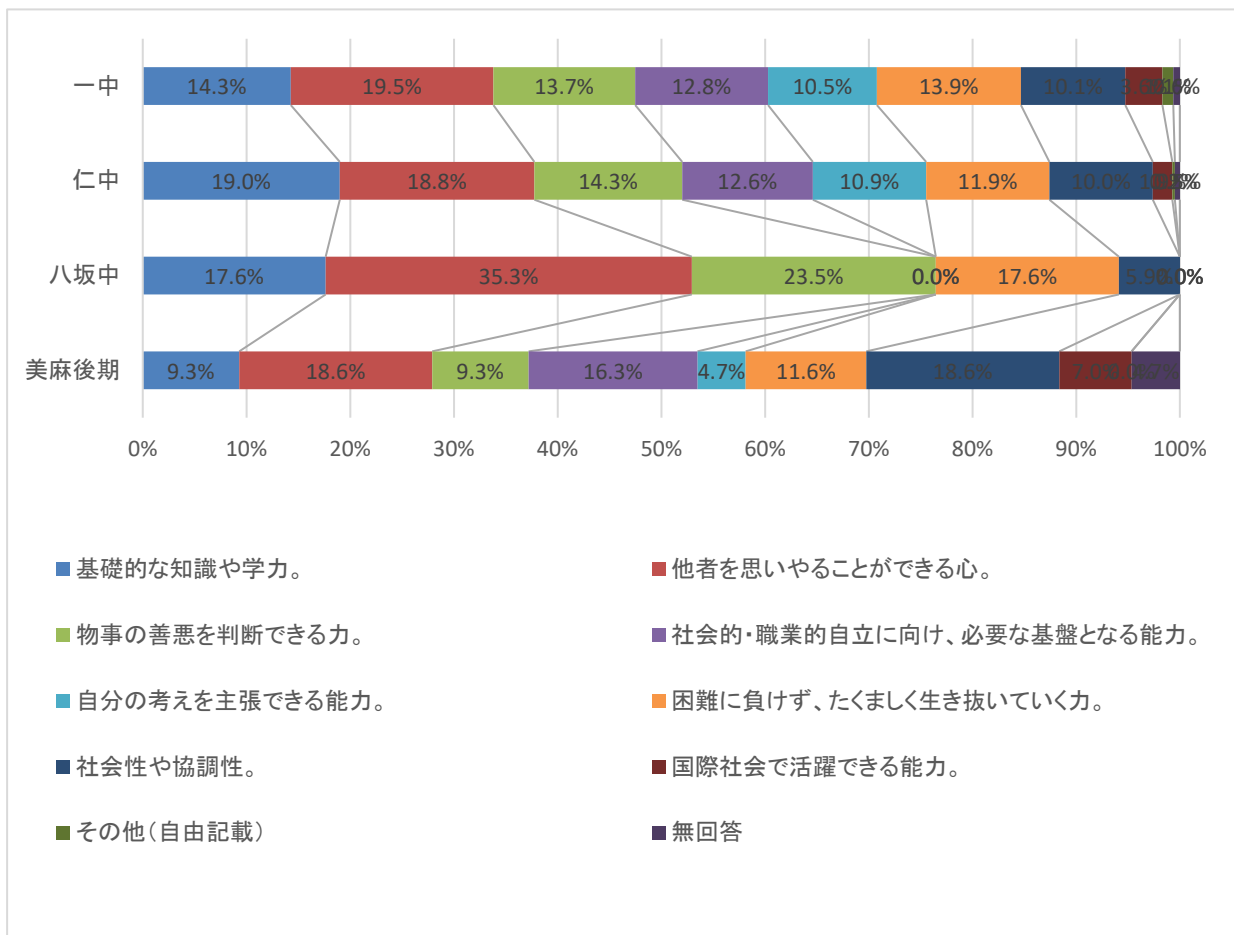
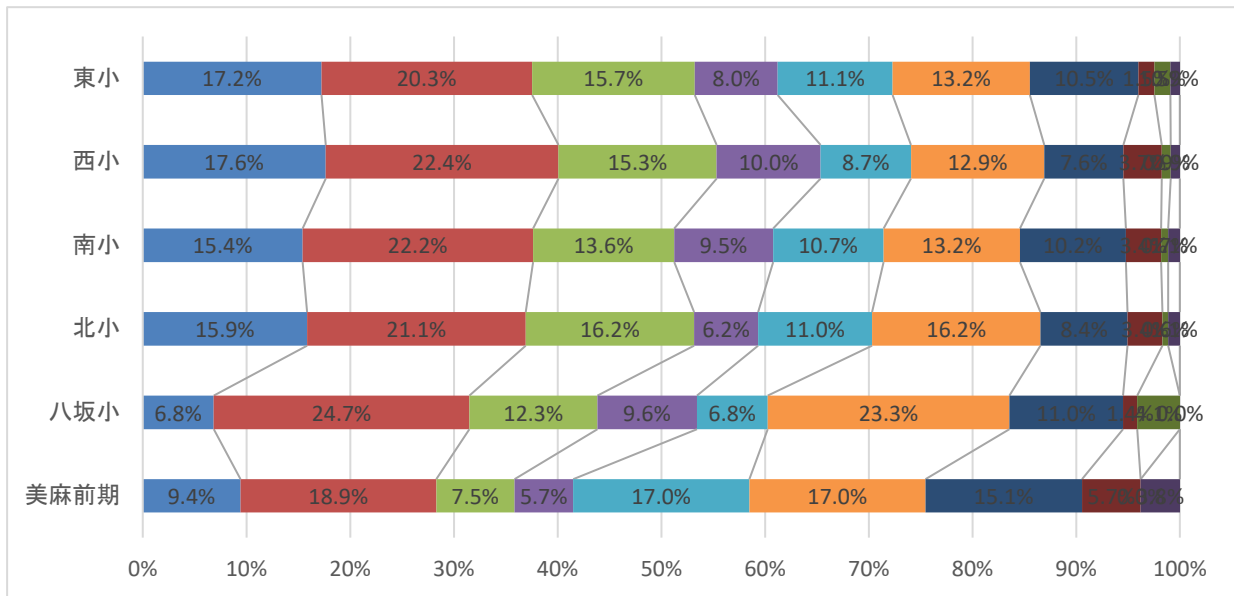
【その他（自由記載）】

- ・ 全て大事
- ・ 大町市の魅力
- ・ あいさつ、早寝早起きする、屋外で元気に遊ぶなど、子どもらしい生活をする。
- ・ 命の重さについて考えられる力
- ・ 大町市の魅力を知り、出身地である誇りが持てる。また、良い所、悪い所を見つけ、将来、自分が出来ることを見つける。
- ・ 大町を大切にする力（故郷）
- ・ ”大町で育った子だから大丈夫” という自信
- ・ 自分の個性に自信を持って生きていく力
- ・ 大町を誇りに思う、好きだと思える心、違いを認め合える心
- ・ 自分の個性に自信を持って生きていく力
- ・ ふるさと大町をほこりに思い、たとえふるさとを離れても大切に思う心情
- ・ 大町の自然豊かな環境に触れ合う体験
- ・ 長所を伸ばすための育成をして欲しい。
- ・ 自然の大切さ、体づくり、生命の（地球の）仕組み（畑、野外調理）
- ・ 向上心、競争心
- ・ 生活する知恵、能力（田畑で作物を作る、工作するなど生きる上で人間が自主的、意欲的に取り組む力をつける、行えること全般）

- ・物事を深く考察する力。好奇心を原動力にして物事を探求する力。
- ・人以外の動植物や山、川などの自然に対する感受性
- ・人はあるがままですばらしいという心
- ・個人の個性を認めて共存する力
- ・様々な体験
- ・スポーツをやるかどうかではなく、生活が活発にできる体力、身体能力（柔軟性、筋力）
- ・主体性を持った学び
- ・大町の自然を感謝し大切に思う心
- ・学校で育てたい能力として、自分の地域や日常を国際社会まで広げて考えられる広い視野と課題解決能力



【学校別】



全体集計では、小・中学校とも「他者を思いやることができる心」「基礎的な知識や学力」「物事の善悪を判断できる力」「困難に負けず、たくましく生き抜いていく力」の順で、特に高い割合を占めている。

問 10 学校への人材配置について、優先して取り組むべき課題としては、次のどれが大切とお考えですか。（3つ以内）

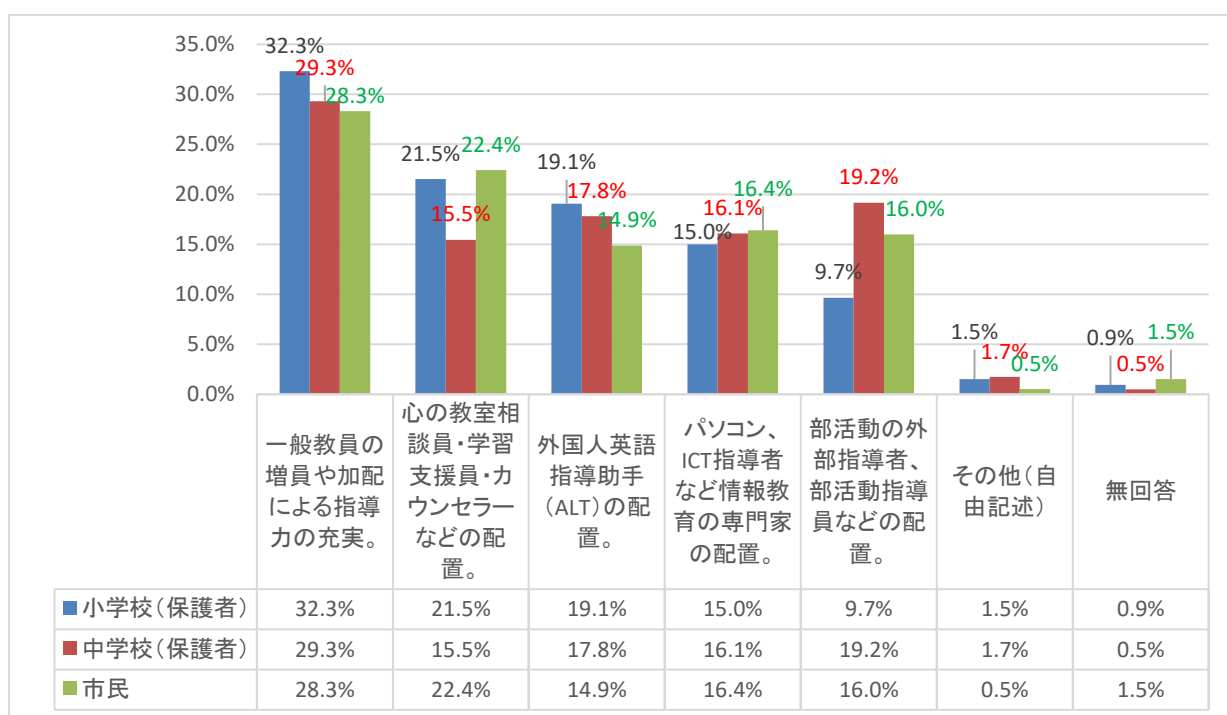
	小学校		中学校		市民	
	回答者数	構成比	回答者数	構成比	回答者数	構成比
一般教員の増員や加配による指導力の充実。	485	32.3%	237	29.3%	278	28.3%
心の教室相談員・学習支援員・カウンセラーなどの配置。	323	21.5%	125	15.5%	220	22.4%
外国人英語指導助手（ALT）の配置。	286	19.1%	144	17.8%	146	14.9%
パソコン、ICT指導者など情報教育の専門家の配置。	225	15.0%	130	16.1%	161	16.4%
部活動の外部指導者、部活動指導員などの配置。	145	9.7%	155	19.2%	157	16.0%
その他（自由記述）	23	1.5%	14	1.7%	5	0.5%
無回答	14	0.9%	4	0.5%	15	1.5%
計	1,501	100%	809	100%	982	100%

【その他（自由記載）】

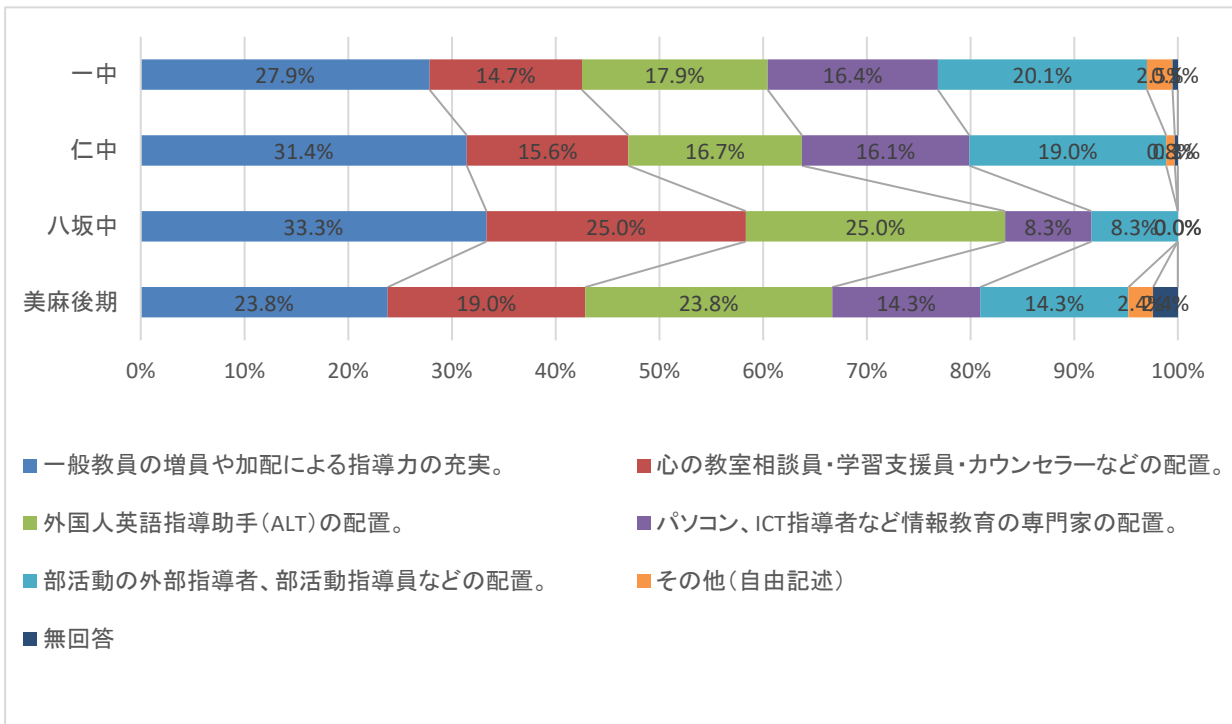
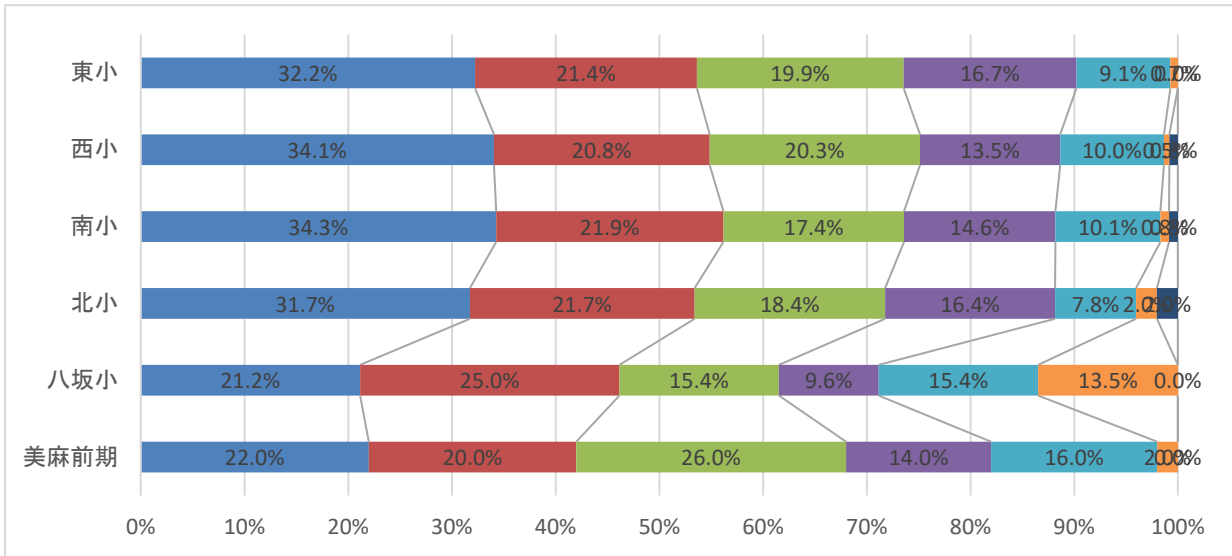
- ・ 地域のお年寄りとの交流（道徳力の増進）
- ・ 家庭について教員との連携できる人
- ・ その時に集まった先生方の個性が生かせるなら、それでいいと思う。
- ・ 人員がいても、先生の対応能力の不足を感じる。自分の意見を言うのも大事だが、子どもの話を聴く余裕を持ってもらいたい。
- ・ 常勤の専任の学校支援コーディネーター
- ・ 4は将来的に大切ですね。子どものうちから頭の柔らかいうちに情報？しかしかたよってしまうのは心配ですが。
- ・ 学校職員さんが負担に感じる部分が緩和されるように必要な人や物が配置されることを望みます。
- ・ 一般サラリーマン等から教育の場へ、もっと多くの人を入れてほしい。公務員は、物事を多角的に考えられない方で多すぎるため。
- ・ 学校で対応困難な子どもと親との関わりを支援する子育て機関
- ・ 教員の負担を減らしつつ、充実した学校生活を送らせるべき配置と増員
- ・ 2には、マニュアル通りではなく、その子どもなどにきちんと話をでき、対応できる方を望みます。
- ・ 人生とは楽しいと感じさせてくれる人
- ・ 現状で十分かと考えますが、先生方が不足していると考えているところがあれば、そちらも優先していただければと思います。
- ・ 教員以外の大人（その道のプロ）に先生として来てもらったり、子ども達の人生に益となる出会い、学びのチャンスをつくる事も大切と思う。
- ・ 教員の事務補佐をする人をつけてもいいのでは。
- ・ 特別支援学級に、専門知識をもった教員、支援員を増やし、子ども一人一人に丁寧な対応が

出来るように努めてほしい。

- ・先生方全員で子ども達全員を見てくださっているように感じます。現状で充分です。
- ・その地区の特色を生かし、柔軟に対応できる教員
- ・一人一人が尊重されるために仕組みから変えていく。
- ・人事異動によって今まで育てられたコミュニティスクールの築き上げたものがゼロに戻ってしまう。また、対話による授業を行える先生が来ない。授業にならない。先生方が精神的にすぐに病んでしまい、人材がいなくて授業にならない。
- ・生徒と平等な関係（上から目線のない学校）
- ・担任制をやめた学校もありますね。
- ・人数を増やすだけでなく、教師の質、人間性を確立、向上してほしい。
- ・現在2～4の先生がいるのでいいと思う。
- ・先生がもっと学ぶ機会があったほうが良いのではないか。
- ・公務員以外の専門家の充実を図るべきです。1～5の内容は大切だが、それ以上に一般の人材からの視点を入れるべきです。
- ・不登校対策の専門スタッフ
- ・英語教育はもう充分だと思う。英語は後からでもいくらでも覚えられるが、自分の意見をはっきり言う事などは、幼い頃から教育していかないと、身につかない。そういう教育をするための人材を配置してほしい。
- ・5は教員の負担を減らすためにも。
- ・1クラスに1人以上の補助の教員を配置してほしい。
- ・先生方に時間内に次の用意できる空き時間をあげてほしい。放課後は、部活、会議が当たり前。休日返上で仕事では、将来（今の子ども達が）教員になりたいと言わなくなる。
- ・地域のボランティアや指導者の力を借りるためのコーディネート、また、一般教員が生徒の教育に専念できるようにするためのマネジメントについて取り組んで欲しい。
- ・専門知識のある指導員（部活・授業など）
- ・社会へ出てしっかりと対応できるように、自主性を持たせること。
- ・様々なタイプの授業が出来る人材を入れてほしい。特にメンドシーノ関係での英語の先生の実力派必須だと感じた。



【学校別】



全体集計では、小・中学校とも市民アンケート同様に「一般教員の増員や加配による指導力の充実」が最も多い。小学校では、次いで「心の教室相談員・学習支援員・カウンセラーなどの配置」となっている。中学校では、「部活動の外部指導者、部活動指導員などの配置」となっている。

市民アンケートでは、3番目に「パソコン、ICT指導者など情報教育の専門家の配置。」となっていたが、保護者アンケートでは、小・中学校とも「外国人英語指導助手(ALT)の配置。」となっている。

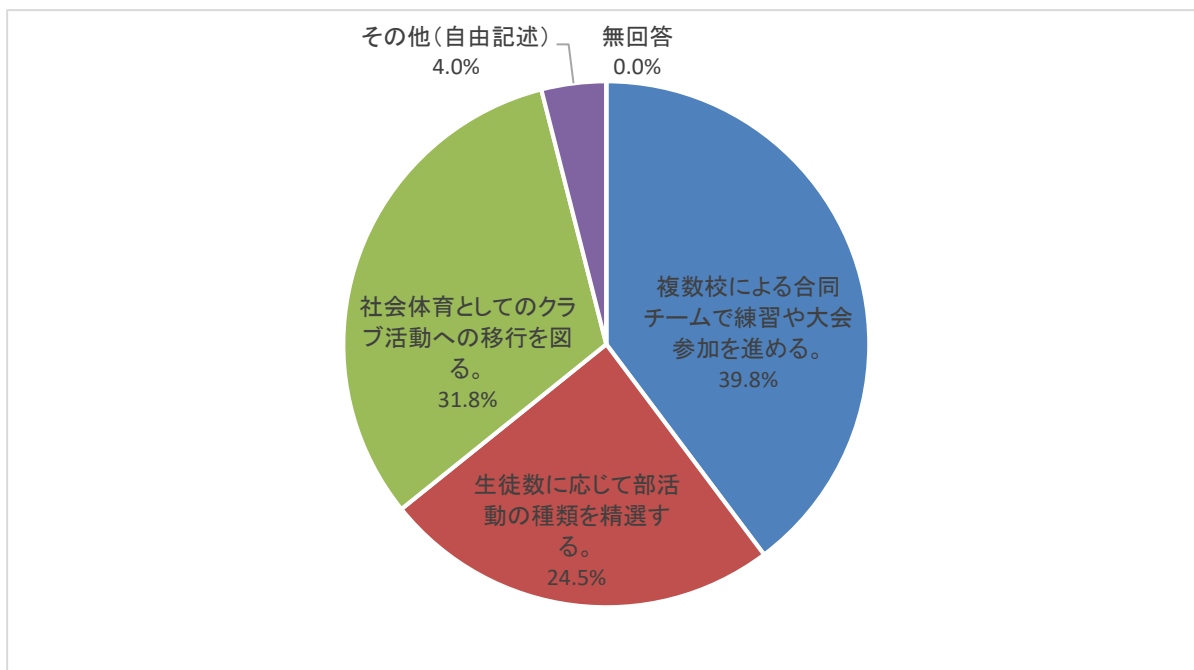
個々の丁寧な指導を望んでいるほか、英語教育の充実、中学校では、部活動への支援も期待している。

問 11_中 部活動について、部員数の減少や少子化に伴う教員数の減少から顧問の確保が困難となる等の課題があります。部活動について今後どのようにすることが望ましいとお考えですか。（1つ）

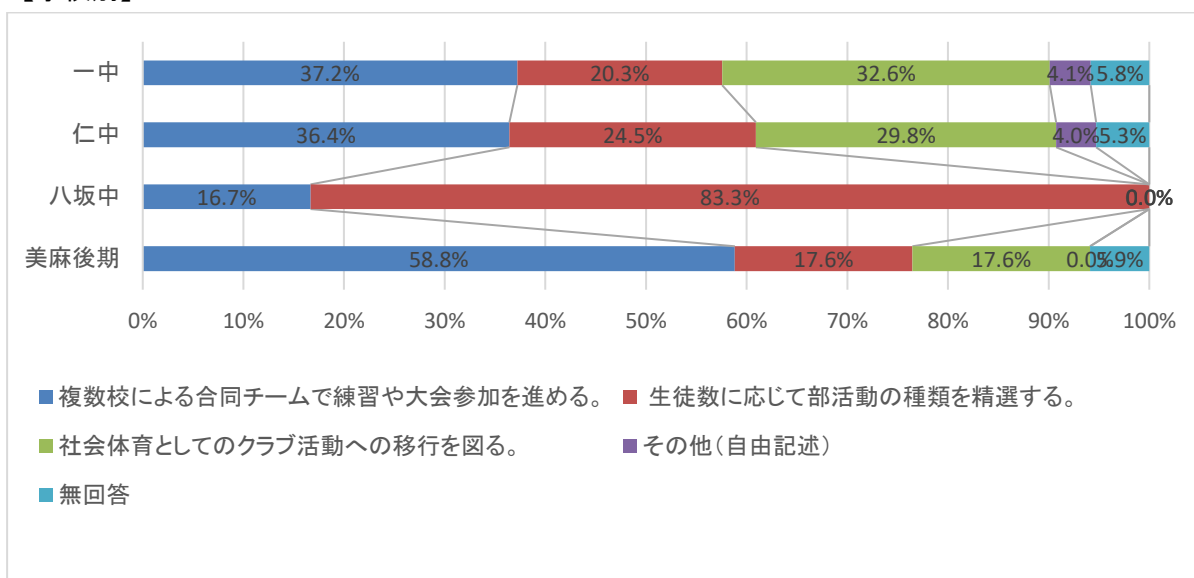
	保護者アンケート	
	回答者数	構成比
複数校による合同チームで練習や大会参加を進める。	130	39.8%
生徒数に応じて部活動の種類を精選する。	80	24.5%
社会体育としてのクラブ活動への移行を図る。	104	31.8%
その他（自由記述）	13	4.0%
無回答	0	0.0%
計	327	100%

【その他（自由記載）】

- ・ 純粹に楽しめるあり方（厳しすぎて全然楽しそうじゃない）
- ・ 外部コーチを依頼して、顧問の先生の負担を減らす。子どもの選択肢を大人の都合で減らしてしまうのはかわいそう。
- ・ 親が教えられる範囲で子どもを見る。NPO法人でのクラブ活動へ目を向ける。仕事としてやっている専門家なので大いに活用する。
- ・ 大町市で1チームにし市で指導者を職員として雇用する。
- ・ 学校を統合する
- ・ 顧問の確保のみでなく、保護者の負担増への対策を合わせて考えるべき
- ・ 顧問が練習に参加しなくても活動できるように計らってほしい。
- ・ 部活により、先生の負担も変わってくるので「顧問」をやめて学校全体で見えていく。
- ・ 複数担任制、教員への手当、部活指導も含めた異動を検討してほしい。部活＝学校教育の一貫と考えたい。（身体だけでなく、心の成長期でもあるためフォローが必要）
- ・ こちらの設問は運動部中心の設問と感じられ、その他の部活動を含む考え方が出来にくいため、回答できません。
- ・ 市全体として、スポーツクラブを充実させ、そこへの移行
- ・ 顧問の確保が難しい課題について、部活動について問うことについて設問事態がおかしい。



【学校別】



全体集計では、「複数校による合同チームで練習や大会参加を進める。」「生徒数に応じて部活動の種類を精選する。」「社会体育としてのクラブ活動への移行を図る。」ともほぼ同数であり、総合的な取り組みを望んでいる。

八坂中学校では、部活動の精査、美麻後期では、複数校合同チームを、それぞれ望んでいる。

このほか、自由記載で、保護者の負担軽減、顧問のあり方、スポーツクラブ移行などのご意見がある。

問 11_小 (問 12_中) 少子化の中で、学校の数は、どのようにすることが望ましいとお考えですか。(1つ)

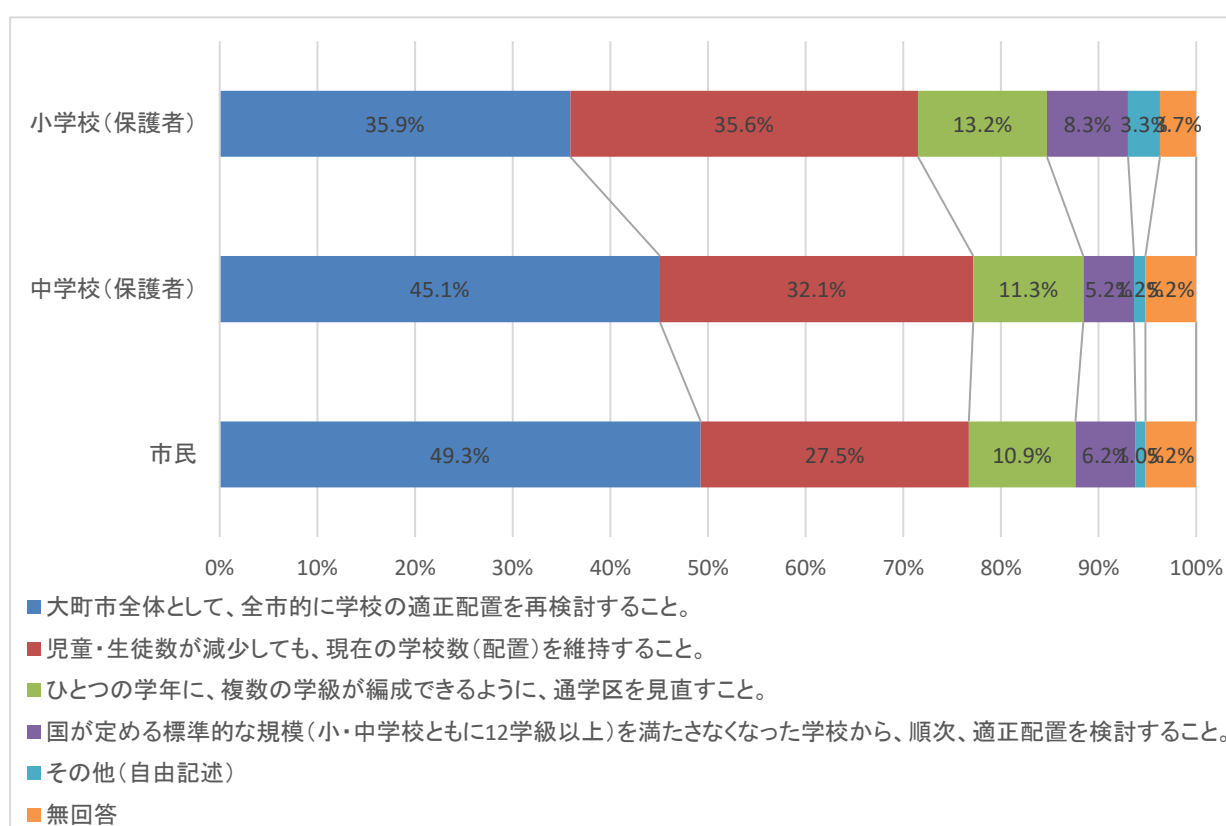
	小学校		中学校		市民	
	回答者数	構成比	回答者数	構成比	回答者数	構成比
大町市全体として、全市的に学校の適正配置を再検討すること。	242	35.9%	156	45.1%	199	49.3%
児童・生徒数が減少しても、現在の学校数(配置)を維持すること。	240	35.6%	111	32.1%	111	27.5%
ひとつの学年に、複数の学級が編成できるように、通学区を見直すこと。	89	13.2%	39	11.3%	44	10.9%
国が定める標準的な規模(小・中学校ともに12学級以上)を満たさなくなった学校から、順次、適正配置を検討すること。	56	8.3%	18	5.2%	25	6.2%
その他(自由記述)	22	3.3%	4	1.2%	4	1.0%
無回答	25	3.7%	18	5.2%	21	5.2%
計	674	100%	346	100%	404	100%

【その他(自由記載)】

- ・全市で1～2校がよい。
- ・少子化の大町で小学校が4校あるのは、ぜいたくな状況ですが、子どもの通学の面で遠くへバスで通う事や親の送迎が必要な状態になるのが困る。歩行で下肢筋力アップしてほしい。
- ・国の基準にとらわれず、地域ごとに適正配置を検討する。
- ・学校の数よりも、内容を大切に考えて進めていってほしい。
- ・せめて小学校は大町市各地区の文化の中核として残す。中学校は様々な学習や活動が展開できる規模。各中学で工夫できるなら八坂中の規模も可。
- ・各学校に特色を持たせ、学校選択制としてほしい。(大町市を越えて。周辺自治体を含めて)
- ・1学年1組(20人くらい)が維持できなくなったら考える。
- ・通学区を見直しても良いかと思います。我が家は常盤ですが、南小より西小の方が近いです。
- ・数(配置)ではなく、質だと思う。
- ・大町市全体として少子化であるのならば、一つの学校、教員を減らす(対策)
- ・新しく建てる事は必要ない。今ある校舎は使いながら学校区を広げていく。
- ・現在4年生なので今のままで(現在の学校)、卒業まで通えたらよいと思う。
- ・少子化と言われるが、人口増加させる企画を大町市として今まで以上に組み込んで行ってほしい。関東のベッドタウンでは、人口増加著しく、学校も増設されている。
- ・学年にとられない学級編成
- ・少子化を見据えて、統廃合を積極的にすすめるべき
- ・多様な形態があって、選択できることがベストだと考えます。画一的なこれまでのあり方を踏襲する必要はないと思うので。
- ・子どもが学校を選ぶ時代に。数について語る前に、これから未来のために、子どもが何を望

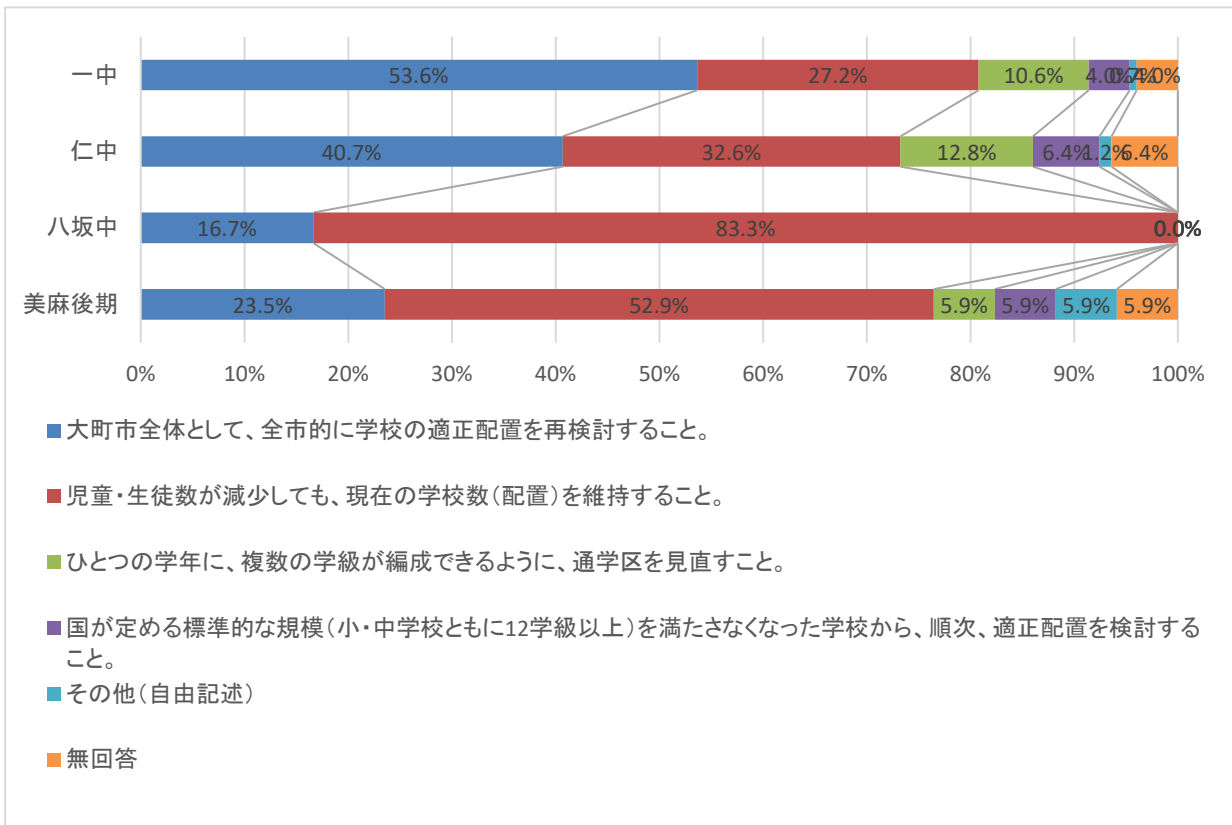
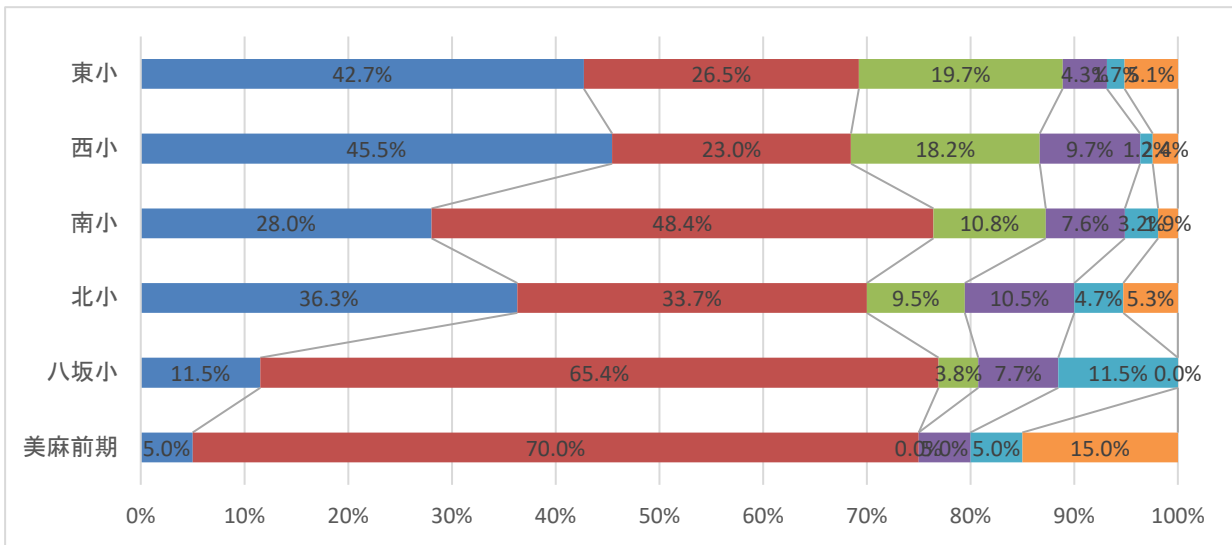
むか、子ども主体に考え直す必要性を感じます。

- ・クラスの人数が少なくても学校が崩壊しているので、このままでよいのでは。
- ・社会でも明らかに使わない知識を勉強しない。
- ・少子化の中で、保育園、小中学校の統合は避けられないと思います。通学方法が（エリアが広くなり）徒歩で困難な場合や子どもの安全を考え、スクールバス等の準備は必須になると思います。また、先生方の職員数が極端に少なくなると不安です。田舎ならではの充実した学習が図れると、移住のセールスポイントになると思います。安心して産み育てられることができなくなれば、人は来ないと思います。
- ・通学時間の問題があるので解決策があれば見直してもよい。
- ・その地域の近い所の学校に通学するのがよい。



全体集計では、小・中学校とも「大町市全体として、全市的に学校の適正配置を再検討すること」が一番多いが、市民アンケートと比べると低い値であった。ただ、「ひとつの学年に、複数の学級が編成できるように、通学区を見直すこと」、「国が定める標準的な規模を満たさなくなった学校から、順次、適正配置を検討すること」を含めると、市民アンケート同様に、約6割となる。一方で「児童・生徒数が減少しても、現在の学校数(配置)を維持すること」が市民アンケート結果より若干高い値を示している。

【学校別】



学校別で見ると、「大町市全体として、全市的に学校の適正配置を再検討すること。」「ひとつの学年に、複数の学級が編成できるように、通学区を見直すこと。」の合計が50%を超える学校は、東小、西小、一中、仁中。

「児童・生徒数が減少しても、現在の学校数(配置)を維持すること。」が多い学校は、南小、八坂小、八坂中、美麻小中学校。

資料7 教員配当基準

(H9.4.1 長野県改定)

専科は、小学校は40人基準の学級数
 中学校は実学級数による
 ただし、生徒指導加配は40人基準の学級数による

[小学校教員配当基準]

[中学校教員配当基準]

学級数	校長	教頭	担任	専科	合計
1	1	1	1		3
2	1	1	2		4
3	1	1	3		5
4	1	1	4		6
5	1	1	5		7
6	1	1	6	1	9
7	1	1	7	1	10
8	1	1	8	1	11
9	1	1	9	1	12
10	1	1	10	1	13
11	1	1	11	1	14
12	1	1	12	1	15
13	1	1	13	1	16
14	1	1	14	2	18
15	1	1	15	2	19
16	1	1	16	2	20
17	1	1	17	2	21
18	1	1	18	2	22
19	1	1	19	2	23
20	1	1	20	2	24
21	1	1	21	2	25
22	1	1	22	2	26
23	1	1	23	2	27
24	1	1	24	2	28
25	1	1	25	2	29
26	1	1	26	3	31
27	1	1	27	3	32
28	1	1	28	3	33
29	1	1	29	3	34
30	1	1	30	3	35
31	1	1	31	3	36
32	1	1	32	3	37
33	1	1	33	4	39
34	1	1	34	4	40
35	1	1	35	4	41
36	1	1	36	4	42
37	1	1	37	4	43
38	1	1	38	4	44
39	1	1	39	4	45
40	1	1	40	4	46

学級数	校長	教頭	担任	専科	生指	合計
1	1	1	1			3
2	1	1	2	2		6
3	1	1	3	4		9
4	1	1	4	3		9
5	1	1	5	3		10
6	1	1	6	3		11
7	1	1	7	4		13
8	1	1	8	5		15
9	1	1	9	5		16
10	1	1	10	6		18
11	1	1	11	6		19
12	1	1	12	6		20
13	1	1	13	6		21
14	1	1	14	7		23
15	1	1	15	7		24
16	1	1	16	7	1	26
17	1	1	17	8	1	28
18	1	1	18	9	1	30
19	1	1	19	10	1	32
20	1	1	20	10	1	33
21	1	1	21	10	1	34
22	1	1	22	11	1	36
23	1	1	23	11	1	37
24	1	1	24	11	1	38
25	1	1	25	12	1	40
26	1	1	26	13	1	42
27	1	1	27	13	1	43
28	1	1	28	13	1	44
29	1	1	29	14	1	46
30	1	1	30	14	1	47
31	1	1	31	15	1	49
32	1	1	32	16	1	51
33	1	1	33	16	1	52
34	1	1	34	17	1	54
35	1	1	35	17	1	55
36	1	1	36	17	1	56
37	1	1	37	17	1	57
38	1	1	38	18	1	59
39	1	1	39	18	1	60
40	1	1	40	18	1	61

(注) 学級数には、特別支援学級を含む。

資料 8 研究部会が出された意見

義務教育あり方検討委員会 研究部会の報告資料

令和元年 11 月 6 日

- 1 市内各学校長より聞き取り調査を実施（夏休み中に各学校を訪問）
前回（7月3日）のあり方検討委員会での議論を受け、研究部会として学校現場が児童生徒数の減少によって、どのような問題を抱えていくのかを具体的に把握した。
※資料「少子化の進展にともなう自校の課題」を参照
- 2 第2回研究部会（10月16日）
 - (1) 1の調査結果についての話し合いによって、児童生徒数減少に伴って学校現場が現在、実に色々な不安を抱えながら日々の教育活動に取り組んでいる実態を理解。
 - 西・南・北小では来年新生が1クラスになって学級数が減ることで理科教師が配置できなくなる心配・・・専門性を生かした学習ができないことで学力にも影響。
 - 一中では来年新生が2クラスとなるために学校全体として教員2名が減り、これまで実施してきた少人数指導や習熟度別指導など多様な指導体制が組めない心配。
 - 小中共に教員が減ることによって一人当たりの校務の負担の増加や、授業の補充が厳しくなる結果、研修や出張に出にくくなったり年休が取りにくくなる心配。
 - 児童生徒数の減少によって多様な経験や考えを出し合いながらの学習や球技種目や合唱などの集団学習の機会が失われる心配。・・・・・・・・等々
 - (2) 事務局が捉える課題
 - 各校の耐震化は完了しているが、築30年を経過しており老朽化が著しい。
 - 規模の大小にかかわらず一定の施設、事務員等職員の配置が必要となる。
 - 通学区と行政区（公民館活動や育成会活動等）の違いから生じる問題・・・等々
 - (3) 第2回保護者アンケート結果
 - 全体集計では、小・中学校とも「大町市全体として、全市的に学校の適正配置を再検討すること」が多数であるが、市民アンケートと比べると低い値であった・・・等々

通学区の見直しと再編についても検討を進めることとなり、旧市内の小学校4校と中学校2校については、国が標準として示す小中学校ともに12学級以上18学級以下の学校規模に基づき、小学校2校と中学校1校を基本に通学区の見直しと再編を行い、美麻と八坂の学校については、小規模校としての特徴を生かしながら山村留学制度や特認校制度の活用や地域コミュニティと一体となった学校づくりに取り組んでいるところから、当面は、現状を維持していく方針となった。

- 3 第3回研究部会（11月1日）
国が法令上の標準として示している小・中学校ともに12学級以上18学級以下の規模に基づき「小学校2校、中学校1校」について検討。

- (1) 中学校 2 校を 1 校に再編した場合
 - 施設面では仁科台中は学年 6 クラス、第一中は学年 5 クラスの規模で設計されているため、今後の学級数の動向にもよるが、どちらでも現在のままで利用可能と考えられる。
 - 通学方法についても、徒歩・自転車・電車・スクールバスと、現在の生徒の通学方法の中で範囲や方法を再編することで解決可能と見込まれる。
- (2) 小学校 4 校を 2 校に再編した場合
 - 旧大町市の地理的状况から子どもたちの通学時間や通学距離を考えた場合、南部と北部に学校を配置することが適当。
 - 地域に根ざした学校づくりを進めていく上からも通学区と行政区域との関係（特に公民館活動や育成会活動等の関係）を大事にしていくことが必要。このため、2 校とする場合、それぞれの学校を同規模とすることにはこだわらず、地域との関係を大事に再編した方が良い。
 - 各小学校の耐震化は実施済であるが、全体としての老朽化が否めない。再編に合わせて施設面で計画的な改修や整備は必要。
- (3) 小学校を 3 校あるいは 1 校に再編した場合の検討
 - 3 校にした場合は、いずれ再編の検討が必要となる。
 - 小学校を 1 校にまとめた場合、全校で 900 名規模、各学年 5 クラスとなり、国が示す適正規模を超え非常に大きな学校になってしまい、行事等子どもたちの活動面からは小回りがきかず動きにくいものになってしまう。
- (4) その他（要望・意見）
 - 委員会で検討している現在の内容について、市民や小中学校の児童生徒の保護者はもとより、幼稚園児や保育園児の保護者からの意見の収集や周知のため、広報についてさらに工夫をしていかなければならない。
 - 児童生徒数減少の課題のみならず、市として幼児教育から小・中学校まで一貫した教育を推進する上での明確な目標設定とその実現に向け、教育委員会と子育て部局の一元化等にも着手して欲しい。